

令和7年度

羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 次第

日 時 令和 7 年 8 月 27 日 (水) 午後 7 時～
場 所 羽咋市役所 401 会議室

1. 開会【19:00】
2. 市長あいさつ【19:05】
3. 委員等の紹介及び総合戦略会議組織について（正副会長の選任）【19:05～19:10】
【別紙1】令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員等名簿
4. 会議の公開及び会議録等の取り扱い等について【19:10～19:15】
【別紙2】羽咋市会議公開に関する要綱
5. 報告事項【19:15～19:50】
 - (1)【別紙3】羽咋市の人口推移について
 - ①羽咋市の人口推移（平成26年度～令和6年度実績）
 - ②外国人増減比較表
 - ③年齢区分別人口推移
 - ④羽咋市の社会動態の分析
 - ⑤近隣市町の住基人口に対する人口動態の状況
 - ⑥近隣市町の人口の減少率（直近7年間）
 - ⑦総人口に占める20代～30代の男女別推移
 - (2)輝く羽咋デジタル総合戦略の効果・検証結果（案）について
【別紙4】輝く羽咋デジタル総合戦略の一部改訂（案）について
【別紙5】令和7年度 輝く羽咋デジタル総合戦略 効果検証（案） 報告書（概要）
【別紙6】戦略会議における重点審査の流れ
6. 重点審査【19:50～20:50】
各施策の効果検証・評価の決定
【資料1】2024（令和6）年度に基づく全44施策の総合評価（案）一覧表（概要）
【資料2】全44施策の効果検証・評価シート（各委員の意見集約版）
【資料3】事前審査結果及び重点審査する施策
7. 講評【20:50～21:00】
8. その他（事務連絡等）【21:00～21:05】
9. 閉会【21:10】

R7.8.27 令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 資料

令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

配布資料一覽

令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の構成

令和7年8月1日時点

No.	氏名	所属団体等	役職名	種別
1	藤本 裕子	羽咋市商工会	理事	産
②	中田 昌宏	はくい市観光協会	会長	産
3	杉浦 繁	株式会社ハクイ村田製作所	取締役工場長	産
4	澤田英三郎	はくい農業協同組合	代表理事常務	産
5	出村 太一	日本郵便株式会社	羽咋千里浜郵便局長	産
⑥	新濃 道子	七尾公共職業安定所 羽咋出張所	所長	官・労
7	出雲 香苗	羽咋市教育委員会	教育委員	官・学・住民
⑧	立中 善英	羽咋市校長会	瑞穂小学校 校長	学
⑨	小松 圭介	日本政策金融公庫 金沢支店	支店長	金
⑩	林 寿嗣	羽咋市銀行会	のと共栄信用金庫羽咋支店長	金
11	上田 清春	羽咋地域ライフ・サポートセンター	幹事	労
⑫	室屋 祐太	株式会社北國新聞社	羽咋総局長	言
⑬	島崎 勝弘	株式会社中日新聞社北陸本社	通信局長	言
14	西 敏之	西司法書士事務所	代表	士
⑮	酒井 三津雄	羽咋市町会長連合会	会長	住民
16	番匠 未樹	羽咋市青年団協議会	会長	住民
17	松田 孝司	羽咋市社会福祉協議会	会長	住民(福祉)
18	浜辺 正実	羽咋市スポーツ協会	副会長	住民(公財)
19	夏嶋 里帆	公募委員		住民

オブザーバー

○	宮田 和朗	北陸財務局	総務課長	官
	大島 和宏	石川県中能登総合事務所	所長	官

アドバイザー

高山 純一	公立小松大学 サステイナブルシステム科学研究所	教授	学
平子 紘平	金城大学 総合経済学部総合経済学科	准教授/博士(工学)	学

R7.8.27 令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 資料

(会議の開催の公表)

○羽咋市会議公開に関する要綱

平成15年3月31日告示第25号

羽咋市会議公開に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、羽咋市まちづくり基本条例（平成14年羽咋市条例第37号）第18条に規定する市の執行機関に置く附属機関等の会議（以下「会議」という。）の公開基準に関し必要な事項を定め、会議運営の公正の確保及び透明性の向上を図り、市民参加及び開かれた市政の推進に寄与することを目的とする。

(会議の公開基準)

第2条 会議は、原則として公開するものとする。ただし、法令又は条例等の規定により非公開とされている場合は非公開とするものとし、会議の内容が次の各号の一に該当する場合は、当該会議を非公開とすることができるものとする。

- (1) 法令等の規定により保護することとされている秘密に属する事項
- (2) 公開することにより、個人の基本的人権を侵害することになる事項又は不当な不利益を及ぼすおそれがある事項
- (3) 法人その他の団体（以下「法人等」という。）又は個人が営む事業に関する事項で、公開することにより、事業活動上の信用等を損ない、当該法人等又は当該個人の事業活動における正当な利益を害すると認められる事項
- (4) 市の機関内部若しくは機関相互間又は市の機関と国等の機関相互間における事業に関する事項で、公開することにより、当該事業の目的が著しく損なわれる事項又は特定の者に不当な利益若しくは不利益を及ぼすおそれがある事項
- (5) その他公開することにより、当該会議の公正かつ円滑な議事運営に著しい支障が生じると認められる事項

(会議の非公開の措置)

第3条 執行機関の長は、前条の規定に基づき、当該附属機関の会議に諮り、当該会議の全部又は一部を非公開とすることができます。

2 執行機関の長は、前条の規定により、当該会議の全部又は一部を非公開とする決定をしたときは、その理由を明らかにしなければならない。

第4条 附属機関は、当該附属機関が会議を開催するときは、あらかじめ、会議の日時、場所、案件、公開の可否、傍聴者の定員及び傍聴手続きを公表するものとする。ただし、会議を緊急に開催する必要が生じたときは、この限りでない。

2 会議の開催の公表は、市広報紙、市ホームページ及び市掲示場等へ掲載することによって行うものとする。

(公開の方法)

第5条 会議の公開は、会場に傍聴席を設け、希望者に傍聴を認めること及び会議資料を提供することにより行うものとする。

(結果の公表)

第6条 附属機関は、公開した会議の会議録及び会議資料を市民の閲覧に供すること等により、会議の結果を公表するよう努めるものとする。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

①羽咋市の人口推移(平成26年度～令和6年度実績)

※令和2年国調を基準とした人口動態推計

1. 現状(令和7年4月1日現在)

(1)令和7年4月1日の目標値	19,122 人	…①
(2)令和7年4月1日の実績値	18,818 人	…②
(3)令和7年4月1日の社人研推計値(仮定値)	18,869 人	…③
(4)目標値と実績の差(②-①)	▲ 304 人	
(5)実績と社人研推計値の差(②-③)	▲ 51 人	

2. 人口増減表

No.	区分	コロナ前基準										
		H26年度 年度実績	H27年度 年度実績	H28年度 年度実績	H29年度 年度実績	H30年度 年度実績	R1年度 年度実績	R2年度 年度実績	R3年度 年度実績	R4年度 年度実績	R5年度 年度実績	
1	目標人口 ① (年度末)	-	21,526	21,319	21,131	20,925	20,698	20,096	19,853	19,609	19,365	19,122
2	人口実績 ②(※3)	21,820	21,558	21,653	21,360	20,947	20,546	20,146	19,767	19,387	19,086	18,818
3	前年比	▲ 303	▲ 262	95	▲ 293	▲ 413	▲ 401	▲ 400	▲ 379	▲ 380	▲ 301	▲ 268
4	実績②-目標①	-	32	334	229	22	▲ 152	50	▲ 86	▲ 222	▲ 279	▲ 304
5	社人研推計 ③	-	(※1)21,636	(※2)21,399	(※2)21,037	(※2)20,670	(※2)20,369	(※2)20,071	(※2)19,776	(※2)19,481	(※2)19,128	(※2)18,869
6	実績②-社人研③	-	▲ 78	254	323	277	177	75	▲ 9	▲ 94	▲ 42	▲ 51
7	人口動態	▲ 303	▲ 243	▲ 199	▲ 293	▲ 413	▲ 401	▲ 400	▲ 379	▲ 380	▲ 301	▲ 254
8	自然動態	▲ 163	▲ 197	▲ 178	▲ 205	▲ 223	▲ 193	▲ 261	▲ 260	▲ 315	▲ 315	▲ 258
9	出生(子育て支援)	144	105	117	104	95	113	104	86	96	86	82
10	死亡(健康寿命延伸)	307	302	295	309	318	306	365	346	411	401	340
11	社会動態	▲ 140	▲ 46	▲ 21	▲ 88	▲ 190	▲ 208	▲ 139	▲ 119	▲ 65	14	4
12	転入	537	504	561	517	476	527	443	437	530	562	580
13	前年比	51	▲ 33	57	▲ 44	▲ 41	10	▲ 33	▲ 6	93	32	18
14	県内転入	288	294	313	300	281	298	260	261	301	307	323
15	県外転入	249	210	258	217	195	229	183	176	229	255	257
16	転出	677	550	582	605	666	735	582	556	595	548	576
17	前年比	29	▲ 127	32	23	61	130	▲ 84	▲ 26	39	▲ 47	28
18	県内転出	423	354	292	329	364	399	354	349	327	307	335
19	県外転出	254	196	290	276	302	336	228	207	268	241	241
	うち外国人口	81	97	153	196	181	151	154	137	154	211	242
	前年比	2	16	56	43	▲ 15	▲ 30	3	▲ 17	17	57	31

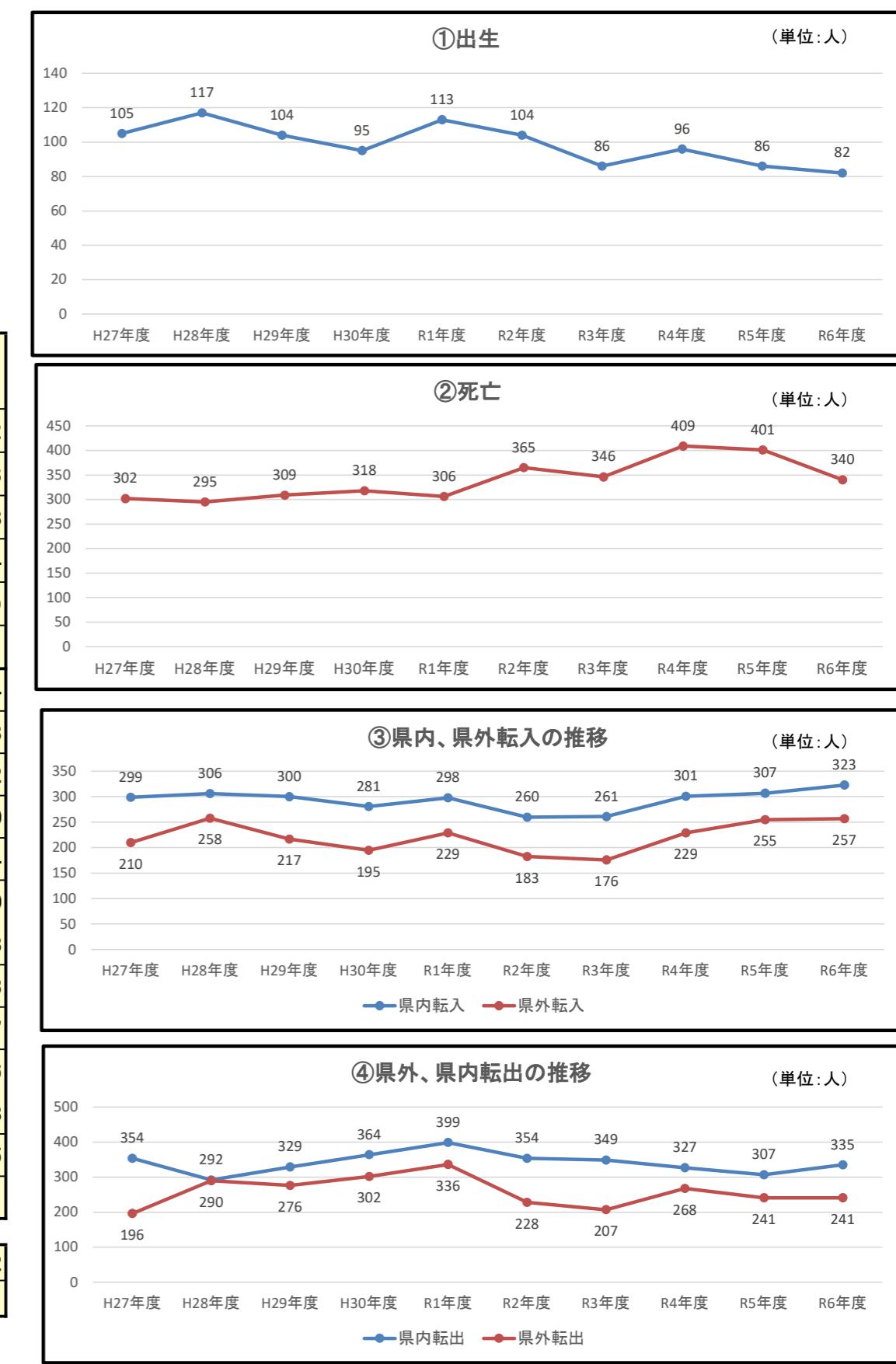
(※1)国勢調査(2015年)による実績値を基に推測

(※2)SCOP作成の人口分析報告書内にある、国勢調査(2015年)の実績値を基に、住民基本台帳の人口異動を考慮した10/1時点の推計から推測

(※3)人口実績には自然動態・社会動態以外の増減(実態調査による消除等)が含まれているため、前年度実績から人口動態の増減数との差と一致しない

R7.8.27 令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

人口動態の推移(グラフ)



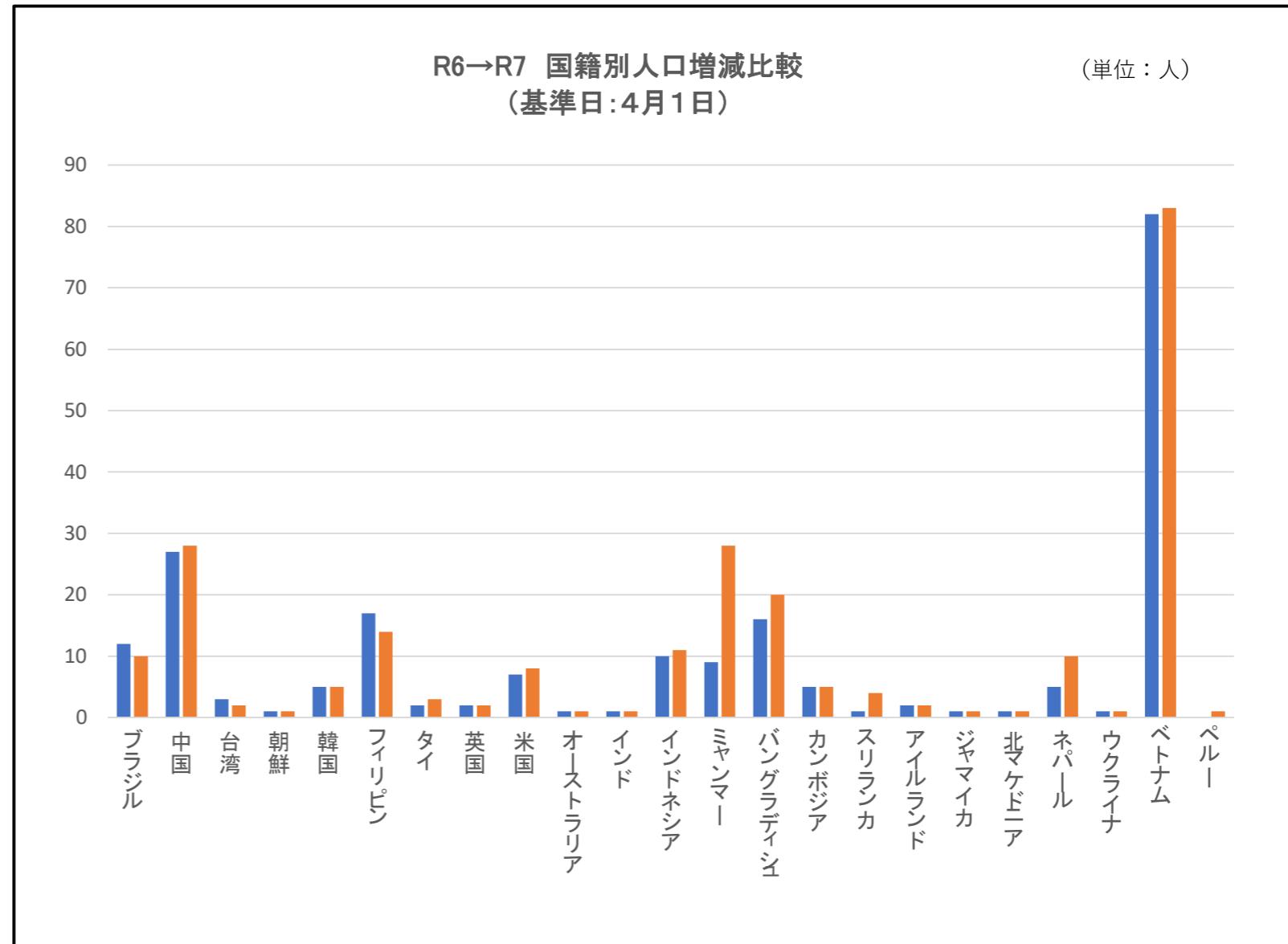
②外国人増減比較表

(単位:人)

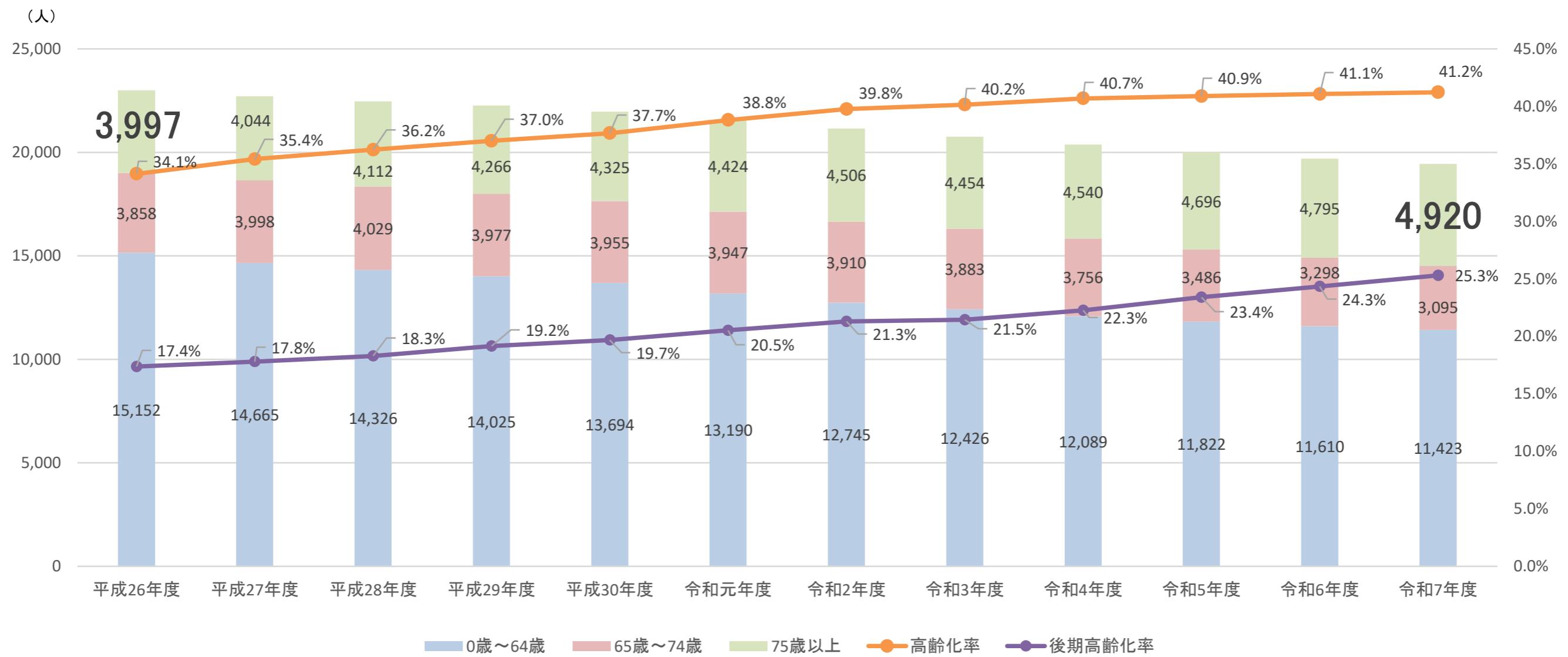
国籍	R6.4.1	R7.4.1	増減数	主な増減理由
ブラジル	12	10	-2	
中国	27	28	1	
台湾	3	2	-1	
朝鮮	1	1	0	
韓国	5	5	0	
フィリピン	17	14	-3	
タイ	2	3	1	
英國	2	2	0	
米国	7	8	1	
オーストラリア	1	1	0	
インド	1	1	0	
インドネシア	10	11	1	市内事業者が、外国人労働者を技能実習生や派遣社員として雇用し、人手不足を補っている。
ミャンマー	9	28	19	
バングラディッシュ	16	20	4	
カンボジア	5	5	0	
スリランカ	1	4	3	
アイルランド	2	2	0	
ジャマイカ	1	1	0	
北マケドニア	1	1	0	
ネパール	5	10	5	
ウクライナ	1	1	0	
ベトナム	82	83	1	
ペルー	0	1	1	
合計	211	242	31	

R6→R7 国籍別人口増減比較
(基準日:4月1日)

(単位:人)



③年齢区分別人口推移



	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
0歳～64歳	15,152	14,665	14,326	14,025	13,694	13,190	12,745	12,426	12,089	11,822	11,610	11,423
65歳～74歳	3,858	3,998	4,029	3,977	3,955	3,947	3,910	3,883	3,756	3,486	3,298	3,095
75歳以上	3,997	4,044	4,112	4,266	4,325	4,424	4,506	4,454	4,540	4,696	4,795	4,920
総数	23,007	22,707	22,467	22,268	21,974	21,561	21,161	20,763	20,385	20,004	19,703	19,438
高齢化率	34.1%	35.4%	36.2%	37.0%	37.7%	38.8%	39.8%	40.2%	40.7%	40.9%	41.1%	41.2%
後期高齢化率	17.4%	17.8%	18.3%	19.2%	19.7%	20.5%	21.3%	21.5%	22.3%	23.4%	24.3%	25.3%

④羽咋市の社会動態の分析について

1 【県内】令和6年度における羽咋市の社会動態人口

市町	転入	転出	転入－転出	(単位:人)
合計	323	335	▲ 12	
能登地方	珠洲市	4	0	4
	輪島市	27	4	23
	能登町	3	0	3
	穴水町	9	1	8
	七尾市	51	24	27
	志賀町	41	11	30
	中能登町	34	12	22
	宝達志水町	23	36	▲ 13
加賀地方	かほく市	19	54	▲ 35
	津幡町	7	23	▲ 16
	内灘町	3	4	▲ 1
	金沢市	70	112	▲ 42
	野々市市	9	11	▲ 2
	川北町	0	0	0
	能美市	6	6	0
	小松市	10	13	▲ 3
	加賀市	1	9	▲ 8
	白山市	6	15	▲ 9

住宅事情: 53%
婚姻等: 18%
その他: 18%
転勤: 4%
就職: 4%

住宅事情: 59%
その他: 27%
婚姻等: 12%

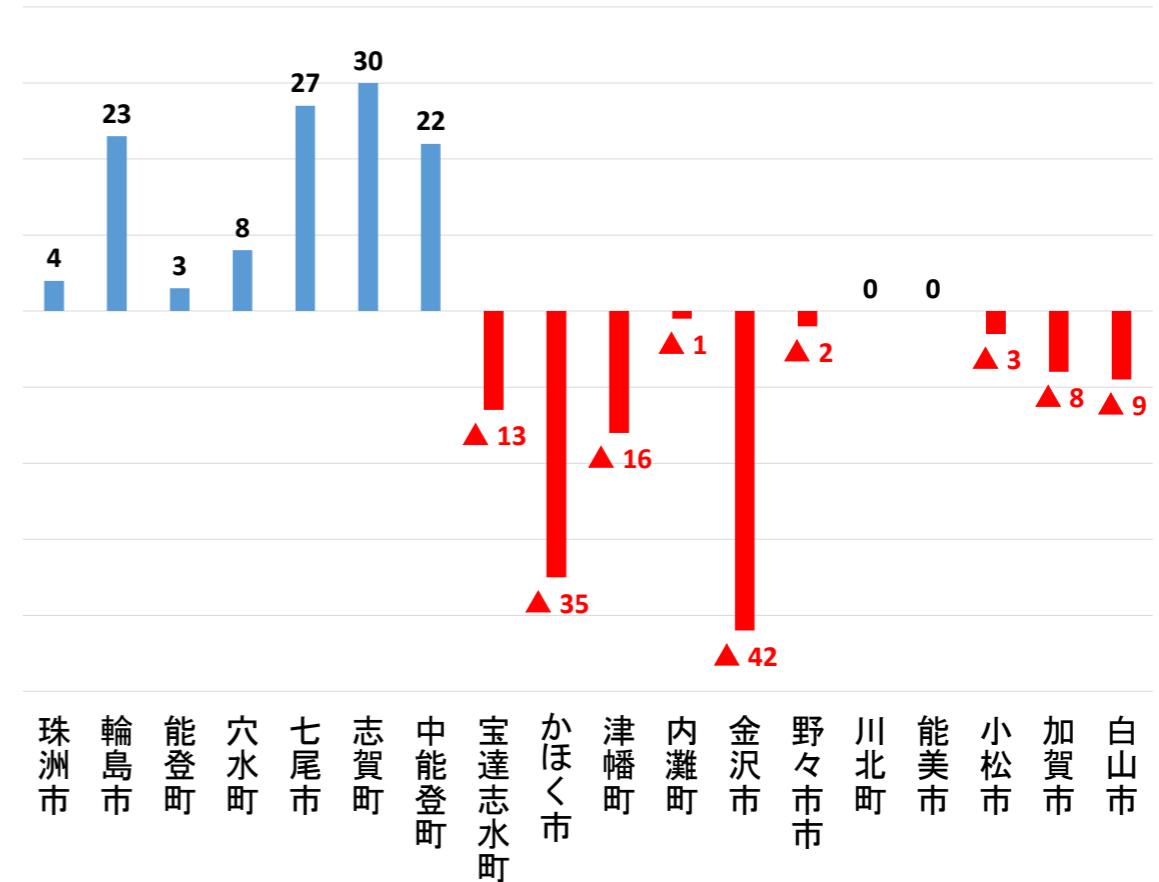
住宅事情: 56%
その他: 18%
転勤: 15%
婚姻等: 9%

住宅事情: 36%
婚姻等: 28%
その他: 28%
転職等転業: 9%

その他: 32%
転勤: 18%
就職: 14%
婚姻等: 13%
転職等転業: 12%
住宅事情: 10%

転職等転業: 27%
その他: 27%
転勤: 13%
就職: 7%
婚姻等: 7%

【県内】令和6年度における社会動態人口グラフ



2 【県外】令和5年度における羽咋市の社会動態人口(主要な異動地別)

転入が多い都道府県	転入	転出	転入－転出	(単位:人)
①国外	71	37	34	就職: 42% うち外国人が82%。
②東京	23	19	4	その他: 43% 転職等転業: 22% 住宅事情: 17% 転勤: 9%
③富山	20	28	▲ 8	その他: 40% 転勤: 15% 住宅事情: 15% 転職等転業: 20%
転出が多い都道府県	転入	転出	転入－転出	
①富山	20	28	▲ 8	転勤: 39% 住宅事情: 21%
②東京	23	19	4	就職: 37% 転職等転業: 11%
③愛知	14	15	▲ 1	
④新潟	1	14	▲ 13	就職: 23% 転勤: 23%
				就職: 93%

3 【異動事由別】転出者(県外転出、県内転出のいずれも含む)の状況

区分	純移動者数(転入－転出)		(単位:人)
	R元年～R5年の平均値	R5年4月～R6年3月まで	
転勤	▲ 11	7	
転職転業等	▲ 7	0	
就職	▲ 33	2	
就学卒業	▲ 13	▲ 10	
婚姻等	▲ 9	▲ 10	
住宅事情	0	44	
その他	▲ 22	▲ 28	
移動する人に伴われるもの	0	▲ 1	
小計	▲ 95	4	

⑤近隣市町の住基人口に対する人口動態の状況

令和7年3月31日時点

	出生		死亡		転入		転出		住基人口
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	
羽咋市	80人	0.41%	341人	1.75%	582人	2.99%	600人	3.08%	19,450人
七尾市	170人	0.37%	925人	2.01%	1,130人	2.46%	1,770人	3.85%	46,010人
かほく市	289人	0.80%	431人	1.19%	1,343人	3.71%	993人	2.74%	36,231人
志賀町	45人	0.26%	384人	2.20%	467人	2.67%	643人	3.68%	17,471人
宝達志水町	43人	0.37%	214人	1.82%	366人	3.11%	354人	3.01%	11,765人
中能登町	67人	0.41%	279人	1.70%	319人	1.95%	462人	2.82%	16,391人

各市町の人口は住民基本台帳を参照

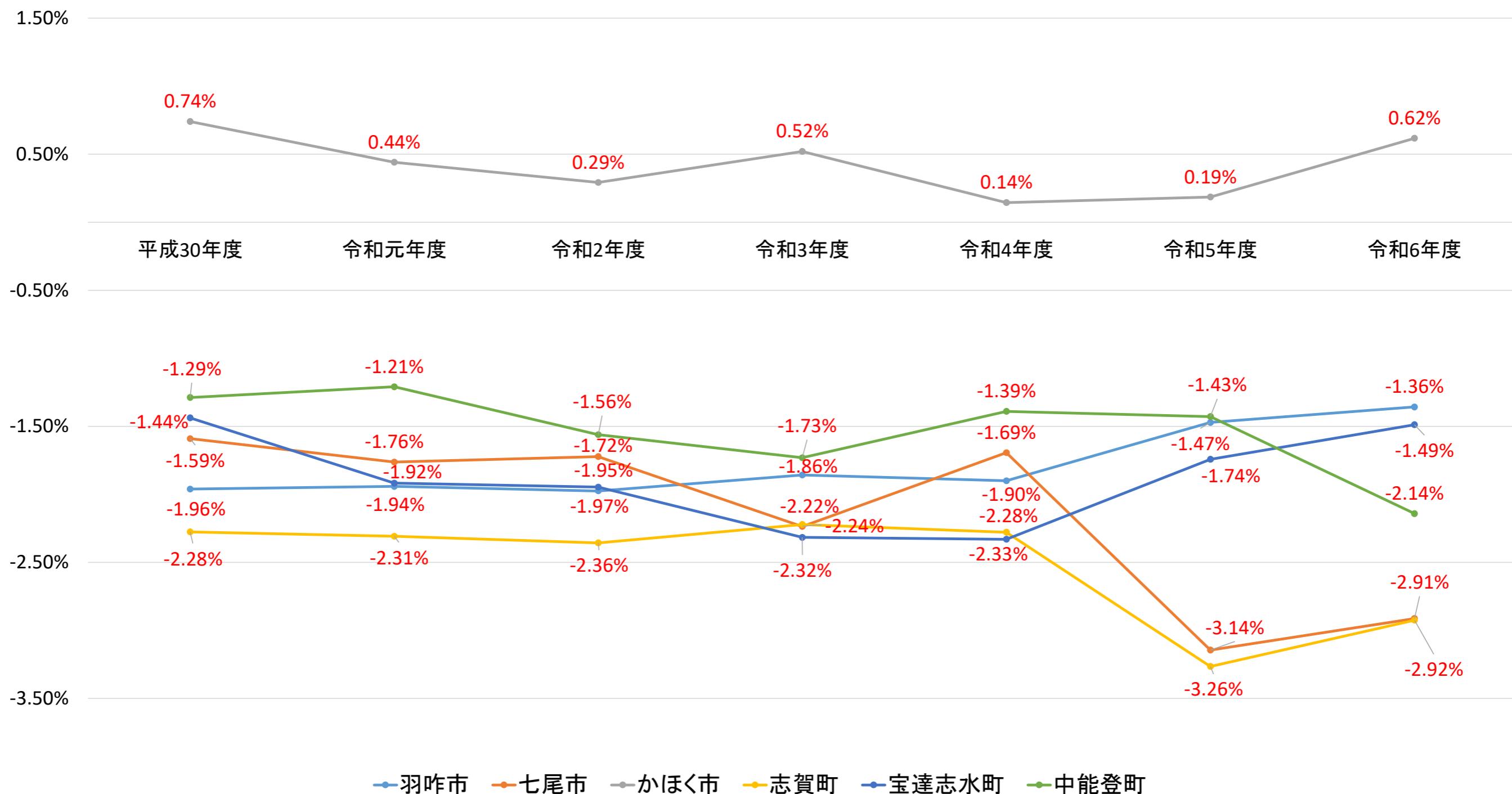
令和6年3月31日時点

	出生		死亡		転入		転出		住基人口
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	
羽咋市	86人	0.44%	401人	2.03%	562人	2.85%	548人	2.78%	19,714人
七尾市	199人	0.42%	911人	1.92%	1,119人	2.36%	1,881人	3.97%	47,350人
かほく市	313人	0.87%	445人	1.24%	1,184人	3.29%	982人	2.73%	36,007人
志賀町	39人	0.22%	398人	2.21%	452人	2.51%	676人	3.76%	17,982人
宝達志水町	35人	0.29%	200人	1.68%	400人	3.35%	450人	3.77%	11,940人
中能登町	61人	0.36%	309人	1.85%	391人	2.34%	385人	2.30%	16,742人

各市町の人口は住民基本台帳を参照

出展:いしかわ統計指標ランド

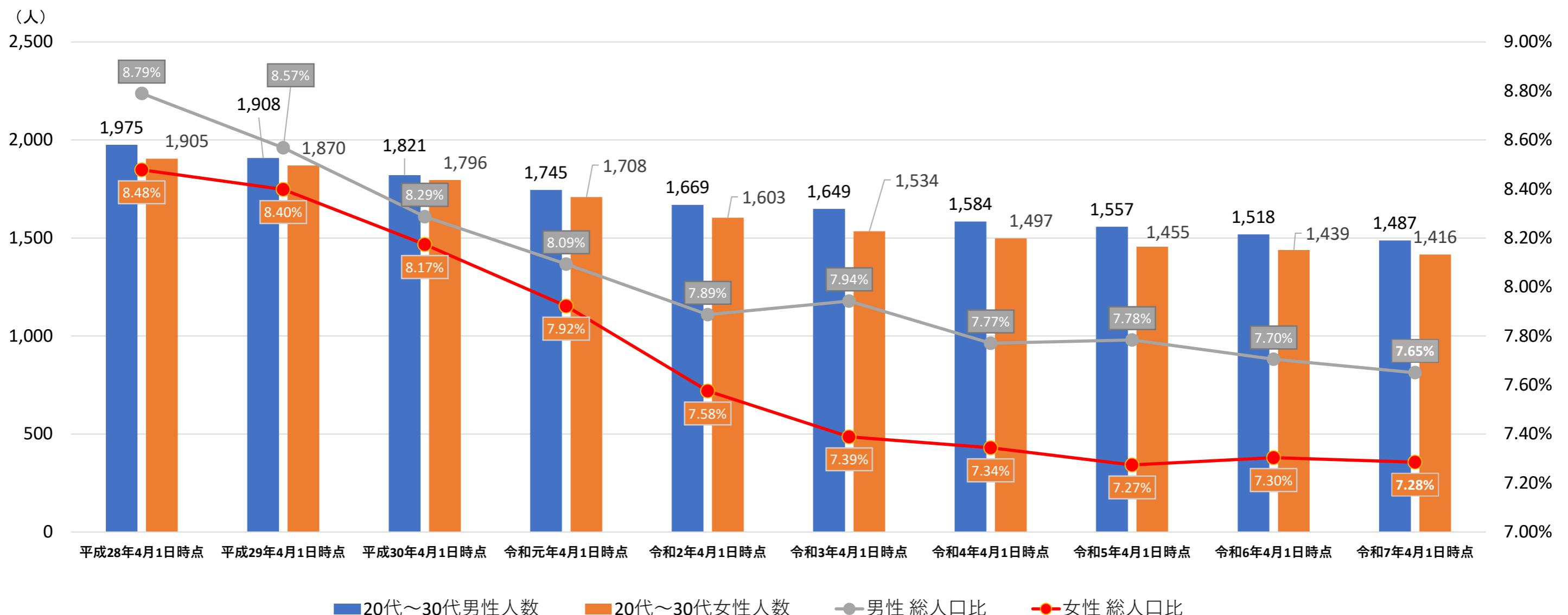
⑥羽咋市の近隣市町の人口の減少率(直近7年間)



	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	4月1日人口	人口動態	減少率	4月1日人口	人口動態	減少率	4月1日人口	人口動態	減少率	4月1日人口	人口動態	減少率	4月1日人口	人口動態	減少率	4月1日人口	人口動態	減少率	4月1日人口	人口動態	減少率
羽咋市	21,067	-413	-1.96%	20,652	-401	-1.94%	20,257	-400	-1.97%	20,399	-379	-1.86%	20,004	-380	-1.90%	19,714	-290	-1.47%	19,450	-264	-1.36%
七尾市	53,256	-847	-1.59%	52,409	-924	-1.76%	51,485	-887	-1.72%	49,660	-1,110	-2.24%	48,839	-827	-1.69%	47,350	-1,489	-3.14%	46,010	-1,340	-2.91%
かほく市	34,414	255	0.74%	34,669	153	0.44%	34,822	102	0.29%	35,882	187	0.52%	35,940	52	0.14%	36,007	67	0.19%	36,231	224	0.62%
志賀町	19,421	-442	-2.28%	18,979	-438	-2.31%	18,541	-437	-2.36%	19,000	-422	-2.22%	18,569	-423	-2.28%	17,982	-587	-3.26%	17,471	-511	-2.92%
宝達志水町	12,592	-181	-1.44%	12,411	-238	-1.92%	12,173	-237	-1.95%	12,393	-287	-2.32%	12,148	-283	-2.33%	11,940	-208	-1.74%	11,765	-175	-1.49%
中能登町	17,015	-219	-1.29%	16,796	-203	-1.21%	16,593	-259	-1.56%	17,222	-298	-1.73%	16,981	-236	-1.39%	16,742	-239	-1.43%	16,391	-351	-2.14%

⑦総人口に占める20代～30代の男女別推移(一覧)

	20代男性	30代男性	男性 合計	男性 総人口比	20代女性	30代女性	女性 合計	女性 総人口比	総人口
令和7年4月1日時点	742	745	1,487	7.65%	714	702	1,416	7.28%	19,438
令和6年4月1日時点	756	762	1,518	7.70%	721	718	1,439	7.30%	19,703
令和5年4月1日時点	771	786	1,557	7.78%	737	718	1,455	7.27%	20,004
令和4年4月1日時点	792	792	1,584	7.77%	755	742	1,497	7.34%	20,386
令和3年4月1日時点	820	829	1,649	7.94%	758	776	1,534	7.39%	20,763
令和2年4月1日時点	817	852	1,669	7.89%	778	825	1,603	7.58%	21,161
令和元年4月1日時点	822	923	1,745	8.09%	822	886	1,708	7.92%	21,561
平成30年4月1日時点	864	957	1,821	8.29%	871	925	1,796	8.17%	21,974
平成29年4月1日時点	881	1,027	1,908	8.57%	878	992	1,870	8.40%	22,268
平成28年4月1日時点	905	1,070	1,975	8.79%	869	1,036	1,905	8.48%	22,469



輝く羽咋市デジタル総合戦略の一部改訂（案）について

1. 改訂理由

令和6年能登半島地震の教訓から、基本目標IVに掲げる「安全・安心な生活環境をつくる」の実現に向け、「地震発生時の人的被害を減らす」ことに主眼を置き、建造物の耐震化を促進することは、被災地での初期支援に参加可能な人員が増加することや災害廃棄物の抑制、仮設住宅建設経費負担の軽減、倒壊家屋による道路閉塞の防止など、個人の生命と財産を守るだけでなく、地域社会全体の安全と安定に貢献する重要な取り組みであることから、総合戦略に掲げる具体的施策と重要業績評価指標（KPI）を精査し、より適した内容に変更を行うもの。

2. 主な改訂内容

(1) 「基本目標IV 安全・安心な生活環境をつくる」における「2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築」に掲げる「(1) 老朽空き家対策の強化、被災家屋・空き家等の解体」を「(1) 住宅耐震化率の向上、老朽空き家対策」に変更し、その重要業績評価指標（KPI）を「・老朽空き家の応急処置等に関する改善件数」から「・住宅の耐震化率」に変更する。（P25）

詳細は、総合戦略改訂（案）参照

2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築

(1)老朽空き家対策の強化、被災家屋・空き家等の解体

人口減少とともに増える空き家が危険家屋とならないよう、応急対応処置を図るとともに、必要に応じ行政指導も行う。また、被災して住むことができなくなった住居や空き家などの解体支援に取り組む。

重要業績評価指標(KPI)

- ・老朽空き家の応急処置等に関する改善件数

8箇所(R元年度～R4年度) → 8箇所(R6年度～R9年度)

■具体的な事業

- ・老朽空き家等に対する適切な助言、指導等
- ・住まいの耐震化の支援
- ・空き家の利活用・除却の支援
- ・住むことができなくなった被災住宅、空き家・納屋などの解体支援（公費解体、費用償還）

2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築

(1)住宅耐震化率の向上、老朽空き家対策

能登半島地震を教訓に、住宅の耐震診断及び耐震改修を促進し、市内の建造物の耐震化を図る。人口減少とともに増える空き家が危険家屋とならないよう、応急対応処置を図るとともに、必要に応じ行政指導も行う。また、被災して住むことができなくなった住居や空き家などの解体支援に取り組む。

重要業績評価指標(KPI)

- ・住宅の耐震化率

64%箇所(H30年度) → 78%(R9年度)

■具体的な事業

- ・老朽空き家等に対する適切な助言、指導等
- ・住まいの耐震化の支援
- ・空き家の利活用・除却の支援
- ・住むことができなくなった被災住宅、空き家・納屋などの解体支援（公費解体、費用償還）

(2)防災・減災対策の強化

災害による被害を未然に防ぐため、がけ地や住宅浸水の対策、道路・側溝・調整池に関する冠水対策工事を実施する。また、IoTやAI、ドローンなどを活用し、災害リスクの低下につなげる。併せて、被災による危険リスクを下げるため、危険ブロック塀の解体支援を積極的に進める。

重要業績評価指標(KPI)

- ①がけ地対策工事支援の申請件数

2件（令和4年度）→ 3件（令和9年度）

- ②冠水箇所改善件数

2箇所（令和4年度）→ 5箇所（令和9年度）

■具体的な事業

- ・がけ地対策工事の推進
- ・住宅浸水対策への支援
- ・IoT、AIなどのデジタル技術やドローンを活用した防災・災害対策及び支援
- ・各種災害情報ツールの有効活用（メール、HP、LINE、結ネットⁱの効果的活用）
- ・GPSやIoTを活用したデータに基づく測量、防災・減災対応
- ・道路のかさ上げ工事
- ・側溝整備等による排水能力の向上
- ・調整池の整備
- ・危険ブロック塀の撤去

(2)防災・減災対策の強化

災害による被害を未然に防ぐため、がけ地や住宅浸水の対策、道路・側溝・調整池に関する冠水対策工事を実施する。また、IoTやAI、ドローンなどを活用し、災害リスクの低下につなげる。併せて、被災による危険リスクを下げるため、危険ブロック塀の解体支援を積極的に進める。

重要業績評価指標(KPI)

- ①がけ地対策工事支援の申請件数

2件（令和4年度）→ 3件（令和9年度）

- ②冠水箇所改善件数

2箇所（令和4年度）→ 5箇所（令和9年度）

■具体的な事業

- ・がけ地対策工事の推進
- ・住宅浸水対策への支援
- ・IoT、AIなどのデジタル技術やドローンを活用した防災・災害対策及び支援
- ・各種災害情報ツールの有効活用（メール、HP、LINE、結ネットⁱの効果的活用）
- ・GPSやIoTを活用したデータに基づく測量、防災・減災対応
- ・道路のかさ上げ工事
- ・側溝整備等による排水能力の向上
- ・調整池の整備
- ・危険ブロック塀の撤去

(3)地域における防災拠点の整備

各地域においても防災備品を充実することで、有事でも対応できるよう十分な備えを行う。また、地域で防災備品をストックできるよう、分散型拠点スペースの計画的設置に取り組む。

重要業績評価指標(KPI)

- ・防災備品ストックのための分散拠点数

6箇所（令和4年度）→ 10箇所（令和9年度）

(3)地域における防災拠点の整備

各地域においても防災備品を充実することで、有事でも対応できるよう十分な備えを行う。また、地域で防災備品をストックできるよう、分散型拠点スペースの計画的設置に取り組む。

重要業績評価指標(KPI)

- ・防災備品ストックのための分散拠点数

6箇所（令和4年度）→ 10箇所（令和9年度）

ⁱ 結ネットとは、町会回覧板をはじめとする町会ネットワークをデジタル化することを主目的とするアプリケーション。

ⁱ 結ネットとは、町会回覧板をはじめとする町会ネットワークをデジタル化することを主目的とするアプリケーション。

基本目標別「数値目標」の進捗状況

別紙5

R7.8.27 令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

基本目標Ⅰ

働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる

No.	数値目標項目	基準値	目標値	実績値	達成度	年度別			
		R4年度	R9年度	(R6年度末現在)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
1	市内の全産業の事業者数	1,099 事業者	1,000 事業者						
2	市内の全産業の従業者数	9,256人	9,000人		経済センサスにより入力する（5年に一度の調査） 前回：令和4年度 次回：令和9年度				

基本目標Ⅱ

新たなひとの流れをつくる

No.	数値目標項目	基準値	目標値	実績値	達成度	年度別			
		R4年度	R9年度	(R6年度末現在)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
1	転入者数 (R元～R4年度)	1,937 人	2,400 人	580人	24%	580人	-		
2	交流人口数 (観光客入込数)	193万人	300万人	183万人	61%	183万人	-		

基本目標III

女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

No.	数値目標項目	基準値	目標値	実績値	達成度	年度別			
		R4年度	R9年度	(R6年度末現在)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
1	こども女性比	0.157	0.217	0.156	71%	0.156	-	-	-
2	中学校3年生の国語、数学の全国学力・学習状況調査	-	県平均 5P以上維持	2教科平均 +12.0P	240%	国語+8.7P 数学+15.3P	-	-	-

基本目標IV

安全・安心な生活環境をつくる

No.	数値目標項目	基準値	目標値	実績値	達成度	年度別			
		R4年度	R9年度	(R6年度末現在)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
1	運転免許証の 自主返納支援事業申請数	67人	100人	119人	119%	119人	-	-	-
2	市内の年間 交通死亡事故者数	5人 (R元～R4年度)	0人 (R6～R9年度)	1人 (R6年度)	目標未達成	1人	-	-	-

基本目標V

ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

No.	数値目標項目	基準値	目標値	実績値	達成度	年度別			
		R4年度	R9年度	(R6年度末現在)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
1	居住継続希望率	-	90.0%						
				令和9年度にアンケート調査を実施し、評価する					
2	健康寿命 (平均自立期間)	男 79.7歳 女 85.0歳	男 81.0歳 女 86.0歳	男 78.7歳 女 84.5歳	▲2.3歳 ▲1.5歳	男 78.7歳 女 84.5歳			

基本目標VI

スマートシティを推進する

No.	数値目標項目	基準値	目標値	実績値	達成度	年度別			
		R4年度	R9年度	(R6年度末現在)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
1	自治体DX指標の 達成指標数（全23指標）	13指標	20指標	15指標	70%	15指標 -			

R7.8.27 令和 7 年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議資料

輝く羽咋デジタル総合戦略

2024(令和 6)年度実績に基づく
全 44 施策の総合評価(案)一覧表

基本目標別「具体的な施策」評価結果一覧

基本目標 I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる

具体的施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1)地元企業への就職・就業促進	商工観光課 1 地元企業への新規就職者数	269	300	269	90%	○
	商工観光課 2 シルバー人材センターの業務発注件数(累計)	208	250	177	71%	○
	商工観光課 まちづくり課 3 市の事業に基づくテレワーク就業者数(累計)	—	80	7	9%	△
具体的施策 2 就農支援と羽咋ブランド化の強化	農林水産課 4 市内の米、麦、大豆、そばの作付面積	1865.8	1865.8	1778	95%	△
具体的施策 3 創業・起業へのチャレンジ支援	商工観光課 まちづくり課 5 新規創業・起業チャレンジ者数(累計)	37	50	6	12%	△
具体的施策 4 新産業・新事業への支援	商工観光課 6 商工業振興条例に基づく支援事業者数(累計)	4	5	3	60%	○

【基本目標 I】 KPI数	6
○ 取組内容の深化・発展	1
○ 取組内容の継続	2
△ 取組内容の見直し	3
× 取組内容の中止・終了	0

基本目標Ⅱ 新たなひとの流れをつくる

具体的施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)	
(1)地域資源を生かし、デジタル技術を活用した誘客の促進	商工観光課	7 ①市内観光資源(千里浜、柴垣)への来訪者数	877,783	1,000,000	165,410	17% △	
(1)地域資源を生かし、デジタル技術を活用した誘客の促進	文化財課	8 ②妙成寺来訪者数	19,058	25,000	10,378	42% △	
具体的施策 2 インバウンドツーリズムの推進	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1)インバウンドツーリズムの推進	商工観光課	9 外国人宿泊者数	2	2,000	3,321	166% ◎	
具体的施策 3 羽咋の玄関口を起点とした賑わいの創出	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1)羽咋の玄関口を起点とした賑わいの創出	まちづくり課	10 LAKUNAはくい利用者数	—	65,000	274,054	422% ◎	
具体的施策 4 移住関係人口の拡大、都市部との共創	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1)首都圏・大阪圏をはじめとした都市部に向けての本市の魅力発信、移住促進	まちづくり課	11 市の移住相談窓口で対応した移住者数(累計)	123	160	49	31% ◎	
(2)地域おこし協力隊の活用と支援	まちづくり課	12 地域おこし協力隊登用数(累計)	4	10	1	10% ○	
(3)ふるさと納税やワーケーションによる関係人口拡大、震災復興のPR	商工観光課	13 ①ふるさと納税額(千円)	423,244	682,000	557,000	82% ◎	
(3)ふるさと納税やワーケーションによる関係人口拡大、震災復興のPR	まちづくり課	14 ②ワーケーション利用者数	—	100	10	10% △	

【基本目標Ⅱ】 KPI数	8
◎ 取組内容の深化・発展	4
○ 取組内容の継続	1
△ 取組内容の見直し	3
× 取組内容の中止・終了	0

基本目標III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

具体的施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
1 出会いの場の提供、結婚支援の強化						
(1)出会いの場の提供、結婚支援の強化	こども課	15	出会いの場からのカップル成立件数(累計)	16	20	13
65%	◎					
2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実	所管課		重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値
(1)子育て全般に係る経済的負担の軽減と支援	こども課	16	①子育て応援券支給対象となった2子以上世帯の割合	57	60	56
(2)専用アプリをはじめとする子育て支援サービスの浸透	こども課	17	②子育てアプリの登録者数	851	1,000	1,085
93%	○					
109%	◎					
3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	所管課		重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値
(1)利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	地域整備課	18	①住まいづくり奨励金の交付による定住者数(累計)	752	872	154
(2)利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	まちづくり課	19	②空き家・空き地バンク成約件数(累計)	59	80	51
18%	△					
64%	◎					
4 こどもたちの高い学力の育成	所管課		重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値
(1)総合的な学習能力の向上と支援	学校教育課	20	①小学校6年生の国語、算数の全国学力・学習状況調査	5	5	国13.6P算14.6P
(2)グローバル社会に対応した英語教育の推進	学校教育課	21	②中学3年生の英検3級以上取得率	56.1	70	58.4
達成	◎					
83%	○					
5 ひとり親家庭への支援強化	所管課		重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値
(1)ひとり親家庭への支援強化	こども課	22	高等職業訓練給付金による延べ就労支援者数(累計)	2	5	2
40%	○					
6 女性活躍の社会と交流の場の創出	所管課		重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値
(1)女性活躍の社会と交流の場の創出	総務課	23	審議会等における女性委員登用率	25	30	26.4
88%	△					

【基本目標III】 KPI数		9
◎	取組内容の深化・発展	4
○	取組内容の継続	3
△	取組内容の見直し	2
×	取組内容の中止・終了	0

基本目標IV 安全・安心な生活環境をつくる

具体的施策	1 住環境の整備推進	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1)公共施設の計画的な最適化、都市基盤の維持		地域整備課	24 ①橋りょうの集約化(累計)	-	1	0	0%	○
		地域整備課	25 ②狭あい道路の解消(累計)	6	3	0	0%	△
		地域整備課	26 ③未占用箇所数	97	90	96	107%	○
具体的施策	2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1)住宅耐震化率の向上、老朽空き家対策		地域整備課	27 住宅の耐震化率	64	78	68	87%	◎
		地域整備課	28 ①がけ地対策工事支援の申請件数	2	3	1	33%	△
		地域整備課	29 ②冠水箇所改善件数	2	5	0	0%	△
		地域整備課	30 防災備品ストックのための分散拠点数	6	10	2	20%	○
具体的施策	3 市街地と地域を結ぶ有機的な公共交通網の構築	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1)市街地と地域を結ぶ有機的な公共交通網の構築		企画財政課	31 市公共交通利用者数	2.2	2.4	3.18	133%	◎

【基本目標IV】 KPI数		8
◎	取組内容の深化・発展	2
○	取組内容の継続	3
△	取組内容の見直し	3
×	取組内容の中止・終了	0

基本目標V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

具体的施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)	
1 誰もが生涯活躍できるまちの構築							
(1) 健康的な生活を送るための支援	健康福祉課	32 糖尿病(性腎症)による新規透析導入者の割合	40	30	14	- ○	
(2) 介護予防の浸透と交流の場の創出	地域包括ケア推進室	33 介護予防ポイント事業参加者数(実人数)	263	400	440	110% ○	
2 各地域の現状にあった地域づくり、支えあいの仕組みの浸透	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1) 地域の特徴を生かした取り組みの推進	まちづくり課	34 ①地域ごとの住民アンケートに基づく地域の事業実装数(累計)	2	4	2	50%	○
(1) 地域の特徴を生かした取り組みの推進	まちづくり課	35 ②「地域運営組織」設置数	一	1	0	0%	△
(2) 地域共生社会の推進	地域包括ケア推進室	36 生活支援及び介護予防の担い手数	232	350	260	74%	○
3 こどもから高齢者までの幅広い見守り体制の向上	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1) こどもから高齢者までの幅広い見守り体制の向上	生活安全課	37 安全・安心メール登録者数	2,199	4,000	2,598	65%	○
4 郷土教育の推進	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1) 郷土教育の推進	文化財課	38 郷土の歴史を題材とした公開・普及事業の参加者数	2,647	3,000	1,610	54%	△
5 ウィズコロナ・アフターコロナに対応した地域経済の支援・強化	所管課	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)
(1) ウィズコロナ・アフターコロナに対応した地域経済の支援・強化	商工観光課	39 市内サテライトオフィスの利用企業・団体数	2	4	4	100%	○

【基本目標V】 KPI数	8
○ 取組内容の深化・発展	4
○ 取組内容の継続	2
△ 取組内容の見直し	2
× 取組内容の中止・終了	0

基本目標VI スマートシティを推進する

具体的施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)		
1 マイナンバーカードの利活用拡大	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)		
(1)マイナンバーカードの利活用拡大	デジタル推進室	46	マイナンバーカードとの新規連携事業数	0	2	1	50%	○
2 ビッグデータの有効活用	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)		
(1)ビッグデータの有効活用	デジタル推進室	41	羽咋市データ公開サイト年間閲覧数	0	36,000	5,776	16%	○
3 産学官連携によるデジタル技術を活用したまちづくり	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)		
(1)産学官連携によるデジタル技術を活用したまちづくり	まちづくり課	42	共創の場(産学官連携コンソーシアム)の確立	—	確立	確立	達成	○
4 デジタルディバイドの解消とデジタル人材の活用	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)		
(1)デジタルディバイドの解消とデジタル人材の活用	デジタル推進室	43	地域ごとのスマホ教室開催数	5	50	33	66%	○
5 再生可能エネルギーを利活用した地域づくり	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R4年度)	目標値(R9年度)	R6年度 実績値	達成率	総合評価(案)		
(1)再生可能エネルギーを利活用した地域づくり	生活安全課	44	新規太陽光パネル(家庭用)補助申請数	—	30	12	40%	○

【基本目標VI】 KPI数	5
○ 取組内容の深化・発展	2
○ 取組内容の継続	3
△ 取組内容の見直し	0
× 取組内容の中止・終了	0

令和6年度 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金(令和6年度計画)実績報告に基づく効果検証報告書

(円)

No	担当課	事業名	事業概要	総事業費 (A)	補助対象事業費 (B)=(C)+(D)+(E)+(F)				事業完了 年月日	成果目標	評価	評価の理由
					国庫補助額 (C)	交付金充当 経費(D)	起債額 (E)	その他 (F)				
1	健康福祉課	価格高騰重点支援給付金追加支給事業【物価高騰対策給付金】	物価高が続く中で低所得世帯への支援を行うことで、低所得の方々の生活を維持する。 R5年度住民税非課税世帯7万円給付、能登半島地震被災世帯10万円給付 上記事業のR6実施分	27,032,000	27,032,000	0	27,032,000	0	0 R7.3.31	対象世帯に対して令和6年1月までに支給を開始する	◎	支給開始時期:令和5年12月 物価高が続く中で、対象世帯に対し、速やかに支給を開始することができ、低所得者の生活支援につながった。
2	健康福祉課	価格高騰重点支援給付金支給事業【物価高騰対策給付金】	物価高が続く中で低所得世帯への支援を行うことで、低所得の方々の生活を維持する事業。 令和5年度均等割のみ課税世帯、令和6年度非課税化世帯、令和6年度均等割のみ課税化世帯に10万円給付 子育て世帯(能登半島地震の被災世帯含む)に5万円給付、定額減税を補足する給付を行うもの 上記事業のR6実施分	184,711,450	184,711,450	0	184,711,000	0	450 R7.3.31	対象世帯に対して令和6年3月までに支給を開始する	◎	支給開始時期:令和6年2月 物価高が続く中で、対象世帯に対し、速やかに支給を開始することができ、低所得者の生活支援につながった。
3	健康福祉課	R6計画価格高騰重点支援給付金支給事業【物価高騰対策給付金】(④調整給付)事務費	物価高が続く中で低所得世帯に対して定額減税を補足する給付を行うことで、低所得の方々の生活を維持する事業。	3,875,000	3,875,000	0	3,875,000	0	0 R7.3.31	対象世帯に対して令和6年3月までに支給を開始する。	◎	支給開始時期:令和6年2月 物価高が続く中で、対象世帯に対し、速やかに支給を開始することができ、低所得者の生活支援につながった。
				215,618,450	215,618,450	0	215,618,000	0	450			

評価指標	
◎	非常に高い成果・効果が見られた
○	期待どおりの成果・効果であった
△	思ったほどの成果・効果はなかった
×	全く成果・効果が見られない

R7.8.27 令和7年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 資料

戦略会議における重点審査の流れ

- 1 外部有識者により、戦略に掲げる全44施策を事前審査
(期間：7月15日（火）～7月31日（木）)



- 2 事前審査結果を受け、事務局で各施策に対する総合評価（案）を作成
【資料1】2024（令和6）年度に基づく全44施策の総合評価（案）一覧表
【資料2】全44施策の効果検証・評価シート（各委員の意見集約版）
【資料3】事前審査結果及び重点審査する施策



- 3 今回の会議で、44施策のうち、重点6施策を審議、他の38施策は総合評価（案）を一括審議

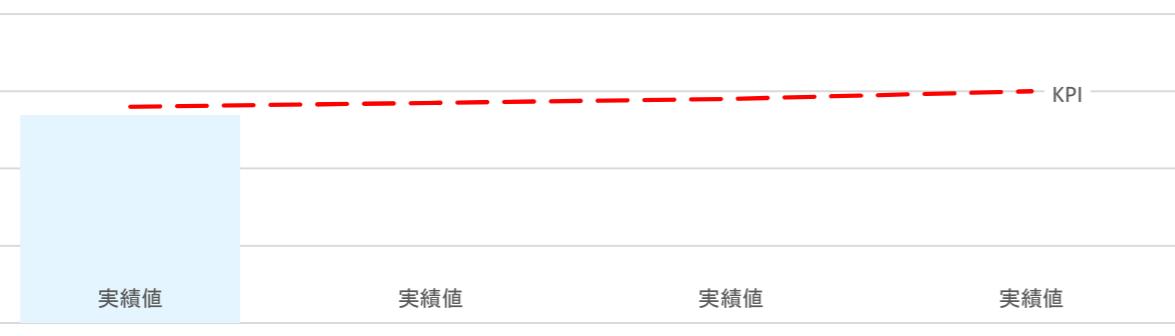
R7.8.27 令和 7 年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議資料

輝く羽咋デジタル総合戦略

全 44 施策 効果検証・評価シート
(各委員の意見集約版)

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる					
1	1 多様な就労支援			担当課	
	(1)地元企業への就職・就業促進			商工観光課	
	重要業績評価指標(KPI)		最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度	
	地元企業への新規就職者数		300人	269人	
					
	実績値	実績値	実績値	実績値	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
目標値	280人	285人	290人	300人	
実績値	269人	0人	0人	0人	
事業費予算額	563千円	470千円	0千円	0千円	
事業費決算額	443千円	0千円	0千円	0千円	
年度目標に対する達成率	96.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
基準値に対する増減率	0.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%	
担当課評価	○				
評価の理由	震災の影響がある特殊状況下においても、計画どおり地元企業就職面談会を実施したため、				
PLAN 取組内容	・周辺自治体と連携した広域連携による合同企業就職面談会の開催				
DO 事業スケジュール 課題など	①高等教育機関と連携した市内企業・産業への職場体験、若者の地元就職の促進。 ②羽咋工業・羽松高校を対象とした地元企業体験会を行う。 ③例年2回開催の周辺自治体等との広域連携による合同企業就職説明会・面接会の開催 ④今般の震災により離職を余儀なくされた被災者を対象とした「震災復興支援就職説明会・面接会」の実施				
CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	合同企業就職面談会は計画どおり年2回実施し、当該面談会には、79人が参加した。また、各高校向けの地元企業体験会については、例年と比較して体験会の時間を長くすることで、地元企業就業に対する理解促進に努めた。				
ACTION 今後の方向性	令和7年度も引き続き、年間2回の合同企業就職面談会を開催することで、就職希望者と地元企業とのマッチングにつなげる。 併せて、令和7年度は、新たにインターンシップ事業の実施も予定しており、インターンを通じて市役所の仕事や地域交流を体験する機会を創出し、市内企業への就職希望者の掘り起こしを行う。				

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の生徒さんが一人でも多く地元企業等に就職してもらえば、地域の活性化に大いに貢献することとなるので毎年進化した企画をお願いしたい。 ・地元企業の経営維持、地域の活性化や若者の定住につながる重要な施策である。地元企業だけでのリクルート活動には限界があり、周辺自治体との協力のほか、羽咋市独自の取組みを協力に推し進めるべき。 ・順調だと思います。このまま取り組みを続けていけばいいと思います。
○	9	<ul style="list-style-type: none"> ・地元人材の確保は地域産業の基盤強化に不可欠であり、就職支援の継続と拡充を期待する。 ・地元に仕事があることは、定住者を増やし、活気ある街作りに必須であり、本事業は重要な事業だと思われる。とりわけ若者が他地域に流出しないよう、DO ①②の職場体験、地元企業の体験会のさらなる拡充と大学生への取り組みを望みます。 ・合同企業就職面談会の開催を継続してほしい。 ・地元の企業の面談や説明は、周知や魅力を知るうえでとても重要だと思うので、継続してほしいと思う。できるだけ多くの地元の企業が参加できるように広報したり、連携を深めたりしていくこと、説明会や面談会を広く周知してい工夫などが大切だと思う。 ・引き続き、地元企業で働くことの意義・メリットを若者などの就職希望者に分かりやすく伝えていって頂きたい。 ・新規就職者の実態は？他町等からなのか。269人もいるのか。 ・奨学金返還に係る支援を行い、大学進学のために都市部へ転出した若者のUIターンの実績はどうなっていますか？ ・震災による離職者を対象にした就職説明会・面接会の実施はよい取り組みだと思う。 ・単年度では何人ぐらいか？
△	0	
×	0	

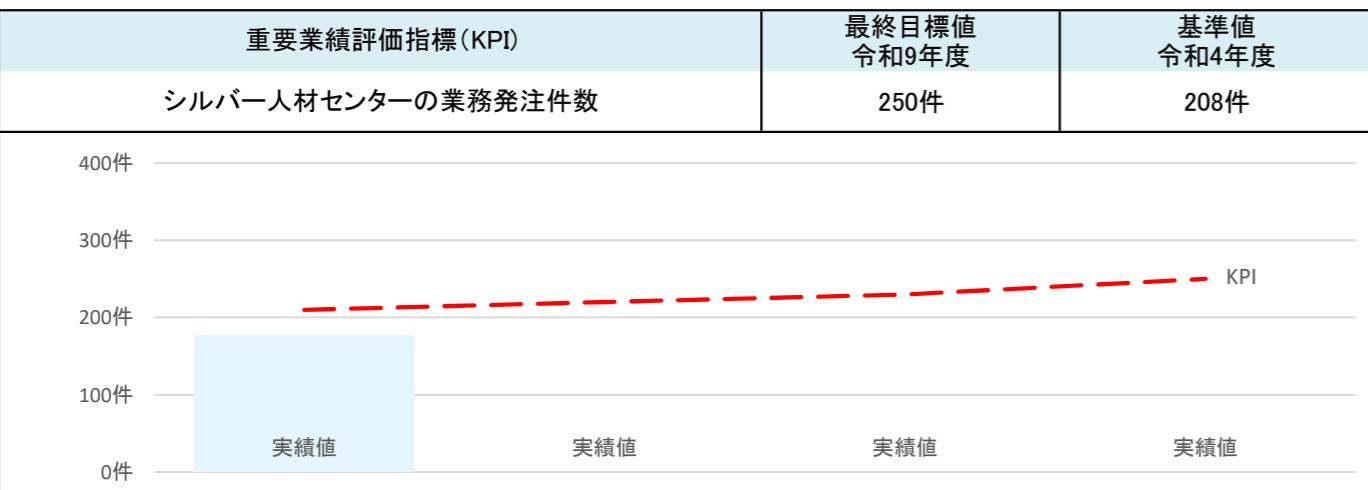
令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

2

I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる

1 多様な就労支援	担当課
(2)シニア世代保有技術の活用・就労支援	商工観光課



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	210件	220件	230件	250件
実績値	177件	0件	0件	0件
事業費予算額	9,569千円	9,260千円	0千円	0千円
事業費決算額	9,569千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	84.3%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-14.9%	-100.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	○			

評価の理由 震災の影響がある中でも、登録者に社会貢献と生きがいづくりを兼ねて仕事ができる機会を創出できたため。
・シルバーパートナーセンターが提供する労働力を発信する仕組みづくり

PLAN 取組内容

DO 事業スケジュール 課題など	<p>①高齢者・企業に対するセンターの周知・広報の実施 ②高齢者・企業がセンターへの理解を深めるため、就業体験の実施 ③センターでの就業に必要な技能講習の実施</p>
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	①周知・広報活動においては、年間計画に基づき、ホームページや専門情報紙により、対象者に伝わるよう積極的に取り組んだ。 ②、③就業体験や技能講習の実施については、シルバーの実績報告やモニタリングにより確認。 シルバー人材センター会員数は令和7年3月末現在で233人(前年度比△4人減)となり、業務発注件数も177件(基準値より31件減、目標値を下回る)となっており、震災の影響によるものと考えられる。

ACTION 今後の方向性	人口減少と高齢化は、今後ますます大きな課題となっていくことから、高齢者でも生きがいを持って働いていく環境を充実させていくことが必要であり、シルバー人材センターの重要性は増していく。そのため、引き続き、センター活用の情報発信、希望者が気軽に就業体験、そして技能実習できるよう、またシルバーセンターの登録人材が活躍できる機会を増やせるようにセンターの運営に努めていく。
------------------	--

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化は避けられない現実であり、高齢者の活躍の場を拓げるのはとても良いと感じます。登録者側および利用者側ともに周知の強化が必要なのではないでしょうか。
○	8	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の定年の年齢が延長していく中で、シルバー人材センターの役割を見直して行く必要があると思う。 ・高齢者の技術活用は地域産業支援に有効。活躍機会拡大を望む。 ・シルバー人材が出来る業務が前提となることは理解できるが、利用する方のニーズも時代と環境の変化に伴い変容しているのでアンケート等で調査する必要もあるのでは。 ・シルバー人材センターで必要な技能講習は、どういった内容を年間何回ぐらい実施できているのか。 ・シルバー人材センターの活用は一定数はあり、センターの労働力はある程度周知できていると考える。高齢者や企業センターの周知・広報については、例えば広報はくいや新聞チラシ等にも掲載する等の方法も目につきやすいのではないかと思う。 ・人手不足の状況にあってシルバー人材は企業にとって重要な戦力であり、本取組みの情報発信を継続してほしい。 ・人口減少、人手不足のなかシルバー人材センターの重要性は大きくなっている。しかしながら、多様な働き方の環境は整備されているとは言えず、引き継ぎ技能実習に努め多くの人が活躍できる内容の発注が得られるよう取組んでほしい。 ・超少子高齢化の時代、高齢者の健康寿命の延伸のためにもシルバー人材センターの果たす役割は大きいと思う。高齢者の総数も減少傾向なので、この項目はKPIの達成率にかかわらず継続してほしい。
△	1	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターの活性化は大切ですが、発注件数自体を目標とすることはあまり意味がないと思います。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

3

I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる

1 多様な就労支援

担当課

(3)市内テレワークの推進

まちづくり課
商工観光課

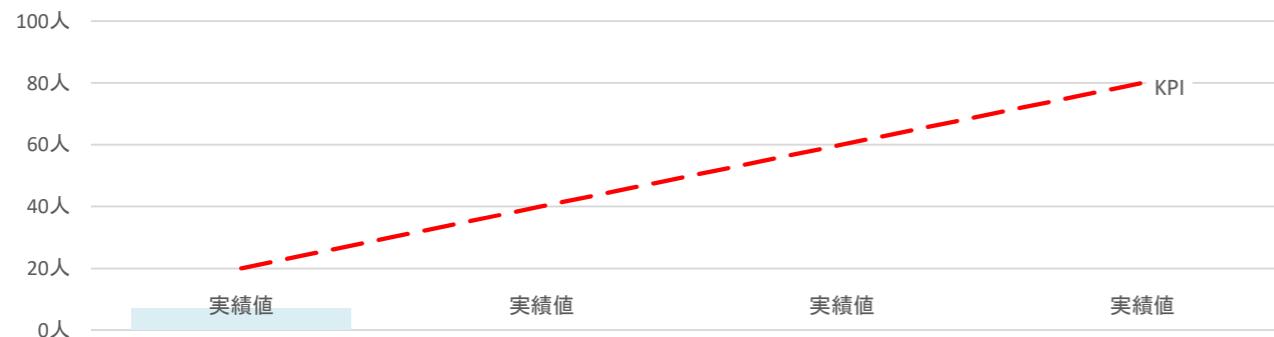
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

市の事業に基づくテレワーク就業者数

80人

-



目標値

実績値

事業費予算額

事業費決算額

年度目標に対する達成率

基準値に対する増減率

担当課評価

評価の理由

PLAN
取組内容DO
事業スケジュール
課題などCHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証ACTION
今後の方向性

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
○	0	
○	1	・移住希望のテレワーカーが増加しているとのことであり、移住を希望する方へ適切で有益な情報が提供できる体制を引き続き構築していってください。
△	9	・プロポーザル方式で選ばれた企業のセミナーの内容だけでは物足りなさを感じる。チャットGPTやCanvaを2時間程度したところで移住希望のテレワーカーが増加するとは思えない。 ・テレワーク普及は多様な働き方促進に不可欠。環境整備と移住者支援を加速すべき。 ・テレワーク従事者は相当の技能を求められるケースが多く、テレワーク新規就業者を増加させるにはセミナーのみでは限界があることから、移住者へのアプローチに重点をおいて進める方が効率的だと思われる。また、人材不足解消等のため、地元企業からテレワークの仕事を切り出すようななんらかの支援できる取り組みができないか。 ・テレワーク希望者は、どういったテレワーク環境を望んでいるのか。実態調査はどうなっているのか。 ・セミナー受講者から就業者がいるので、セミナーの効果が見られる面がある。チラシや広報はいくも活用しながら、今後の方向性の記載のように、テレワークの内容の周知の方法、対象を工夫していくべきだと思われる。 ・多様な働き方が浸透してきておりテレワークを希望する人は一定数いると考えられるため、普及・啓発の方法を工夫しながら取り組んでいってほしい。 ・何をしたいのかわからない。 ・テレワークの推進は大切ですが、テレワーク以外の仕事も大事です。数値目標にしなくてもいいと思います。 ・目標達成率は残念だが、取り組みの切り口はよい。羽咋市の賃貸住宅では光通信等の通信環境の整備が十分でなく、テレワーカー移住のネックにはなってはいないだろうか。通信環境の設備投資への補助があると後押しになると思う。
×	1	・羽咋市の現状では、テレワーク就業者よりも5G地域の拡充などが必要と考える。

令和6年度 輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

4

I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる

2 就農支援と羽咋ブランド化の強化	担当課
2 就農支援と羽咋ブランド化の強化	農林水産課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
市内の米、麦、大豆、そばの作付面積	1865.8ha	1865.8ha



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	1865.0ha	1865.0ha	1865.0ha	1865.0ha
実績値	1778.0ha	0.0ha	0.0ha	0.0ha
事業費予算額	0千円 2,454千円	0千円 500千円	0千円	0千円
事業費決算額	0千円 2,454千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	95.3%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-4.7%	-100.0%	-100.0%	-100.0%

担当課評価	△
評価の理由	目標値に達しなかったため

PLAN 取組内容	農地の集約化、集積化の推進
--------------	---------------

DO 事業スケジュール 課題など	①新規就農者に対する補助事業の実施 ②地域計画の策定 ③圃場整備に向けた話し合いを行う
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	・国の補助事業による作付支援を行ったが、高齢化及び令和6年能登半島地震で被災したことで作付面積が減少した。 ・震災の影響により、圃場整備事業に遅れがでている。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	各地区生産組合との連携強化による農業の継承の推進
------------------	--------------------------

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	1	・震災により、圃場整備に遅れがでているのはしょうがないことだと思います。就農事業は高齢者対策、羽咋ブランドの可能性、自給自足の促進の観点から重要な事業であると思います。短期間だけではない中期的な補助・支援は難しいでしょうか？
○	3	・羽咋は自然栽培による米や農作物が一つのブランドとなっています。新規就農者の確保と羽咋ブランドの推進は、定住人口の増加や観光推進にもつながるため、非常に意義のある取り組みだと思います。ただ、神子原などでも高齢化により、米作りをやめる人も多いと聞きます。ブランド化を進めて、実際に商品が手に入らないのでは、逆にイメージの悪化につながりかねないので、この対応はしっかりと進める必要がありと思います。 ・作付面積をKPIに設定しても「ブランド化の強化」は検証できないのでは？ブランド化も大切だが、昨今の急激な地球温暖化による農作物への影響を考えれば、安定した収穫量の確保が課題である。国や県と連携して所得補償を行い農業所得の安定化につなげ、農業従事者を確保しつつ作付面積を維持拡大して、ブランド化よりも自給率向上を目指すような方向性が国全体の未来にとって重要なように思われる。 ・震災後の困難な状況での困難さが懐ばれる。※予算がついていない事業を評価する目的は何でしょうか？ 担当課の入力漏れのため、追記。
△	7	・女性や若者だけでなくあらゆる世代の起業に対しても ・被災圃場の復旧と新規就農支援を強化すべき。 ・要因は様々だがコメの流通量が減少したことで「令和の米騒動」と言われる事態になった。国は米の増産へシフトする政策が一部で浮上しており、転作作物の拡大が見直される状況から同一内容での継続的な取り組みは効果がないと考える。 ・現場の生産者や農地の所有者と丁寧にコミュニケーションをとりながら粘り強く取り組んで頂きたい。 ・休耕地が多い。工場になるものもある。 ・作付面積自体を数値目標にしなくてもいいと思います。 ・米不足などが言われる中で、食料自給のこともあり拡大強化が必要ではないか。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

5

I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる

3 創業・起業へのチャレンジ支援

担当課

3 創業・起業へのチャレンジ支援

商工観光課
まちづくり課

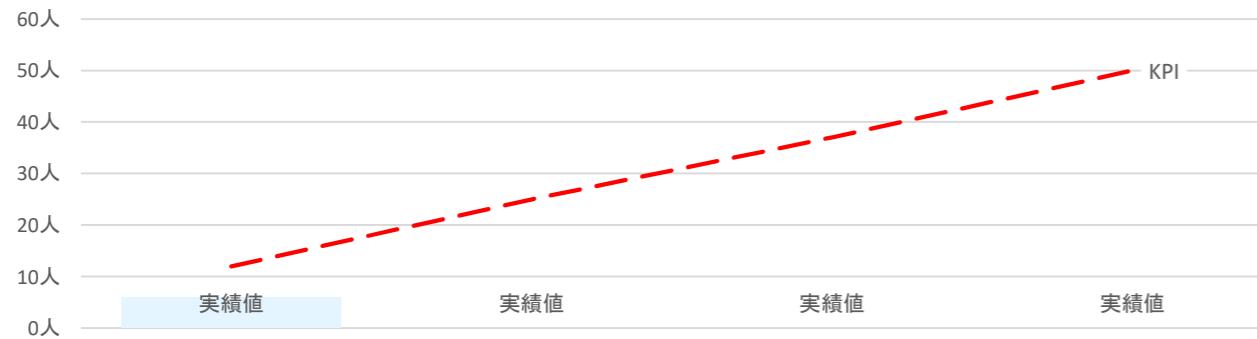
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

新規創業・起業チャレンジ者数

50人

37人



目標値

12人

実績値

6人

事業費予算額

7,500千円

実績値

7,000千円

事業費決算額

7,962千円

実績値

0千円

年度目標に対する達成率

50.0%

実績値

0.0%

基準値に対する増減率

-83.8%

実績値

-100.0%

目標値

37人

実績値

0人

目標値

50人

実績値

0人

担当課評価

△

評価の理由

能登半島地震の影響もあり、昨年度より2人減となり、目標値に達しなかった。

PLAN
取組内容

・女性、若者や子育て世代の起業家支援、事業引き継ぎ支援の拡充

DO
事業スケジュール
課題など

被災し事業継続ができなくなった事業者(女性・子育て世帯)について、フォローアップのためのヒアリングを実施。

また、商工会の経営支援員や起業、第二創業しようとする相談者からヒアリングを行うことで、起業後の事業継続性のほか、所得向上や雇用促進の視点を盛り込んだ事業計画を主眼に、補助制度の見直しを検討する。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

能登半島地震の発災により昨年に比べ新規創業者数は2人減の6人(補助認定)となった。補助金の対象とはならなかった相談については、ニーズ把握として今後の制度見直しの参考とした。

補助金支給に限らず、様々な支援を検討する中で被災地域における賑わいの創出ができた。

ACTION
今後の方向性・LAKUNAはくいを活用した起業家支援事業の開催。
・既存の創業支援事業に加え、国のローカル10,000プロジェクトに沿った起業支援を図っていく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	2	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携した「創業セミナー」の開催など評価できるものが多いたが、「待ち」の施策では目標値には届かないものと思われ、新しい施策で行政が強力にリードしていってほしい。 ・創業や起業は大切です。目標には達していませんが続けていけばいいと思います。
○	1	<ul style="list-style-type: none"> ・女性や若者だけでなく、あらゆる世代の起業に対しても支援するとよいのではないか。また、羽咋の名店・老舗が廃業していくのも対策を考えてはどうか。
△	7	<ul style="list-style-type: none"> ・相談体制と資金支援の充実が必要。 ・補助金の対象とならなかったケースは具体的にどういった点が課題なのか。そのことが次への支援に繋がっているのか。 ・有利に展開できそうなものとして、今まであった施設や場所、羽咋市の地域特性等による活用場面を工夫して周知・説明する場があるとよいように思う。LAKUNA活用支援は有効なプランだと思う。 ・将来の地域経済を担う女性や若者等の起業支援は重要な取組みであり、新しい施策も採り入れながら進めていってほしい。 ・追加調査が必要であろう。一回起業した後、上手くいっているのか等。 ・若者、女性の起業は地域の活力創出につながるため、積極的に進めるべきと考えます。補助金など資金的な援助に加え、金沢の「金沢未来のまち創造館」、野々市の「1の1」といったように、シェアオフィスやシェアキッチンといった、具体的な起業のイメージを描ける場所があればいいと思います。駅前に集客力があるラクナがあるため、商店街の空き店舗など近くにチャレンジショップという位置づけの施設を設けるのはどうでしょうか。 ・実績値が目標値の50%だが、事業費決算額が予算額を上回っているのはなぜか。対象者一人ひとりにより手厚い支援ができたということだろうか？
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

6

I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる

4 新産業・新事業への支援

担当課

4 新産業・新事業への支援

商工観光課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値

令和9年度

基準値

令和4年度

商工業振興条例に基づく支援事業者数

5事業者

4事業者

6事業者

KPI

4事業者

2事業者

0事業者

実績値

実績値

実績値

実績値

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	1事業者	2事業者	3事業者	5事業者
実績値	3事業者	0事業者	0事業者	0事業者
事業費予算額	95,146千円	91,221千円	0千円	0千円
事業費決算額	95,146千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	300.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-25.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%

担当課評価	◎
評価の理由	遊休工場活用による事業者の進出支援及び2件のサテライトオフィス誘致につなげたため。

PLAN 取組内容	・都市圏からの企業進出への支援やサテライトオフィス誘致
DO 事業スケジュール 課題など	震災でつながった都市部事業者にも本市での進出を促すとともに、商工業振興条例やF補助金支援に基づき、積極的な企業へのフォローアップを図っていく。

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	令和6年度は、遊休工場等利用及び雇用促進補助金制度を活用し、1社が製造業に係る整備を行った。これにより、新たに4人の雇用が生まれている。 また、能登千里浜レストハウス2階のワーキングスペースにおいても災害関連事業者2社が進出した。
ACTION 今後の方向性	商工業振興条例に基づく助成金等を活用し、企業誘致を行いながら、寺家工業団地の売却にもつなげていく。 テレワークが普及していることを踏まえ、県と市の助成金をPRし、サテライトオフィス誘致を図る。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	7	<ul style="list-style-type: none"> ・助成制度の周知徹底と利用促進を期待。 ・企業進出は全ての面において多いに越したことはない。 ・引き続き力を入れて取り組んでいただきたいと思います。 ・災害関連の事業者へアプローチする、遊休工場活用等の工夫がよいと思う。工夫してPRしていければよいと思う。 ・取組みが成果に繋がっており、今後の更なる深化・発展を期待する。 ・順調だと思います。このペースで続けていけばいいと思います。 ・震災からの繋がりを活かしていく取り組みは必要。復旧・復興のフェーズにおいて強く推進してほしい。
○	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の誘致方法について具体的な方法がわからなかったのと令和6年度進出した災害関連事業者の2者の継続性が不明なため○にしましたが、今後も積極的な誘致を期待します。 ・サテライトオフィスの誘致もそうであるが、定住人口や地元での就業人口が増加するように工業団地や市内空き物件の売却を進め企業誘致を進めていってほしい。 ・取り組みはとても良いと思う。しかし、予算がこんなに必要なのか少し疑問に思う。
△	0	
×	0	

令和6年度

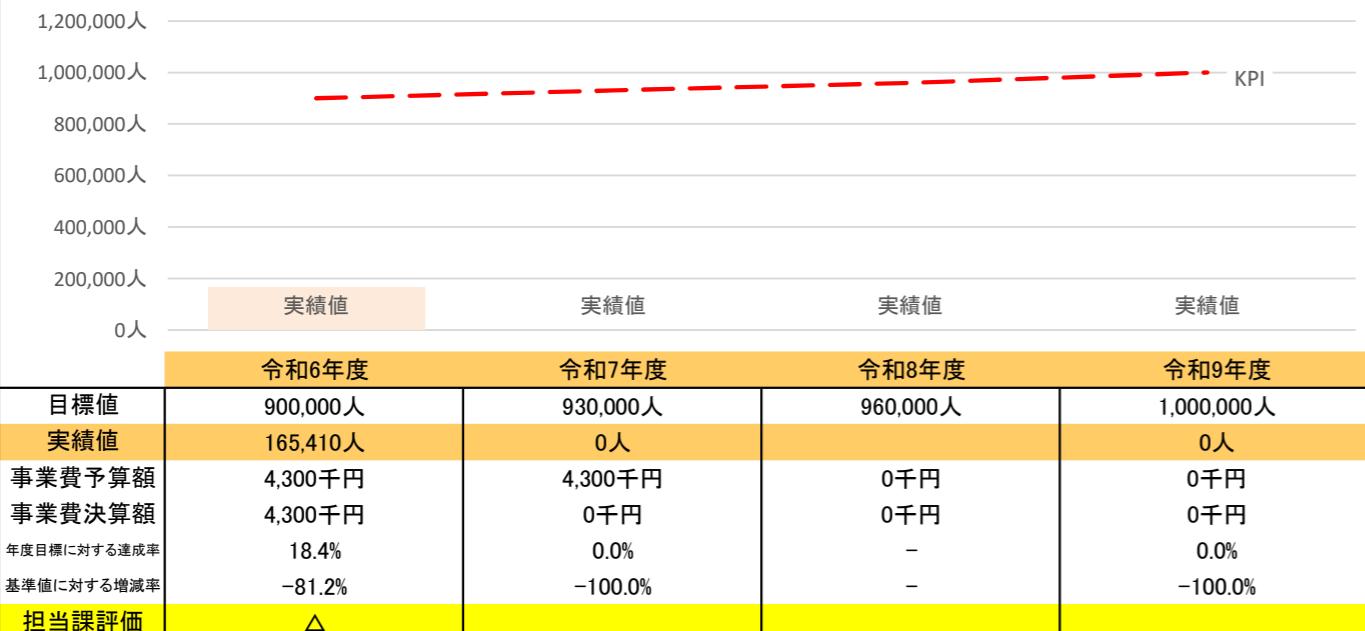
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

7

II 新たなひとの流れをつくる

1 地域資源を生かし、デジタル技術を活用した誘客の促進	担当課
1 地域資源を生かし、デジタル技術を活用した誘客の促進	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
①市内観光資源(千里浜、柴垣)への来訪者数	1,000,000人	877,783人



評価の理由
能登半島地震の影響により、市内観光資源(千里浜、柴垣)への来訪者は大きく減少したが、様々な誘客イベントを実施することで「今いける能登」を推進していく。
また、システムから抽出したデータをもとにライダーの羽咋市内の動向を分析することが可能となり、今後の観光行政を発展させるにあたってより多くの情報を入手することが出来たため。

PLAN
取組内容
・県との連携による千里浜なぎさドライブウェイの保全、魅力発信

DO
事業スケジュール
課題など
①LAKUNAはくいを拠点に、eスポーツやイルミネーションイベントを実施することで、新規の誘客を図るとともに、市内周遊を促すことで来訪者数の増加を図る。
②令和6年10月に開催予定のSSTRにおいて、ライダーたちがより情報を得やすく参加しやすいよう、店舗及び特典情報をデジタルマップ化するとともに、ライダー向けのデジタルスタンプラリーを実施し市内周遊者数の増加を図る。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証
①LAKUNAはくいを拠点として駅周辺賑わい創出事業であるeスポーツやイルミネーションイベントを開催した結果、5,035人が来訪した。②SSTR2024におけるデジタルスタンプラリーの実績及び成果は以下の通り。
・参加者は計853人(うち男性8割、女性2割)。
・羽咋市に宿泊予定と回答したのは、約50%。
・スポット別PVは1位が道の駅のと千里浜、2位がほぼ同率で佐吉庵、深江八幡神社、民宿はまなすであり、以降はユーフォリア千里浜、気多大社、コスモアイル羽咋などが続く。
・おもてなし協力店のクーポン使用回数は1位が休暇村能登千里浜であり、2位以降にコスモアイル羽咋、深江八幡神社、道の駅のと千里浜、気多大社などが続く。

ACTION
今後の方向性
LAKUNAはくいの集客力を市内全域に波及させるため、市内の観光施設と連携した駅周辺賑わい創出事業を実施する。また、SSTRについても引き続きデジタルスタンプラリーを展開すると共に、今後は県を超えた広域的な取り組みを展開する。具体的には、デジタルスタンプラリーの範囲を七尾市、中能登町、宝達志水町のほか、富山県氷見市、射水市にも広げることで、ライダーたちにとって新たな魅力を創出する。
また、実施範囲の拡大に伴い、より広いライダーたちの動向データ(訪問時・帰宅時に使用するルート等)を入手し、分析することで、今後の羽咋市の観光行政において注力すべきアピール先の特定等を行っていく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	1	・SSTRにより、千里浜なぎさドライブウェイの認知度は上がっていると思いますが、侵食の現状や保全についての周知はなされているのでしょうか？今こそ、この貴重な自然環境資源の保全・養浜事業の強化を訴える好機ではないかと思います。柴垣海岸と共に、海の利活用の促進を行っていただきたいです。
○	5	・千里浜の知名度は、都会の方には低い。また保全については、国・県の力がなければ始まらないで引き続きアピールをしてほしい。 ・市内観光資源を様々なニーズの掘り起こしを目的に違う角度からPRすればどうか。 ・デジタルスタンプラリーによって情報の収集に功を奏している。継続していいってほしい。 ・特に千里浜は世界に誇れるすばらしい地域資源であり、県との連携により保全を図っていってほしい。デジタル技術を活用することで新たな羽咋市の魅力を発信できるものと期待している。また、デジタルスタンプラリーの範囲を広域としたことは、非常に評価できる。 ・とても良い取り組みだと思います。今後もSSTRやイルミネーションイベント等を継続してほしいです。
△	6	・千里浜海岸や柴垣の来訪者と、LAKUNAの来訪者のペルソナは必ずしも一致しないので、本項目においてLAKUNAの記載があることには違和感を覚える。少なくとも、LAKUNAの利用者数は、この項目のKPIに対するKSFとは考えにくい。特に、「今後の事業の方向性」の記載は抜本的に見直してほしい。LAKUNAの来場者数はKPIとほとんど関連しない。SSTRは上半期で終わっているので、下半期の方向性の記述として相応しくない。 ・震災影響からの早期回復と誘客策の多様化を望む。 ・SSTR等の知名度・関心はかなり上がり、LAKUNAイベント等による集客も多いように感じる。地震の影響で、こんなにも来訪者が減ることに驚いた。一方で、柴垣方面の良さ、イベント等は注目度が少ないよう思う。長手島を始め、グランピング施設や美しい景観、2つの海を楽しめる良さ、釣り好きの方などへ情報を広げていくことがあってもよいかと思う。 ・ライダーの行動分析、デジタルスタンプラリーなどデジタル技術を有効に活用しており、今後もそうした工夫を加えながら取り組んで頂きたい。 ・目標が高すぎるのか、実績が思わしくないのかわかりませんが、相当の乖離があります。市内の観光資源を十分に生かせるようにしてほしいです。 ・地域資源とデジタル技術の活用には、結びつけ方・考え方方が苦しいのではないか。千里浜、滝の海浜公園化などはできないか？
×	0	

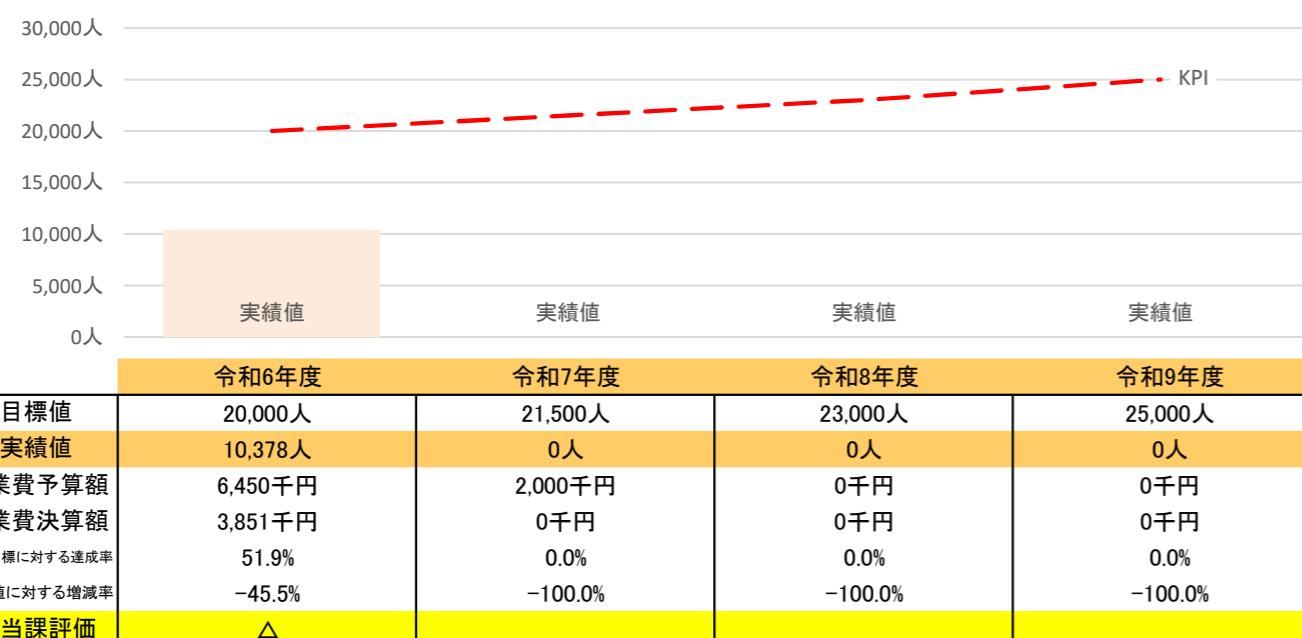
令和6年度 輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

8

II 新たなひとの流れをつくる

1 地域資源を生かし、デジタル技術を活用した誘客の促進	担当課
1 地域資源を生かし、デジタル技術を活用した誘客の促進	文化財課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
②妙成寺来訪者数	25,000人	19,058人



評価の理由 妙成寺入館者数は、令和6年能登半島地震の影響により、入場者数が減となった。

PLAN 取組内容 •妙成寺国宝指定に向けての調査、環境整備と市民意識の醸成

DO 事業スケジュール 課題など ①妙成寺の文化財解説動画、小学生学習用パンフレットの作成と公開。専門家による現地解説ガイドツアーの実施。
②妙成寺五重塔、三堂並置の3Dデータを作成、公開

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証 ①県と共同で、魅力発信委員会を立ちあげ、通年での県内各所の移動パネル展の実施、建造物ガイド動画11本を作成し、価値の周知を行った。
②デジタル博物館を構築して、境内の見学体験が可能な360度VR動画10本、建造物の3Dモデル4棟などのコンテンツを作成し、価値の周知を行った。
③小中学生向けの建造物の入門パンフレットを作成・配布し、妙成寺の価値に触れる周知のすそ野を広げた。

ACTION 今後の方向性 ①市内各所への出前講座でデジタル博物館のコンテンツを周知して利用を促す。あわせて現地見学解説会を行うことで、デジタルからリアルの見学者数の増加に努める。
②県と共同する魅力発信事業を引き続き実施し、県内移動パネル展でコンテンツの紹介やパンフレット配布等を行い、市外からの見学者の増加に努める。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎ 1		・妙成寺が国宝指定されれば、その経済的效果はこれまでにない大きなものとなる。その可能性を有しているのであれば、取組内容について深化させていくべきである。このためにも、まず地元が一体となって取組める具体的な施策を検討してほしい。
○ 3		・妙成寺の歴史的価値や魅力のPR強化と国宝化に向けた機運醸成で1日も早く指定されることが来訪者の増加に直結すると思う。 ・せっかく作成した妙成寺五重塔、三堂並置の3Dデータを活用し実際の来訪者数に繋げて欲しい。 ・地震の影響等で来訪者が減ったのは仕方がない面は大きいと思うが、デジタルコンテンツや小中学生向けのパンフレット等は有効だと感じる。市のホームページ等も含め、目にする機会をふやすようにするとともに、児童の作成したクイズを取り入れたり、妙成寺のイベントも含めて幅広い層へ周知したりしていく方法もあると思う。
△ 5		・取り組みの内容とKPIがまったく繋がっていないように見える。本来の目的は、誘客の促進を達成するための「妙成寺の来訪者促進」のはずなので、アクションとしては誘客促進のための取り組みが実施されるはず。しかし、取り組みの内容は、「妙成寺の国宝化を目標とした、市民への理解増進」という感じになっている。そもそも妙成寺の利用者数が羽咋市のKPIになっていることには違和感があるので、「妙成寺の国宝化に関する市民の意識調査アンケート」の結果をKPIにするなどして、「国宝化の促進のための事業」として確立させたほうが良いように見える。 ・文化資源の活用強化が誘客拡大に直結。デジタル活用推進は継続すべき。 ・デジタルとリアルを組み合わせて妙成寺の魅力を発信し、来訪者数の増加に繋げていってほしい。 ・妙成寺の来訪者数を数値目標にすることの意味がよくわかりません。市でなく、寺が頑張ればいいのではないかでしょうか。国宝化に向けての取り組みは、それはそれとして市と寺がタイアップして進めていけばいいと思います。 ・小中学生に入門パンフレットを配布するのはよいが、配布して終わりにならないだろうか。郷土学習の時間などにパンフレットを活用するよう提案していくのはどうか。
✗ 0		

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

9

II 新たなひとの流れをつくる

2 インバウンドツーリズムの推進

担当課

2 インバウンドツーリズムの推進

商工観光課

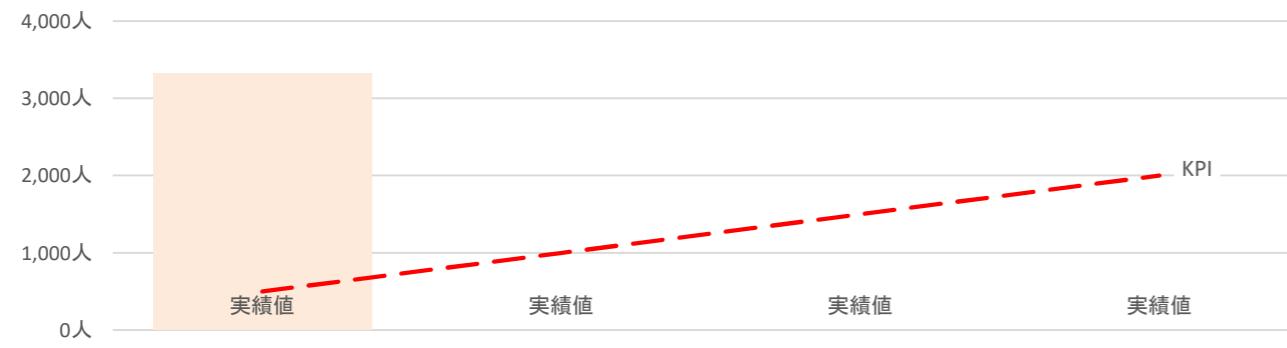
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

外国人宿泊者数

2,000人

2人



目標値 500人

実績値 3,321人

目標値 1,000人

実績値 0人

目標値 1,500人

実績値 0人

目標値 2,000人

実績値 0人

事業費予算額 2,000千円

事業費決算額 1,931千円

年度目標に対する達成率 664.2%

基準値に対する増減率 165950.0%

担当課評価 ◎

評価の理由 震災の影響からインバウンド事業を積極的に展開できなかったが、国の交付金採択を受け、令和7年度から広域的に取り組む準備ができたため。

PLAN
取組内容

・Wi-Fi環境整備も含めた受入体制の整備

DO
事業スケジュール
課題など

インバウンド需要を本市に取り込むために、外国人旅行客の実態調査を実施するとともに、市内の文化観光施設や宿泊施設・飲食店の外国人受入体制に対する補助制度を時限的に創設。また、旅行代理店に対して団体ツアーのインセンティブ制度を時限的(3年間)に設けて誘客を図る。さらに、近隣自治体と連携したモニターツアーを共同で開催し、海外に向けた情報発信を行いツアーの定着化を図る。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

七尾市、中能登町と協議し、これまでの移住推進に加え、インバウンド誘客を推進することで合意。中能登地域のインバウンド誘客の状況を分析し、台湾をターゲットとする誘客戦略を展開するため、国の第2世代交付金の採択もされた。震災からの復旧・復興を最優先とするため、具体的な事業は令和7年度から展開予定。

ACTION
今後の方向性令和7年度からは、七尾市、中能登町のほか、富山県氷見市や射水市とも協力し、連携規模を拡大しながら、インバウンド誘客に取り組む予定である。
なお、国の交付金が採択されたことに伴い、併せてインバウンド受入に係る環境整備にも全庁的に取り組んでいく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	6	<ul style="list-style-type: none"> ・受入体制整備と広域連携の強化に期待する。 ・今後も受け入れ環境の整備に予算をつけて力を入れてほしい。 ・現在の取組みを継続しつつ、近隣市町との連携など新たな施策の検討・実行を期待する。 ・目標値が低すぎるのか、実績がよいのか。おそらくコロナもあって目標値が低いのでしょうか、もっと高い目標をたてて取り組んだ方がいいと思います。 ・インバウンド需要はまだ伸びると思う。受け入れ態勢を整えつつ、スムーズな誘客のための導線設計を。 ・インバウンドにともなう日本文化・道徳の周知と遵守を進めてほしい。
○	3	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIに対して、PLAN、DO、CHECKがあまり繋がっていないので、KPI達成については、市の取り組みではなく、外部要因によって達成されたものと考えるのが適切である。しかし、取り組んできた内容そのものは十分に評価できるないので、引き続き取り組んでいただきたい。 ・インバウンドは体験型観光を重視する傾向が高いので企画と環境整備を進めてPRすれば良いと思う。 ・震災の影響もあり、インバウンド需要を大きく掘り起こすことは難しいものと思われる。しかしながら、今後を考えると重要な施策であり、他自治体との連携を前提に積極的に取組んでほしい。
△	0	
×	0	

令和6年度

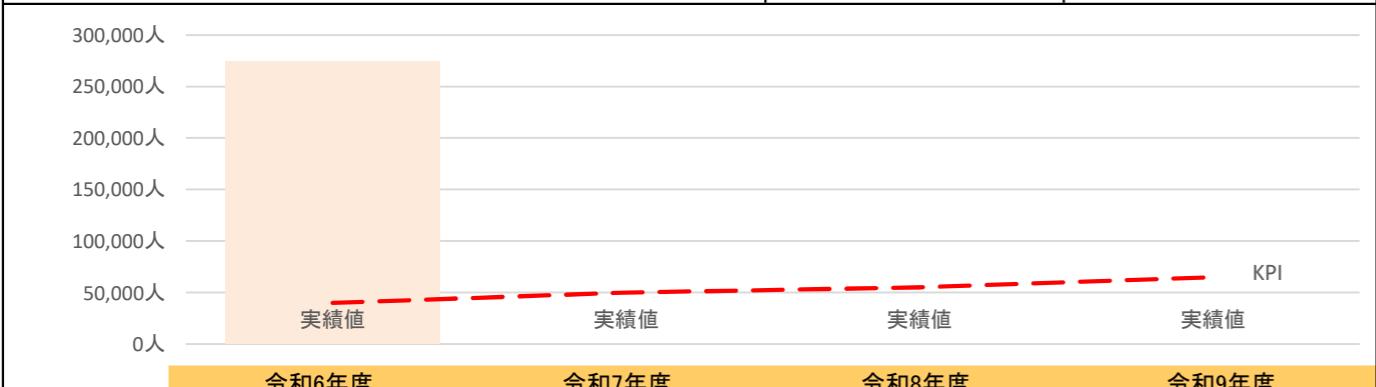
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

10

II 新たなひとの流れをつくる

3 羽咋の玄関口を起点とした賑わいの創出	担当課
3 羽咋の玄関口を起点とした賑わいの創出	まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
LAKUNAはくい利用者数	65,000人	—



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	40,000人	50,000人	55,000人	65,000人
実績値	274,054人	0人	0人	0人
事業費予算額	98,500千円	82,100千円	0千円	0千円
事業費決算額	98,500千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	685.1%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	—	—	—	—
担当課評価	◎			

評価の理由	年間想定6万5千人を大きく超え、開業から77日目に来館者10万人、半年で20万人を達成したため。
-------	--

PLAN 取組内容	・LAKUNAはくいを活用した各種団体や大学との連携事業の実施
--------------	---------------------------------

DO 事業スケジュール 課題など	LAKUNAはくいの開業を契機に多様な関係者と連携したイベントを実施し、駅周辺の賑わい創出に取り組む。
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	7月1日の開業を皮切りに10週間以上に渡り毎週イベントを開催。9カ月で来館27万人に到達し、駅周辺の賑わい創出に大きく寄与した。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	①被災したため中断していた外構と駐車場の一部工事を6月末完成を目指し、施設の利便性向上を図る。 ②獅子舞を通じた伝統文化の継承と利用者拡大に取り組むと共に、周辺商店街と連携した取り組みを展開する。 ③多文化共生イベントを実施し、外国人との交流を促進することで、新たな賑わいを創出する。
------------------	--

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	9	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の賑わい創出に貢献。多様な交流イベントの継続を期待。 内外から高い評価を得ているので停滞せず新たな活用、取り組みをお願いします。 KPIの目標値が控えめではないかと感じます。LAKUNAはまだ可能性を持っていると思いますので、各種イベントや市民が利用しやすい施設運営を期待します。 LAKUNAのつくりや館内の場所・内容の設定が、今の羽咋市民のどの年齢層にも合っていて、利用しやすい。また、様々な団体と連携しての多彩なイベント等により、足を運ぶ市民、市外からの利用もとても多くなっている。「獅子舞フェスティバル」など、地元羽咋の文化等のよさが広がるイベントは、これからも続けてほしいと願う。加えて太鼓や音楽関係、自然や産業の体験の場等も工夫して取り入れていけば、さらに羽咋の良さが体感されるように思う。 LAKUNAはくいの賑わいが継続するよう、本取組みの更なる深化・発展を期待する。 利用者が多い。今後の運営に生かすべき。 素晴らしい成果だと思いますが、実績が目標を大幅に上回っている以上、令和7年度以降の目標を立て直した方がいいと思います。 初年度ほどでなくとも、適度に賑わいある空間を今後も継続していってほしい。 良い取り組みだと思います。大学などと連携することで、地域外の人に羽咋市の魅力を知ってもらいやすくなると思います。駅周辺にLAKUNAはくいのような都会的な建物が増えたら嬉しいです。
○	4	<ul style="list-style-type: none"> PLANに「LAKUNAはくいを活用した各種団体や大学との連携事業の実施」となっているが、実際羽咋市内の各種団体が利用しようとしても金額が一般と同等だと利用しにくい。もっと優遇があってもよいのではないか。 現在の羽咋市でLAKUNAはくいが果たす役割は大きくなっています。LAKUNAはくい単独はもちろんですが、地域や周辺商店街と連携した取組みを期待します。 施設、イベントを含め、開業1年目のラクナの取り組みは素晴らしいと思います。あとは夜間の利用、周辺への波及を進める必要があり、訪れた人がお金を使う場所が近くにあればいいと思います。 2年目以降の行事等の継続をどう図っていくかが大切。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

11

II 新たなひとの流れをつくる

4 移住・関係人口の拡大、都市部との共創

担当課

(1)首都圏・大阪圏をはじめとした都市部に向けての本市の魅力発信、移住促進

まちづくり課

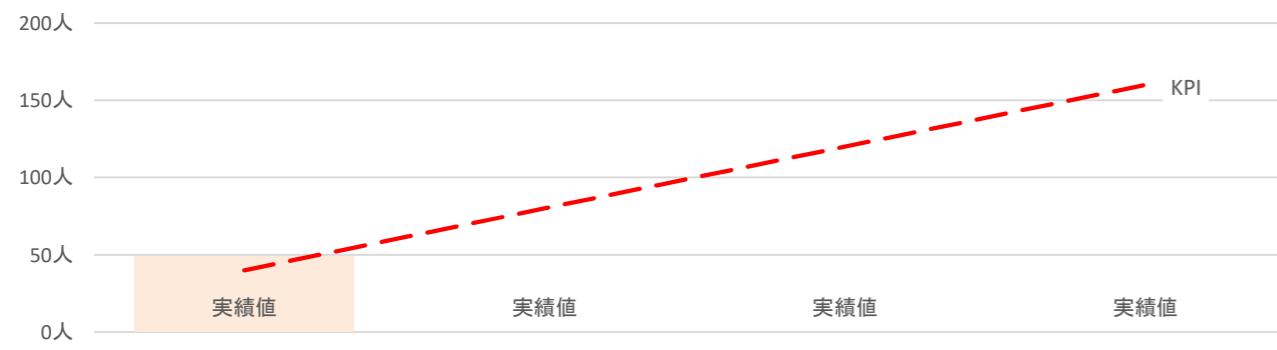
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

市の移住相談窓口で対応した移住者数

160人

123人



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	40人	80人	120人	160人
実績値	49人	0人	0人	0人
事業費予算額	0千円	0千円	0千円	0千円
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	122.5%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-60.2%	-100.0%	-100.0%	-100.0%

担当課評価

◎

評価の理由

目標数値を上回ったため

PLAN
取組内容

・広域連携によるスケールメリットを生かした情報発信(専用HP・LINE運営)、移住支援(移住プランナーや移住応援隊との連携)

DO
事業スケジュール
課題など

七尾市、羽咋市、中能登町のいずれも復興対応を最優先すべき状況にあるが、復興施策の一環として首都圏へ能登復興応援PRを兼ね、PRイベントを開催するなど、復興支援をテーマとする関係人口の創出に取り組む。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

広域連携を生かした、都市部での移住PR(移住フェア、オンラインセミナー)についても継続的に実施。3市町で共同運営する「のと住」のLINE登録者数は約2700人まで増加(対前年比+700人)。登録者には、移住プランナーが継続的に、3市町の暮らしに関わるPRを行い、関係人口・移住につなげるためのファン創出に努めた。

ACTION
今後の方向性

①空き家については移住者移住希望者の受け皿となることから、空き家実態調査の結果、利活用可能空き家に探し、所有者に対しバンク登録を促していく。
②広域連携については、氷見市や射水市、高岡市とも連携し、台湾からのミニツアーや旅行博出展によるインバウンド誘客を図るなど、実施可能な事業について速やかに取り組んでいく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	9	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力確保にも直結する移住促進の強化に期待。 ・震災で市外から移住される方に加えて、市内から市外に流出させない観点からも空き家が利活用できるのでは。 ・この実績値において、震災関係の移住者の割合はどのくらいでしょうか。スポット的に増加したのであれば、より広域連携の強化が必要になってくると思います。 ・空き家バンク登録の方法や条件等を今後も促していってほしい。 ・様々なPRや相談等情報発信により、能登の復興を含めてよさが伝わり、それが結果につながっていると感じる。就職に関する事もあると思うが、市の学校教育のよさや取組、自然の豊かさ等も広がれば、子育て層への働きかけ効果が高まるように思う。 ・移住者の増加・定着に向けて、取組みの継続・深化を期待する。 ・アパートもたくさんあり、千里浜の宅地整備もしているが、人口増につながっているのか。 ・令和6年度に関しては実績が目標を上回りよかったです。今後7年度、8年度、9年度と実績が目標のように右肩上がりに増えていくかどうかは不透明です。 ・人口減少を食い止める施策として必要。相談から実際の移住までつながるように、移住に繋がらなかったケースも一件一件理由を検証してフィードバックしていってほしい。
○	2	<ul style="list-style-type: none"> ・当初目的としていたような移住者が増加しているのかも含めて検証をお願いします。今後も必要な施策と思われ、強力に取組んでいってください。 ・移住・定住促進に関しては、さまざまな要素が絡み、どの取り組みが効果を挙げているか見えにくいものではないでしょうか。取り組み内容を分析し、費用対効果も考えて取り組んでいく必要があると思います。
△	0	
×	0	

令和6年度

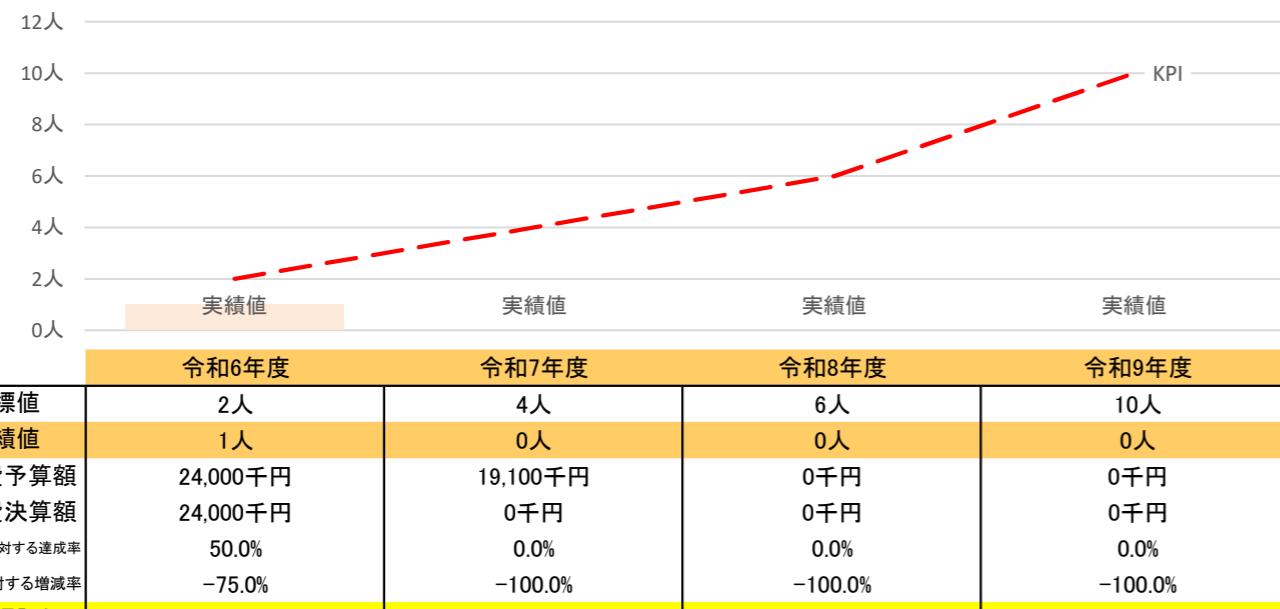
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

12

II 新たなひとの流れをつくる

4 移住・関係人口の拡大、都市部との共創	担当課
(2)地域おこし協力隊の活用と支援	まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
地域おこし協力隊登用数	10人	4人



評価の理由	正式任用は1名だが、次年度の地域おこし協力隊の発掘ができ、R7年3月に体験期間をスタートさせることができたため。
-------	--

PLAN 取組内容	・市内事業者や団体が地域おこし協力隊を活用するためのマッチング支援
--------------	-----------------------------------

DO 事業スケジュール 課題など	新たに事業者からの提案に基づく協力隊の募集（「災害支援システム開発」、「大規模営農」、「アウトドア魅力創出」、「不動産活用」の4件）を5月中に行う。 併せて、通年で既存の協力隊への支援を含め、引き続き、協力隊と事業者・地域を上手く結び付け、移住者の増加と地域活性化につなげていく。
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	地域おこし協力隊の募集セミナーや全国サミットなどへ参加し、周知を図ったが、新規任用は1名となった。
-------------------------------------	---

ACTION 今後の方向性	県や国が主催する地域おこし協力隊募集セミナーへも積極的に参加する。募集要項や募集告知などが堅い印象のため、一般的にわかりやすい仕様へ変更する。 地域おこし協力隊の配置を希望する事業者の拡大を図るため、事例の紹介などを行いながら、積極的に周知を図る。
------------------	---

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	1	・地域おこし協力隊が将来の地域産業の担い手となる可能性を追求していただきたい。
○	6	・能登復興関連の会議において、関係人口の重要性が示唆される中で、【二拠点居住者】の重要性が多く語られている。地域おこし協力隊よりも、二拠点居住者を推進するための補助金事業のほうが、今後は効果的なかも知れない。国に対して、地域おこし協力隊の制度設計を改善する要望を行うことも視野にいれてほしい。 ・地域おこし協力隊には固定観念に囚われない柔軟な発想が期待できると思います。今後も積極的な募集やサポートの充実、地域とのコミュニケーション構築の補助などを進めていただきたいです。 ・協力隊の募集の4件の内容は羽咋の現状やよさをよく考えられているように思う。積極的な周知を継続するとともに、それぞれの内容への手厚い支援の体制を築いてほしい。 ・事業者のニーズを丁寧に把握しながら取組みを継続していってほしい。 ・地域おこし協力隊員を活用し、この地域をさらに発展させていただきたいと思います。 ・地域おこし協力隊の活動は応援したいが、現在どの地域にどんな方がいるのか今ひとつわからない。市広報に赴任時のみならず、例えば隔月毎に各隊員の活動紹介コーナーを設けるなど、市民への活動の見える化を行ってほしい。
△	2	・地域おこし協力隊は任期が終わるといなくなるので見直した方が良い。 ・市が求める役割や対費用効果を検証して、必要に応じて事業の見直しや縮小も必要ではないか。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

13

II 新たなひとの流れをつくる

4 移住・関係人口の拡大、都市部との共創	担当課
(3) ふるさと納税やワーケーションによる関係人口拡大、震災復興のPR	商工観光課

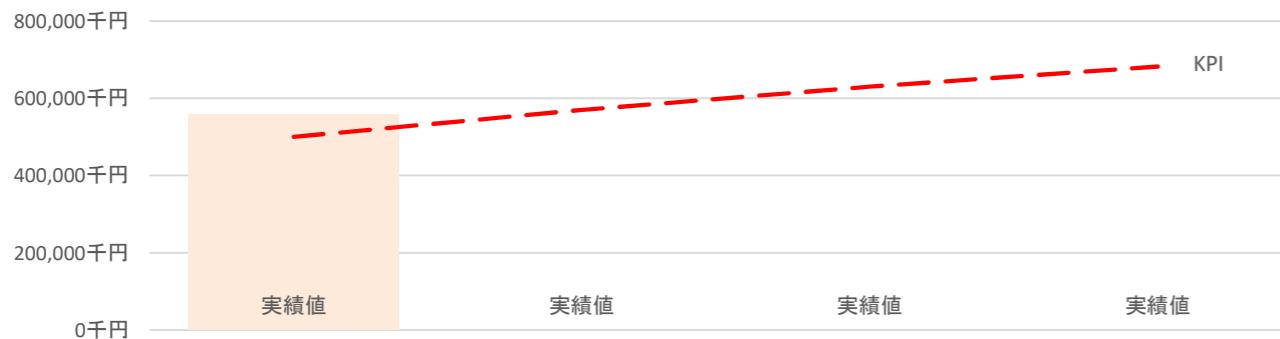
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

①ふるさと納税額

682,000千円

423,244千円



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	500,000千円	570,000千円	630,000千円	682,000千円
実績値	557,000千円	0千円	0千円	0千円
事業費予算額	400,000千円	600,000千円	0千円	0千円
事業費決算額	557,009千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	111.4%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	31.6%	-100.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	◎			

評価の理由 令和7年度以降の目標達成に向け体制を整えた。

PLAN 取組内容 ・民間企業のノウハウを活用した効率・効果的なふるさと納税の推進、企業版ふるさと納税を介した企業とのマッチング推進(被災支援に関する納税を含む)

DO 事業スケジュール 課題など ・新規ポータルサイト事業者の採用
・地域商社との連携強化と、新規返礼品開発促進
・ふるさと納税中間事業者の公募型プロポーザル方式による選定実施
・新商品のSNS等での情報発信や旅行系返礼品のPRCHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証 ・新規ポータルサイトとしてAmazonを導入
・地域商社との連携により、新規返礼品開発として5件追加
・公募型プロポーザルに4社から応募があり、選定委員会が株式会社パンクチュアルを最優秀提案者に選定。優先交渉権者とし、契約交渉の結果、令和7年度から3年間の委託契約を行うことに決定
・翌年度以降の広告運用に向け、試験的に2ヶ月間、クリック課金型サイト内広告を実施

ACTION 今後の方向性 株式会社パンクチュアルが市内に営業所を設置し、返礼品提供事業者と密に連携しながら、官民連携により、ふるさと納税の大幅アップを目指す。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	7	<ul style="list-style-type: none"> ・企業連携による増収は好材料。新規返礼品開発の継続に期待。 ・やり方によってはまだ伸びしきがあり財源の拡充に向けて更なる深化に期待します。 ・仕組みと体制づくりがとても進んでいるように感じる。より充実するために、引き続き、返礼品提供事業者と連携を図り、推進を図ってほしい。 ・取組みが成果に繋がっているため現在の取組みを継続しつつ、羽咋市の魅力を訴求する更なる取組みを期待する。 ・体制整備に向けてしっかりと取組ができたように思われる活動内容。地産商品を全国にPRするためにも取組みを強化してもらいたい。 ・ふるさと納税の寄付は重要だと思います。大いに活性化してほしいと思います。 ・新たなプランと目玉返礼品の開発を！
○	1	<ul style="list-style-type: none"> ・パンクチュアルの職員は市内に定住して事業を進めている。このような定住が望ましい。
△	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税などの自治体も力を入れており、競争が激化しています。個人的には、過剰な競争に割って入る必要はないと思いますが、税収の確保というよりは、市のアピールという効果を目的に事業を進めてほしいと思います。米など返礼品の確保が難しい面もあると思いますので。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

14

II 新たなひとの流れをつくる

4 移住・関係人口の拡大、都市部との共創	担当課
(3)ふるさと納税やワーケーションによる関係人口拡大、震災復興のPR	まちづくり課

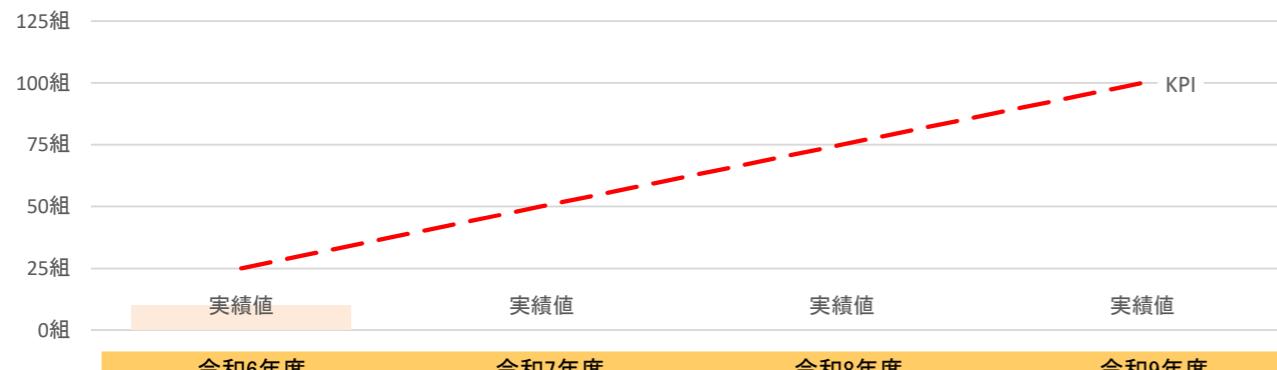
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

②ワーケーション利用者数

100組

-



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	25組	50組	75組	100組
実績値	10組	0組	0組	0組
事業費予算額	2,200千円	3,850千円	0千円	0千円
事業費決算額	2,200千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-	-	-	-
担当課評価	△			

評価の理由 震災の影響で受入れ開始が年度途中になったことと、余震等もあり、また、宿の改修等があったことから、利用者数が伸び悩んだため。

PLAN 取組内容 ・広域的な保育園留学の推進をはじめとする、都市部に住む子育て世帯とのつながりの構築

DO 事業スケジュール 課題など ①震災の影響を鑑み、保育園留学については、8月からリスタートする募集告知を行い、復興と魅力発信を上手く組み合わせた情報発信を図り、都市部からの人の流れの創出につなげる。
②広域的なスケールメリットを生かすため、12月までに保育園留学に係る3市町周遊プログラムを構築する。

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証 震災の影響で受入れ開始が期中になったこと、受け入れ先の宿が改修に入ったことなどが要因で、保育園留学利用者が3組10名と伸び悩んだ。

ACTION 今後の方向性 次年度の予約開始を、R6年11月より開始し、GWから夏休みにかけての顧客獲得を図る。また、広域連携による強みを生かし、キャンペーンも実施する。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	0	
△	7	<ul style="list-style-type: none"> ・この報告書では、一人あたり20万円を差し上げて、田舎暮らし旅行プランを安く提供しているだけのようにも見える。副次的な経済効果を見込んだとして、保育園留学にどれだけの費用対効果が見込まれているのかは、明らかにした方がいい気がする。 ・受入環境の整備を急ぐ必要がある。 ・保育園留学といった発想は意義あることとして捉えている。震災の影響で難しくなった点をどうやって改善するか是非、再検討してほしい。保育園留学利用者がどういった経緯で利用に至ったのか詳しく把握し今後に生かすことを期待する。 ・やむを得ない事情により利用者数は伸び悩んでいるが、粘り強く取り組んでいってほしい。 ・震災の影響が大きかったものと思います。能登や市内の状況を鑑みると、目標達成が現実的なものか？見直しも必要ではないかと思います。 ・ワーケーションは新しい取り組みですが、それほど優先順位が高いとは思いません。 ・個人向けワーケーションと企業向けワーケーションの実績は？
×	0	

令和6年度 輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

15

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

1 出会いの場の提供、結婚支援の強化

担当課

1 出会いの場の提供、結婚支援の強化

こども課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度

基準値
令和4年度

出会い系の場からのカップル成立件数

20件

16件

30件

20件

10件

0件

実績値

実績値

実績値

実績値

KPI

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

5件

10件

15件

20件

実績値

13件

0件

0件

0件

事業費予算額

4,434千円

3,650千円

0千円

0千円

事業費決算額

2,974千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

260.0%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-18.8%

-100.0%

-100.0%

-100.0%

担当課評価

◎

評価の理由

- ・相談者に寄り添った関わりや、出会い系の場の創出を行うことができた。
- ・セミナー等の開催が、マッチング数(カップル成立数)の増加に繋がった。

PLAN
取組内容

・結婚相談員によるマッチング支援の強化

DO
事業スケジュール
課題など

- ①結婚相談員による結婚個別支援
結婚希望登録者に寄り添い、マッチング支援を図る。結婚相談員の研修会を実施する。
- ②民間委託による婚活イベント
公募型プロポーザルで民間業者を選定し、婚活イベントを開催する。
- ③市内団体や中小企業に呼びかけし、HP等で周知を図る。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

- ・結婚相談員:10人、マッチング件数:11件(うち成婚:1件)
- ・民間委託:11/4、12/14の2回イベント実施、マッチング件数:8件
- ・市内団体:2団体4回イベント実施、カップル成立:13件

ACTION
今後の方向性

- ・結婚相談員のスキルアップを図り、活動の強化につなげる
- ・民間委託はプロポーザル実施時期を早めて募集期間に余裕をもって行い、好評だったスキルアップセミナーを委託内容として追加する
- ・出会い系の場から成婚や定住など、将来のライフプランへのフォローアップを行う

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	10	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制強化とフォローアップを期待。 ・参加したくてもなかなか行動に移せない潜在参加者の声を聞く手法があれば大きく前進できるのではないか。 ・LAKUNAでマッチングイベントを開催したり、市内ツアーや(羽咋の七塚巡りなど)を活用したマッチングツアーや面白いと思います。 ・出会い系の場から定住に至るような効果的なライフプランを提示できるようになることを期待する。 ・若者の定住や少子化対策の面からもとても良いと思う。相談員の支援や婚活イベントが有効に働いていると考える。イベントの周知の仕方もあるが、参加しやすい雰囲気もあるので、内容を検討するとともに、各地区の青年団等に働きかける等周知の仕方をさらに工夫していけば良いかと思う。 ・取組みが成果に繋がっているため、マンネリ化に留意しながら本取組みを継続して頂きたい。 ・目標値を大きく上回る実績があり、今後の方向性もしっかりと示されている。成婚やその後の定住なども見据えた総合的な支援を継続してほしい。 ・実績が上がっているのは良いことだ。結婚までつながったのか? ・清潔感や相手への思いやりという基本的なところをつまづく(特に)男性はまだ多いと思うので、結婚希望者へのスキルアップセミナーでは丁寧にフォローアップしてほしい。婚活イベントでは、羽咋市の魅力を参加者にPRすることで、移住定住の促進に繋げる方向性が望ましいのではないか。 ・今後もマッチング支援の強化に期待する。マッチングによる定住増は?
○	1	<ul style="list-style-type: none"> ・こういったイベントに参加するのはとても勇気がいるため、市として企画してもらえたと安心して参加することができそうだと思いました。
△	1	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が率先して出会い系の場をつくるのもいいですが、数値目標にする必要があるかというとわかりません。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

16

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実

担当課

(1) 子育て全般に係る経済的負担の軽減と支援

こども課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

①子育て応援券支給対象となった2子以上世帯の割合

60%

57%

80%

60%

40%

20%

0%

実績値

実績値

実績値

実績値

KPI

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

58%

59%

59%

60%

実績値

56%

0%

0%

0%

事業費予算額

16,300千円

14,100千円

0千円

0千円

事業費決算額

11,200千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

97.6%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-1.6%

-100.0%

-100.0%

-100.0%

担当課評価

○

評価の理由

・R6年度より事業内容を改正し、支援の拡充を図ることができた。

PLAN
取組内容

・出生祝い金、妊娠・出産応援金等の給付

DO
事業スケジュール
課題など①出生祝金の支給(第1子10万円、第2子20万円、第3子30万円、第4子40万円、第5子以降50万円)
②出生祝い金の現金支給に伴う子育て応援券換金事業(R6年度のみ)
③小学校入学祝金(1人あたり3万円)
④出産・子育て応援給付金(妊娠時5万円、出産時5万円)CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証・出生者数:82人(第1子36人、第2子30人、第3子12人、第4子4人)
・未就学児転入:21人
・入学祝金:93人
・出産・子育て応援給付金:174人(妊娠85人、出産89人)ACTION
今後の方向性引き続き、妊娠時から入学まで切れ目ない給付を実施することで、子育て世帯の経済的負担を軽減する。
・子育て施策に関するHPや冊子を随時更新し、安心して子育てできる市をPRし、出生数の増加を図る。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援から充実した教育体制等のトータル支援で市外からの定住もPRしてほしい。
○	8	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域に引を取らない経済的負担軽減策の継続に期待。 ・出産までにかかる費用の助成をどのように取り入れていくかさらに伝えられるとよいのではないか。 ・経済的な支援はありがたい。出生祝金の多子世帯が多く、入学祝等も含め、適切だと思う。羽咋の子育て環境の良さを経済的な視点の他も含めて幅広く(自然や広さ、交通等も)PRにつなげていくことも大切に思う。 ・子供を持つことに対する経済的な不安が和らぐよう、取組みの継続を期待する。 ・金銭的な支援以外の取組みも含め、市全体として「安心して子育てができる」町を目指して継続して取組んでほしい。 ・少子化の是正は重要です。頑張ってほしいと思います。 ・羽咋市の充実した子育て施策が伝わるように、移住を検討している新婚世帯に刺さるPRをがんばってほしい。 ・出生祝い金、妊娠・出産応援金等の給付はとても良い取り組みだと思いました。今後も継続してほしいです。
△	0	
×	0	

令和6年度

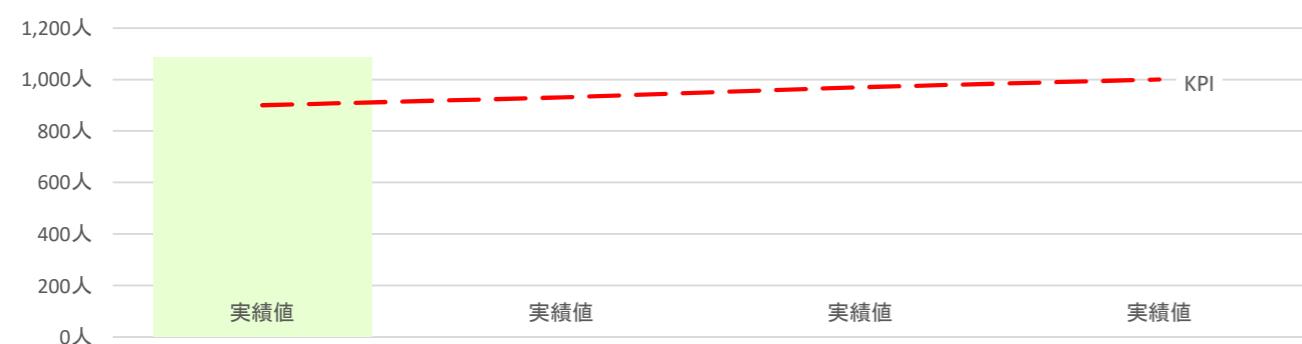
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

17

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実	担当課
(2)専用アプリをはじめとする子育て支援サービスの浸透	こども課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
②子育てアプリの登録者数	1000人	851人



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	900人	930人	970人	1,000人
実績値	1,085人	0人	0人	0人
事業費予算額	3,096千円	3,375千円	0千円	0千円
事業費決算額	3,096千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	120.6%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	27.5%	-100.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	◎			

評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠届出時等を利用して、子育てアプリの利用を勧めたことにより、登録利用者数が伸びた。 アプリを通じて、各種教室の予約やデジタル予診票の活用が伸びた。
-------	---

PLAN 取組内容	子育てアプリの機能拡充、情報発信の強化
--------------	---------------------

DO 事業スケジュール 課題など	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠届や新生児訪問の際にアプリの登録チラシを配布する。 広報やHPで周知する。 各種教室の予約や妊娠届等の質問票等の機能拡充を検討する。
------------------------	--

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	<ul style="list-style-type: none"> 子育てアプリを利用することにより、利用者の利便性向上につながった。 令和6年度の登録者1,085人
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も登録者が増えるように、妊娠届出や各種教室を通じて周知を図る。 利用満足度をアンケートを通じて確認していく。
------------------	---

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	7	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進と機能充実による利便性向上に期待。 満足度アンケートにより改善を繰り返し、利便性と満足度の向上を図ってください。 十分に到達できているので目標値を再検討してはどうだろうか。 子育て世帯にこのようなアプリはありがたいと思う。それが登録しやすいシステムになっていること、今のスマート時代に合っていることが結果につながっていると思う。保育園等へ定期にチラシを配付することもよいかもしれないと感じる。 妊娠届出時等、利用者がアプリに関心を持つタイミングに勧奨することはとても有効だと思うので、継続して頂きたい。 子育て支援サービスの周知や利用者の利便性向上など、重要な役割を果たす取組みである。他の子育て支援策と連携させ発展させてほしい。 利用者の声を聞きながら、アプリの利便性向上に努めてほしい。
○	2	<ul style="list-style-type: none"> このまま順調に推移していくべきです。 妊娠・出産・子育てに不安を感じている人もいると思うので、この取り組みはとても良いと思います。今後も継続してほしいです。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

18

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	担当課
3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)

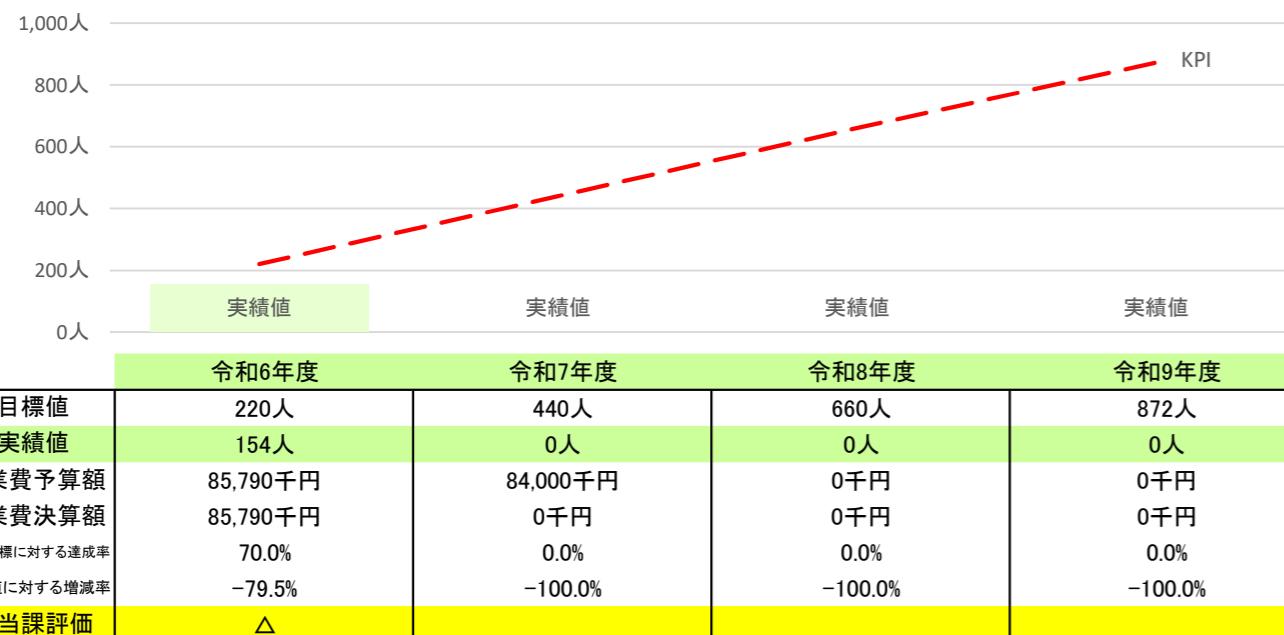
①住まいづくり奨励金の交付による定住者数

最終目標値
令和9年度

872人

基準値
令和4年度

752人



有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	1	<ul style="list-style-type: none"> ・分譲住宅地とそれ以外の場所における新築等への奨励金に差が大きいと感じます。
○	4	<ul style="list-style-type: none"> ・定住促進で住宅が増えているのはよいが、町会費を拒否するという方もいて、地元の住民としての協力も必要と先に案内したほうがよいと思う。 ・千里浜ヒルズ整備等で定住度はある程度効果が感じられる。兵庫が続くことになるが、その他でも場所を検討しながら可能な範囲で広げていければと、思う。 ・重要な施策であると思われる。住宅建設業者に対する周知に加え、住宅金融支援機構もそうだが、地元金融機関との連携も図るべきと考える。 ・奨励金の増額など更なる支援があれば良い。今後も更なる宅地分譲や区画整理事業に期待する。
△	7	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境整備は定住促進に直結。制度周知と支援強化が必要。 ・この内容は、地域整備課だけの問題ではなく、他の課との連携の上で羽咋市として子育て・教育・就労等人生設計をどうサポートしていくのかが関わってくる課題である。 ・新たな分譲地の整備と移住者等に対する奨励金制度の周知を連携させながら進めていってほしい。 ・実績値が実態を現わしているのか。人口増につながっているのか。 ・目標値は累計なのか単年ごとなのかわかりませんが、令和9年度の目標は高すぎるように思います。定住者が増えていけばいいとは思いますが。 ・目標を下回ったことへの原因の分析がないが、なぜか。 ・羽咋市北側の定住促進策は？
×	0	

千里浜ヒルズ分譲地を整備したことでの定住促進について、一定の効果があった。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

兵庫町の分譲地整備を促進し、切れ目のない移住定住を促進する。

ACTION
今後の方向性

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

19

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	担当課
3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)

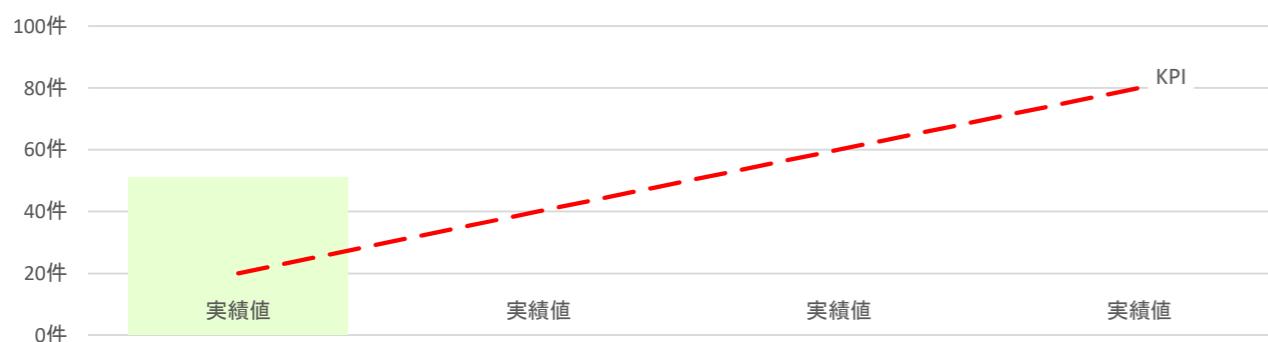
②空き家・空き地バンク成約件数

最終目標値
令和9年度

80件

基準値
令和4年度

59件



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	20件	40件	60件	80件
実績値	51件	0件	0件	0件
事業費予算額	7,400千円	7,400千円	0千円	0千円
事業費決算額	7,400千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	255.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-13.6%	-100.0%	-100.0%	-100.0%

担当課評価	◎
-------	---

評価の理由	目標数値を上回ったため
-------	-------------

PLAN 取組内容	・羽咋市空き家情報バンク(HP運用)による空き家・空き地の利活用(移住ワンストップ窓口支援)
--------------	--

DO 事業スケジュール 課題など	①空き家実態調査を実施(6月入札、6月中旬に事業者とスケジュール、手法など確定、2月までに調査完了)、速やかに利活用できる空き家の確保につなげる。 ②4月～新たに空き家家財処分支援制度をスタート。残置物の処分の良質な空き家の確保につなげ、マッチングの可能性を高める空き家紹介を図っていく。また、360° カメラも取り入れ、インターネット上から空き家の細部を確認できる環境を整える。
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	空き家実態調査の結果、1,043件の空き家があり、そのうち利活用できる可能性の高い物件が640件あった。移住者だけでなく、震災の被災者や復興業者の受入を積極的に行った。 家財処分の補助金利用件数は18件あった。 空き家情報バンクに掲載する物件紹介に、360° VRカメラを導入し、成約率のアップに努めた。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	R6年度に実施した、空き家実態調査を基に、利活用可能物件の所有者へ空き家バンクの登録を促すことで、移住希望者の受け入れ態勢を整える。
------------------	--

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	9	<ul style="list-style-type: none"> 今後はさらに状態の良い空き家が増えてくるので、スピーディーな情報収集と紹介をお願いします。物価も上昇し続けており状態の良い物件は空き家リフォームの住宅ニーズが益々高まると思います。 震災の影響は少なからずあったとは思いますが、素晴らしい実績値であります。様々な施策を継続して行っていただきたいと思う一方、令和7年度の目標値は上方修正してもいいのでは？ 実態調査結果を有効に活用できている。 空き家活用が進んでいて、360° VRカメラ導入等すばらしいと思う。広報はくいや新聞等にも空き家バンクの存在や利便性等の情報を掲載し、周知していけば、幅広く希望を聞くことができると思う。 360° カメラの導入など実需者のニーズを踏まえた取組みが行われており、今後も継続して頂きたい。 実績値が実態を現わしているのか。人口増につながっているのか。 順調だと思います。このまま取り組みを進めていけばいいと思います。 移住定住への施策の柱のひとつとしてこのまま推進してほしい。 地震による実績だけでなく、異なる視点での実績を増やせるかが大切だと考える。
○	1	<ul style="list-style-type: none"> 被災者や復興事業者の受入れもあり、一時的なものにならないように今後のフォローをお願いしたい。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

20

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

4 こどもたちの高い学力の育成

担当課

(1)総合的な学習能力の向上と支援

学校教育課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

①小学校6年生の国語、算数の全国学力・学習状況調査

県平均5P以上維持

県平均5P以上維持

令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度

目標値	5P以上	5P以上	5P以上	5P以上
実績値	国13.6P算14.6P	0	0	0
事業費予算額	2,330千円	1,250千円	0千円	0千円
事業費決算額	1,156千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	—	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	—	-100.0%	-100.0%	-100.0%

担当課評価 ◎

評価の理由 目標値を大きく越えることができたため。新規導入のデジタル教科書の活用が進んだ。

PLAN 取組内容 •AIドリル・電子新聞などデジタル社会に適応した教育の推進、人材の育成

DO 事業スケジュール 課題など ①新規に導入するデジタル教科書やAIドリル、デジタル新聞、電子図書を有効に活用し、基礎学力の定着や学力向上を図る。
②市教育委員会主催の研修会(若手教員2回、中堅教員2回、各主任教員2回等)を開催し、教員の指導力向上を図る。
③「教育活性化プラン」を作成し、各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた特色ある教育活動を推進する。CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証 デジタル新聞やAIドリルを積極的に活用したことで、小学校6年生の全国学力・学習状況調査において、県平均を国語で13.6P、算数で14.6P上回った。
R7. 1に実施した市学力調査においても、全国平均を大きく上回ることができた。ACTION 今後の方向性 ①高い学力を維持するため、各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた特色ある教育活動の積極的な推進を図る。
②「Hakuism DIVE」によりデジタル環境を整備し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	8	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材の積極的活用を推進する。 ・安定的に良好な実績が継続できているので市の誇れる取り組みです。合わせて総合的な教育としてメンタルの特徴的な取り組みも付加価値として検討してみては。 ・学校のデジタル環境が整備され、端末を活用した質の高い授業が実践されている。それぞれの学校で創意工夫しながら確かな学力を身に付ける取組がなされている。引き続き、AIドリル、電子図書等を使用できる環境を継続するとともに、体験して学ぶ場の充実を確保できると良いと思う。 ・昨年度の成果が一過性のものにならないよう、取組みの深化・発展を期待する。 ・実際に取材をしていても、羽咋市の小中学生の学力レベルの高さを感じる場面は多いです。ふるさと学習も盛んに行われており、この取り組みを継続してほしいと思います。 ・順調でいいと思います。このまま取り組みを続けていけばいいと思います。 ・通常授業の時間を割いて過去問を解くような問題点も聞いている。点数偏重より考える力を伸ばす教育が重要ではないか。せっかくなら、こどもたちの高い学力水準を実現している市の取り組みは、羽咋市のPRポイントとして、妊娠時からの切れ目ない子育て支援の一環の位置づけでどんどんアピールすべきだと思う。 ・学校現場では、よく工夫・努力をされていると思う。
○	1	・小・中と高い学力が向上しているのは素晴らしいが、その後、子供達の地元に対しての貢献までつなげていけるシステムがあると良いのではないか。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

21

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

4 こどもたちの高い学力の育成

担当課

(2)グローバル社会に対応した英語教育の推進

学校教育課

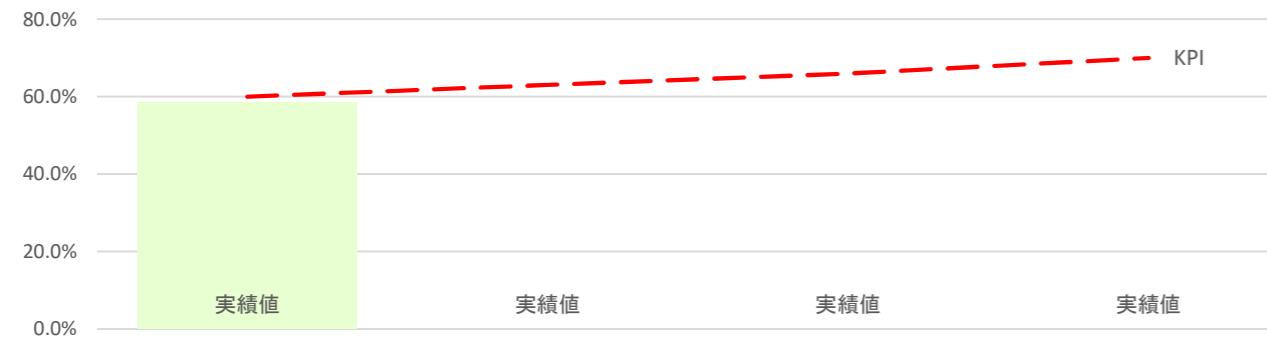
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

②中学3年生の英検3級以上取得率

70.0%

56.1%



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	60.0%	63.0%	66.0%	70.0%
実績値	58.4%	0.0%	0.0%	0.0%
事業費予算額	2,234千円	2,123千円	0千円	0千円
事業費決算額	995千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	97.3%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	4.1%	-100.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	○			

評価の理由 目標値をやや下回ったため。助成件数は微増し、助成金額は微減であった。

PLAN 取組内容 ・小中学生の英検受験費用の助成

DO 事業スケジュール 課題など ①小中学校共に年2回の英語検定料受験料補助を行い、英語に親しむ環境づくり、継続して英検に取り組み、国際的に活躍できる人材育成を目指す。
②外国語指導助手を(ALT)を配置し、小中連携した外国語教育の充実に取り組む。
③中学生のアメリカ派遣研修事業の代替として、英語づけの体験型国内研修の実施。
④国立能登青少年交流の家と連携して、市内全小学校の高学年を対象とした、イギリッシュキャンプを実施する。

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証 小学生の4, 5級への挑戦が増えた一方で、対象である中学3年生の上位級への受験が昨年と比較して少なかった。

ACTION 今後の方向性 年2回の英検受験料補助や受験推奨のほか、学んだ英語を対面で活用する機会(イギリッシュキャンプなど)を設け、学習意欲を高める取組を行なう。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	3	<ul style="list-style-type: none"> ・英語は将来的に必要となる場面が多くなるため、英語に触れる機会を増やしていく仕掛け・事業がなくてはならないと思います。 ・羽咋市の高度な教育体制は誇れる取り組みだと思います。 ・英検受験費用の助成はとても良い取り組みだと思います。受験費用が助成されることで、英検への最初の一歩を踏み出しやすくなると思います。
○	6	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材育成の基盤。受験促進と体験型学習の強化に期待。 ・英語を学ぶことが将来どのように役立つか。広く学びのモチベーションを上げる取り組みも取り入れることも検討してみては。 ・英語検定料の助成は保護者にはありがたく、学校での英語教育推進の大きな後押しとなっている。ALTや英語専科の配置で、英語の関心を高め、コミュニケーション力の育成につながっている。英語推進の土台があり、日々の授業や活用場面を増やす取組、オンラインのアプリや問題を丁寧に行なうことで効果的に活用していけば力が高まると思う。 ・簡単ではないと思うが、小中学生が自ら英語を学習したいと思うような体験の機会の創出を期待する。 ・継続した地道な取り組みが徐々に成果に現れてくるものと思われ、今後にも期待したい。 ・高い目標を掲げて英検取得を目指そうとするのはいいと思います。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

22

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

5 ひとり親家庭への支援強化

担当課

5 ひとり親家庭への支援強化

こども課

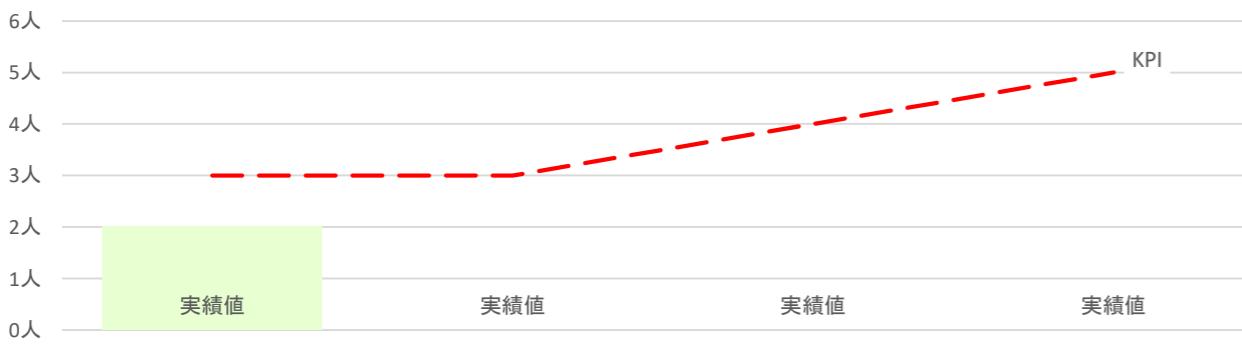
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

高等職業訓練給付金による延べ就労支援者数

5人

2人



令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度

目標値 3人 3人 4人 5人

実績値 2人 0人 0人 0人

事業費予算額 5,837千円

事業費決算額 2,086千円

年度目標に対する達成率 66.7%

基準値に対する増減率 0.0%

担当課評価 ○

評価の理由 制度の周知を積極的に行ったが、目標値には届かなかった。

PLAN 取組内容 自立支援教育訓練給付や高等職業訓練促進給付による、ひとり親への就労支援

DO 事業スケジュール 課題など 広報や市HPをはじめ、市公式LINEや窓口での周知を随時行う。資格取得を迷っている方へ積極的に提案する。

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証 高等職業訓練給付金事業についての周知を積極的に行った。
問い合わせが何件かあったものの、支給対象に至らなかった。
支給実績 2人
非課税世帯支給延月数12月
課税世帯支給延月数3月(R6.7卒業、7月は出席0日のため支給対象外)

ACTION 今後の方向性 現況届等の窓口来庁時や新規申請者への家庭訪問での丁寧な状況把握とにより、適切な支援制度の周知とリスクリングによる自立支援を積極的に行う。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	3	<ul style="list-style-type: none"> 支援制度も大切であるが、1人親家庭それぞれに見合った生活環境となっているか、生活できる就労があるかを把握し、生活のための適切な就労への案内や助言も大切だと思う。特に、適切な消費生活が行われていない場合は、積極的な働きかけや助言が必要だと考える。 家庭の経済状況等に問わらず社会で活躍する人材になることができる環境の整備は重要な取組みであり、制度の周知等を充実させていって頂きたい。 目標はかなり高いですが、このまま取り組みを続けていけばいいと思います。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

23

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

6 女性活躍の社会と交流の場の創出

担当課

6 女性活躍の社会と交流の場の創出

総務課

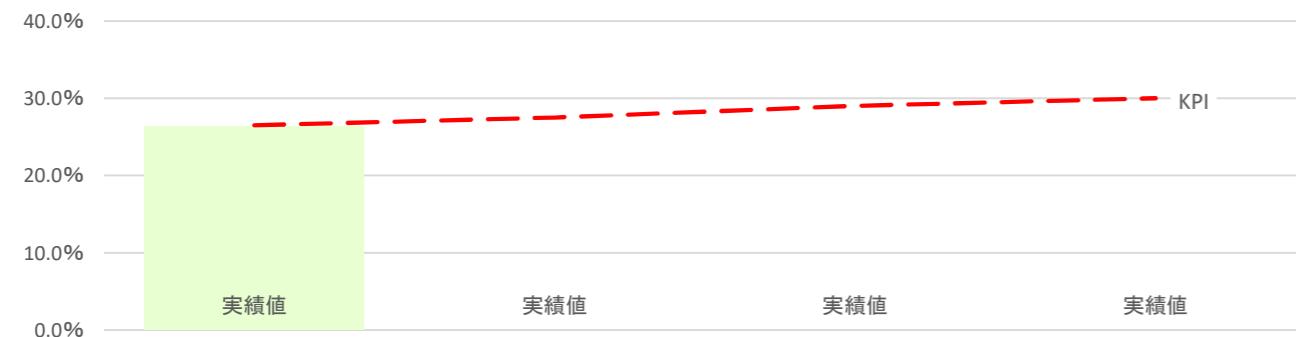
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

審議会等における女性委員登用率

30.0%

25.0%



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	26.5%	27.5%	29.0%	30.0%
実績値	26.4%	0.0%	0.0%	0.0%
事業費予算額	434千円	277千円	0千円	0千円
事業費決算額	145千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	99.6%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	5.6%	-100.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	△			

評価の理由

目標値には届かなかったが、前年度と比較し上がっている。

PLAN
取組内容

・男女共同参画の意識づくりの推進

DO
事業スケジュール
課題など

羽咋市男女が共に輝くまちづくりプラン(第5次)の成果について検証する。
男女共同参画の意識づくり推進のため、男女共同参画推進委員とともに、啓発事業を計画し、市民が男女共同参画への関心を持つきっかけとなるよう努める。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

R6.11～12にかけ、市民意識調査を実施し、市民の男女共同参画に対する意見を収集し800人に送付、414人から回答があった。啓発事業は、男女共同参画週間に市図書館で図書企画展の実施、女性に対する暴力をなくす運動週間に市施設3ヶ所にパープルリボンリボンツリーを設置し啓発に努めた。また、市男女共同参画推進委員研修を実施し、委員8名が参加した。

ACTION
今後の方向性

昨年度実施した市民意識調査の結果、年を経るごとに育児・教育への男性の参加や市民活動・地域活動への女性参画が進むなど市民の意識が少しずつ変化していると感じている人が多いが、依然として固定的な性別役割分担意識が残っているようにみられた。固定的な性別役割分担を解消し、人権を尊重したジェンダー平等社会の実現に向けて、新プランを策定していく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	1	・目標が低いと思います。女性委員の登用率は5割を目標にすべきです。
△	5	・啓発活動の強化を。 ・30%に目標設定するとそれに合わせた進度になってしまうような気がする。目標を高くすれば意識も結果も変わってくると思う。 ・市民の意識調査を逸した点は良かったが、回収率が意外と低かったのではないか。 ・意識の変化には一定の時間を要すると考えられるため、地道に取組みを継続していってほしい。 ・男女共同参画がなかなか進まないのはなぜか。社会のマインド的にも振り戻しが起きているように見える。最終的な数値目標を50%とし、コツコツ男女比率を近づける努力を重ねるのみと思える。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

24

IV 安全・安心な生活環境をつくる

1 公共施設の計画的な最適化、都市基盤の維持

担当課

1 公共施設の計画的な最適化、都市基盤の維持

地域整備課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

①橋りょうの集約化

1箇所

-

2箇所

1箇所

KPI

0箇所

実績値

実績値

実績値

実績値

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

1箇所

1箇所

1箇所

1箇所

実績値

0箇所

0箇所

0箇所

0箇所

事業費予算額

20,000千円

35,667千円

0千円

0千円

事業費決算額

14,839千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

0.0%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-

-

-

-

担当課評価

○

評価の理由

目標は下回っているが、今後対策完了が見込まれるため。

PLAN
取組内容

・道路、橋りょうの点検及び修繕、長寿命化の推進

DO
事業スケジュール
課題など

橋梁長寿命化計画を基に、橋梁点検により損傷の状況を確認しながら、必要に応じて安全確保上最低限の対策を行い撤去が必要か検討していく。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

地元協議により、橋梁集約化の橋を特定した。

ACTION
今後の方向性

撤去・修繕に向け設計を実施する。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「転ばぬ先の杖」、何かあってからでは遅いので万全の対策をお願いします。 ・対策完了に期待する。 ・道路の修繕等が多いとは思うが、安全面で最優先すべき、最低限確保しなければならない箇所を把握し、それぞれの点検・工事を優先順をつけながら進めていってほしい。 ・地域のコンセンサスを図りながら丁寧に進めていって頂きたい。 ・取り組みを進めていただきたいと思います。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

25

IV 安全・安心な生活環境をつくる

1 公共施設の計画的な最適化、都市基盤の維持

担当課

1 公共施設の計画的な最適化、都市基盤の維持

地域整備課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

②狭い道路の解消

3箇所

6箇所

4箇所

3箇所

2箇所

1箇所

0箇所

KPI

実績値

実績値

実績値

実績値

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

1箇所

2箇所

2箇所

3箇所

実績値

0箇所

0箇所

0箇所

0箇所

事業費予算額

5,000千円

5,000千円

0千円

0千円

事業費決算額

3,938千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

0.0%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-100.0%

-100.0%

-100.0%

-100.0%

担当課評価

△

評価の理由

目標は下回っているが、今後対策完了が見込まれるため。

PLAN
取組内容

・狭い道路の整備

DO
事業スケジュール
課題など

民間の確認申請を必要とする工事に合わせ、敷地のセットバック(建築基準法42条2項道路)に伴い道路整備を実施する。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

一部区間で拡幅工事が完了した。

ACTION
今後の方向性

公費解体により拡幅が可能となった区間から工事を実施するとともに、路線全体の拡幅が完了するよう、地権者と協議を継続する。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	2	<ul style="list-style-type: none"> ・対策完了に期待する。 ・市内は狭い道路が多いので、目標を立てて進めていくのはいいと思います。
△	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地権者との協議が重要だと考える。地権者が、いわゆる「損をする・不利になる」という状況にならない納得できる交渉が必要であると感じる。そのため、きちんと条件を説明して納得できるよう進めていって頂きたい。 ・地域のコンセンサスを図りながら丁寧に進めていって頂きたい。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

26

IV 安全・安心な生活環境をつくる

1 公共施設の計画的な最適化、都市基盤の維持

担当課

1 公共施設の計画的な最適化、都市基盤の維持

地域整備課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

③未占用箇所数

90箇所

97箇所

125箇所

100箇所

75箇所

50箇所

25箇所

0箇所

実績値

実績値

実績値

実績値

KPI

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

97箇所

94箇所

92箇所

90箇所

実績値

96箇所

0箇所

0箇所

0箇所

事業費予算額

0千円

0千円

0千円

0千円

事業費決算額

0千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

99.0%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-1.0%

-100.0%

-100.0%

-100.0%

担当課評価

○

評価の理由

目標と同程度のため

PLAN
取組内容

・未占用法定外公共物の把握・解消

DO
事業スケジュール
課題など

法定外公共物の不適切な使用を行っている場所の特定調査を行い、使用者への売却用交渉を実施する。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

法定外の売り払いを1件実施した。

※目標値は、売り払い件数を97箇所から減じることとしている。

ACTION
今後の方向性

順次、未占用法定外公共物の調査を実施するとともに、広報等で情報を周知し、適切に管理を行う。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	4	<ul style="list-style-type: none"> ・未占用法定外公共物の解消は様々な問題を抱えていると感じます。当該箇所の認知をはじめとした幅広の周知が必要ではないでしょうか。各町会を通じた広報活動も手段の一つであると思います。 ・本件に対する市民の理解が深まるよう取組みの継続を期待する。 ・このまま取り組みを進めていけばいいと思います。 ・使用者への売却交渉は市から能動的に働きかけを行っているのか？
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

27

IV 安全・安心な生活環境をつくる

2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築

担当課

(1)住宅耐震化率の向上、老朽空き家対策

地域整備課

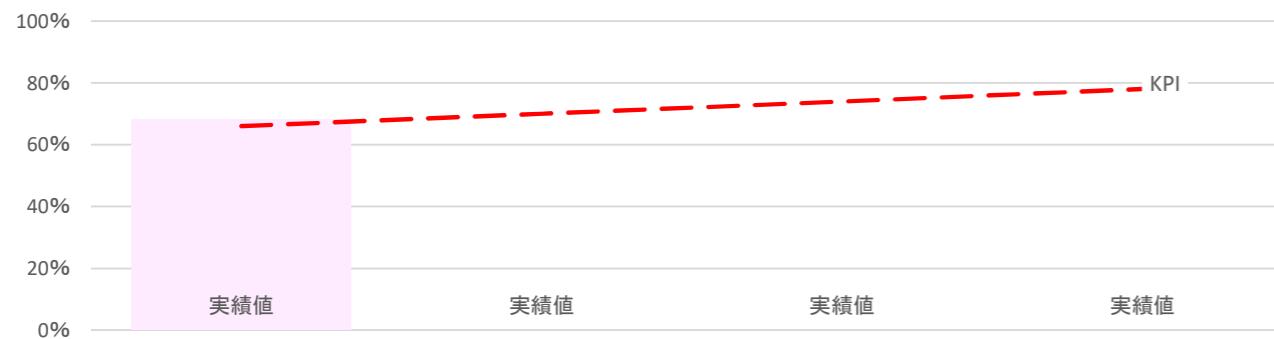
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
平成30年度

住宅の耐震化率

78%

64%



目標値

実績値

事業費予算額

事業費決算額

年度目標に対する達成率

基準値に対する増減率

担当課評価

評価の理由

PLAN
取組内容DO
事業スケジュー
ル
課題などCHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証ACTION
今後の方向性

目標を上回ったため

・住まいの耐震化の支援

羽咋市住宅耐震化緊急促進アクションプログラムに基づき住宅の耐震化を図る。
耐震診断及び耐震改修に対する補助制度を実施する。
経済的な理由で住宅全体の耐震補強が難しい方のために部分的な耐震補強(簡易耐震補強工事)に対する補助制度を新たに設ける。
普及啓発として緊急輸送道路沿いの住宅を対象に戸別訪問や普及啓発通知を送付する。
市民向け個別相談会を実施する。

耐震改修工事5件、簡易耐震補強7件、耐震診断33件の実績。
7月に旧耐震基準の住宅だけでなく被災住宅も新たに補助対象とし、補助額を40万円上乗せし最大200万円とした。
併せて、耐震改修ではなく被災住宅を解体し住宅を新築することで地震に対する安全性が向上する建替え工事も新たに補助対象とした。
なお、公費解体等により154件の住宅は解体された。

引き続き、羽咋市住宅耐震化緊急促進アクションプログラムに基づき普及啓発を実施する。
耐震改修工事・建替え工事に係る補助額を50万円上乗せし最大270万円とともに、
簡易耐震補強工事も15万円に拡充し、耐震化を促進していく。
また、手元に資金がなくても融資を受けて耐震改修ができるよう、高齢者向けの耐震改修利子補給制度を利用可能とする。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	8	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震化率を高めて災害に強いまちづくりを推進して下さい。 ・今後万が一に備え、積極的な推進をお願いします。特に緊急輸送道路等主要な道路沿いの住宅については、倒壊した場合は救助等に支障がでるなど影響が大きいことから、積極的に耐震化していただけるよう支援をお願いします。どのように進めたらよいかわからない市民もいると思うので、耐震化診断や耐震化工事をどこの方に相談したらよいか、その他手順等を教えていただける相談会など補助金と併せその他の支援もお願いできたらと思います。 ・地震に対する安全性が向上する建て替え工事も補助対象とした点が評価に値する。 ・耐震診断や補助、個別相談などは適切で、該当家屋の所有者にはとてもありがたかったと思う。制度だけでなく、定期に耐震化や診断を呼びかけたり、現在使用していない家屋等について診断等を促したりする場面が増えると良い。 ・本件は市民の関心が高い分野だと考えられるため、より多くの市民に伝わるよう周知活動の継続・拡充を期待する。 ・耐震化は急ぐ必要があり、分かりやすい制度紹介と場合によっては地元金融機関へも制度について説明し、融資対応等が必要になるケースに備えることも検討すべき。 ・順調に推移していると思います。積極的に進めていただきたいと思います。 ・復旧から復興への段階で、重要な取り組み。
○	1	・もう少し普及啓発を。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

28

IV 安全・安心な生活環境をつくる

2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築

担当課

(2)防災・減災対策の強化

地域整備課

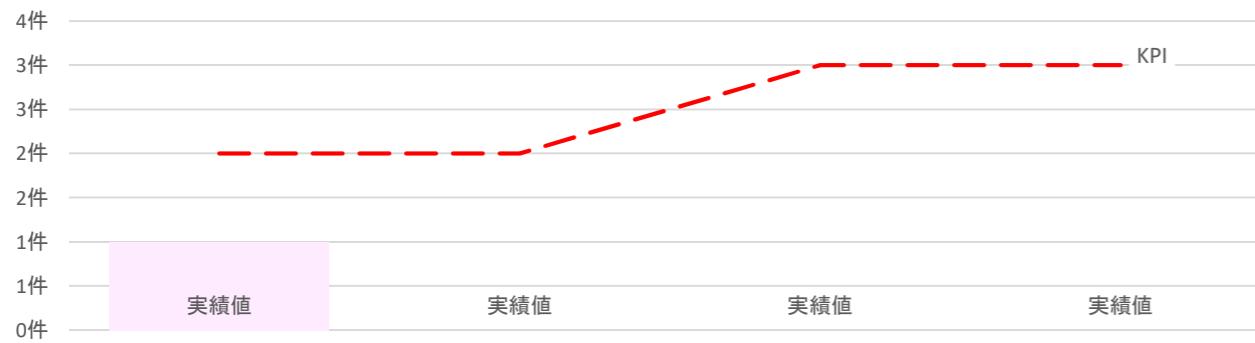
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

①がけ地対策工事支援の申請件数

3件

2件



目標値 2件 実績値 2件

実績値 1件 実績値 0件

事業費予算額 1,000千円

事業費決算額 1,000千円

年度目標に対する達成率 50.0%

基準値に対する増減率 -50.0%

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

29

IV 安全・安心な生活環境をつくる

2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築

担当課

(2)防災・減災対策の強化

地域整備課

重要業績評価指標(KPI)

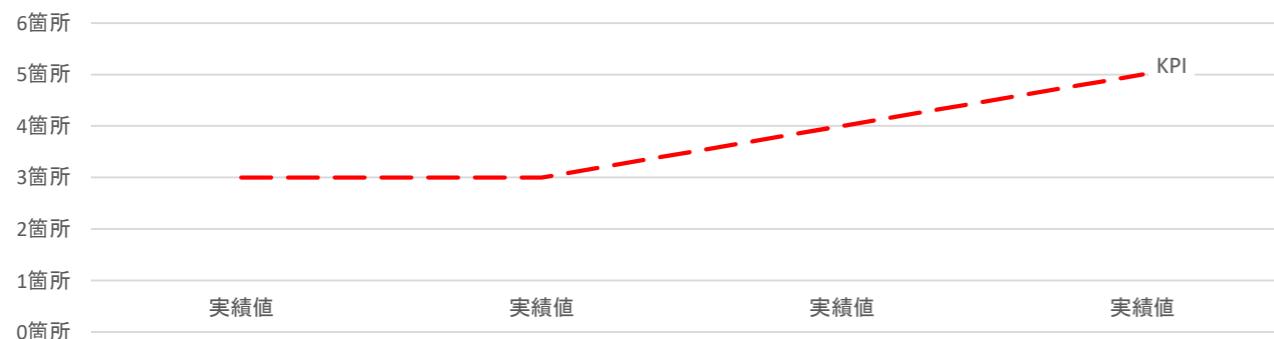
②冠水箇所改善件数

最終目標値
令和9年度

5箇所

基準値
令和4年度

2箇所



実績値 実績値 実績値 実績値

令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度

目標値	3箇所	実績値	3箇所	目標値	4箇所	実績値	5箇所
実績値	0箇所	実績値	0箇所	実績値	0箇所	実績値	0箇所
事業費予算額	55,000千円	事業費決算額	75,000千円	年度目標に対する達成率	0.0%	基準値に対する増減率	0.0%
基準値に対する増減率	-100.0%	目標値	72,000千円	実績値	0.0%	実績値	0.0%
目標値	3箇所	実績値	0箇所	目標値	0千円	実績値	0千円
実績値	0箇所	実績値	0箇所	実績値	0千円	実績値	0千円
年度目標に対する達成率	0.0%	基準値に対する増減率	-100.0%	目標値	0.0%	実績値	0.0%
基準値に対する増減率	-100.0%	目標値	-100.0%	実績値	-100.0%	実績値	-100.0%

担当課評価

△

評価の理由

目標は下回っているが、今後対策完了が見込まれるため。

PLAN
取組内容

・調整池の整備

DO
事業スケジュー
ル
課題など

①西出川改修工事については、令和6年度に全体計画の見直しを行い地元との調整及び関係機関と協議をしながら工事を進めていく。
 ②金丸出排水設備については、令和6年度に詳細設計及び地権者との協議を行い理解を求めて用地買収を進めていく。
 ③寺家町排水対策については、石川県が実施する工事の負担金を支払う。(R6用地買収・埋文調査・調整池工事)
 ④千里浜調整池整備については、令和6年度から着手し令和7年度完了予定(2ヵ年計画)

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証西出川改修は、地元協議を行った。
金丸出調整池は、実施設計を行った。
千里浜調整池整備については、令和6年度から工事着手した。ACTION
今後の方向性

設計がまとめた事業から、順次工事着手を実施する。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	2	<ul style="list-style-type: none"> ・対策完了を期待する。 ・積極的に進めていけばいいと思います。
△	2	<ul style="list-style-type: none"> ・完了はしていないが、確実に進み始めていると思う。防災のために、地元や業者と連携を図りながら早めに工事が進むよう配慮してほしい。 ・地域のコンセンサスを図りながら丁寧に進めていって頂きたい。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

30

IV 安全・安心な生活環境をつくる

2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築

担当課

(3)地域における防災拠点の整備

生活安全課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

防災備品ストックのための分散拠点数

10箇所

6箇所

12箇所

10箇所

8箇所

6箇所

4箇所

2箇所

0箇所

実績値

実績値

実績値

実績値

KPI

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

2箇所

5箇所

7箇所

10箇所

実績値

2箇所

0箇所

0箇所

0箇所

事業費予算額

18,000千円

0千円

0千円

0千円

事業費決算額

0千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

100.0%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-66.7%

-100.0%

-100.0%

-100.0%

担当課評価

○

評価の理由

交付金事業の繰越予算を活用し、整備することに変更となった。

PLAN
取組内容

・防災機能の分散推進

DO
事業スケジュー
ル
課題など

防災機能の分散化に向けて、自主防災組織や町会における防災備品整備の支援や各公共施設の防災備蓄品の補充を定期的に行い、災害に備える。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

交付金事業の繰越予算を確保したため、令和7年度に6箇所の整備をすることに変更となった。

ACTION
今後の方向性

交付金事業を活用して、令和7年度内に6箇所に設置を進める。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	1	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の観点から備品拠点は2箇所では当然足りません。急務な事業であるとも感じますし、今年度6箇所の整備を予定しているのであれば、目標値も変更すべきではないでしょうか。
○	7	<ul style="list-style-type: none"> ・分散拠点の分散化は重要であり整備を進めていただきたいが、拠点数が増えることで連携も必要になることから、ある程度の枠組みの検討もお願いします。 ・具体的に町会における防災備品整備がどの程度なされているのか、住民に周知されているのか。 ・防災の備品の分散ストックに確実に踏み出しているのが良い。できれば、それぞれの箇所で、何がどこにどのくらいあるのか、明示されているものがあると、いざという際に戸惑わず、定期的な点検も行いやすくなるかと思う。 ・市民の安心安全のため計画的に進めていって頂きたい。 ・今後も計画的に整備していく必要がある。 ・積極的に進めていただきたいと思います。 ・震災を経験し、今後の防災を考える上で分散防災拠点は非常に重要になると思う。ぜひ拡充を進めてほしい。
△	0	
×	0	

令和6年度

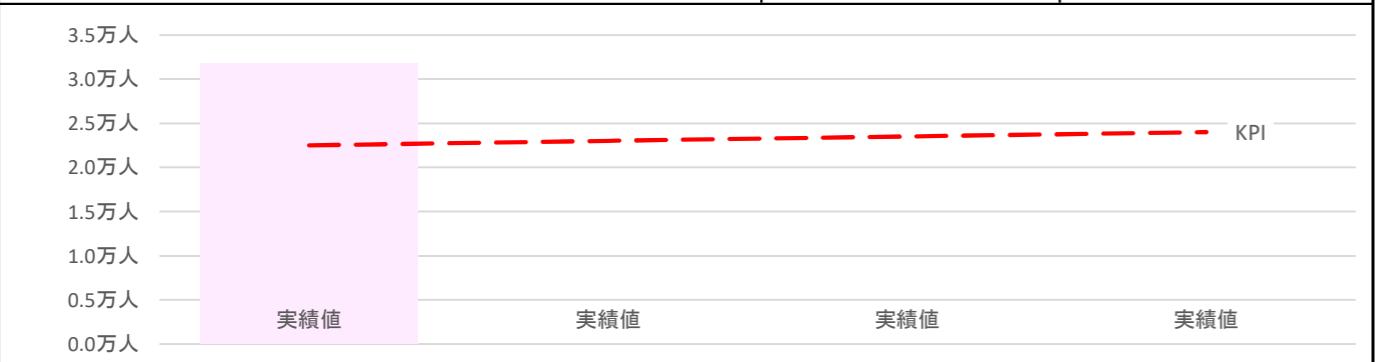
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

31

IV 安全・安心な生活環境をつくる

3 市街地と地域を結ぶ有機的な公共交通網の構築	担当課
3 市街地と地域を結ぶ有機的な公共交通網の構築	企画財政課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
市公共交通利用者数	2.4万人	2.2万人



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	2.3万人	2.3万人	2.4万人	2.4万人
実績値	3.2万人	0.0万人	0.0万人	0.0万人
事業費予算額	94,375千円	102,691千円	0千円	0千円
事業費決算額	88,559千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	141.3%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	44.5%	-100.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	◎			

評価の理由 令和6年7月から、新しい地域公共交通(AIデマンド交通及びコミュニティバス等)をスムーズに開始し、利用者も目標を大きく上回った。

PLAN 取組内容 ・多様なニーズに対応するため、AIを活用した新たな交通手段の導入(デマンド交通)

DO 事業スケジュール 課題など 4月 地域公共交通協議会にてるんるんバスの再編後のルート、ダイヤ等とAIデマンド交通の停留所について承認を得る。
5月～6月 住民説明会にて、新たなるんるんバスのルート、ダイヤやAIデマンド交通の利用方法、路線バスの利用促進事業、交通空白地の高齢者タクシー利用助成について周知を図る。
6月 るんるんバスのガイドブックを沿線地区に、AIデマンド交通のガイドブックを停留所設置地区に配布し、利用促進を図る。
7月 るんるんバスの新ルート、新ダイヤでの運行、AIデマンド交通の運行、路線バスの利用促進策、交通空白地の高齢者タクシー利用助成、バス待ち環境向上への取り組み支援、外出支援活動への支援を開始する。
7月以降 利用状況を確認、分析し、利用促進策を検討していく。

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証 ・地域公共交通利用促進施策
各種助成制度の設計、要綱策定
5月～6月 住民説明会
7月 ・AIデマンド交通(のるまいかー)の運行開始
・コミュニティバス(るんるんバス)ルート再編
・交通空白地のタクシー及び路線バス利用助成
12月 ・令和7年度からの運行事業者の選定・契約
・利用者アンケートの実施

ACTION 今後の方向性 利用状況や利用者のニーズ等を把握し、分析を行う。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	8	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望を聞き取りしながら効果、効率的な運用に努めてください。 これだけ多くの利用があった背景には「のるまいかー」の運行開始があったと思いますし、それだけ交通弱者が多いという問題が浮き彫りになったのではないでしょうか。のるまいかーの運用台数を増やすことはできませんか? 利用者が目標を上回っているからこそ利用者の声を集約しておく必要がある。 安価でいろいろな方面に行くのに便利なるんるんバスに加え、AIデマンド交通が運行し、車を持たない市民も市街地へ行きやすくなっている。コースや利用の仕方をさらに周知して、幅広く利用できるようにすると良いと思う。 利用者が目標を大きく上回っているため、その要因を分析の上、更なる取組み(利用促進)を期待する。 交通弱者対策としては良い。 交通弱者にとって公共交通は命綱。積極的に利活用されているのはよい。 のるまいかーも市内をよく走っているのを見かけるので、今後もより良い運用を期待します。
○	2	<ul style="list-style-type: none"> のるまいかーは中学生部活動の地域移行にも活用するなど、有効に利用されている。今後も利用促進を図っていっていただきたい。 目標を大きく上回っており、素晴らしいことだと思います。このまま取り組みを進めていただきたいと思います。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる			
32			1 誰もが生涯活躍できるまちの構築
(1) 健康的な生活を送るための支援			担当課 健康福祉課
重要業績評価指標(KPI)		最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
糖尿病(性腎症)による新規透析導入者の割合		30%	40%
実績値		実績値	実績値
令和6年度		令和7年度	令和8年度
目標値	38%	35%	32%
実績値	14%	0%	0%
事業費予算額	296千円	1,645千円	0千円
事業費決算額	268千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	36.8%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-65.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	○		
評価の理由	R6年度糖尿病性腎症によって新たに透析が必要となった者は、1人いたが前年度と比較すると減少している。		
PLAN 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病性腎症ハイリスク者への個別支援 		
DO 事業スケジュール 課題など	<ul style="list-style-type: none"> 特定健康診査受信者は、いしかわ糖尿病性腎症重症化プログラムをもとに対象者を抽出し、家庭訪問や来所により個別指導を実施する。健診未受診者は、KDBやDHPなどのシステムを使い対象者を抽出し指導していく。 対象者抽出における課題として、羽咋市国民保険加入者はシステムで抽出ができるが、社会保険加入者は状況把握が難しくハイリスク者を抽出し個別指導を実施することが難しい。その点を補うためにポピュレーションアプローチとして、各地域での集団教育の実施を検討する。 糖尿病未治療者には、かかりつけ医や糖尿病専門医への受診を勧奨し、治療中の方には、かかりつけ医に保健指導の指示をもらう。また、かかりつけ医へ保健指導内容を伝達する。 羽咋都市糖尿病地域連携協議会(年3回開催)において、関係機関との連携を図る。 		
CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	<ul style="list-style-type: none"> 特定健康診査受診者からいしかわ糖尿病性腎症重症化プログラムにより対象者164人を抽出し、家庭訪問等で92人に個別指導を実施した。 個別指導実施率は56%であったが、優先順位をつけリスクの高い方を中心に個別指導を実施することができた。 また、中間評価のための二次検査を実施した。個別指導対象者中10人が受診し、7人の検査データ改善が確認できたため、重症化を防ぐような個別指導が実施できた。 ・国民健康保険加入者は特定健診やKDBシステムからデータをとることができが、社会保険加入者のデータは把握できない。 ・検討していた地域での集団教育について、実施できなかった。 		
ACTION 今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問等で個別指導を行う優先順位を含め、対象者の抽出基準を優先順位を細かく設定する。 ・ポピュレーションアプローチとしての地域での集団教育ができなかったことから、今後、糖尿病専門医による講演会などを含めて地域での健康教育の実施を検討していく必要がある。 		

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	3	<ul style="list-style-type: none"> ・健康支援は労働力維持に必須。個別指導強化と医療連携が重要。 ・個々の対象者に対する個別指導と講演会等での啓蒙活動を連携させながら取り組んでいってほしい。 ・取り組みを続けていけばいいと思います。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

33

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

1 誰もが生涯活躍できるまちの構築

担当課

(2)介護予防の浸透と交流の場の創出

地域包括ケア推進室

重要業績評価指標(KPI)

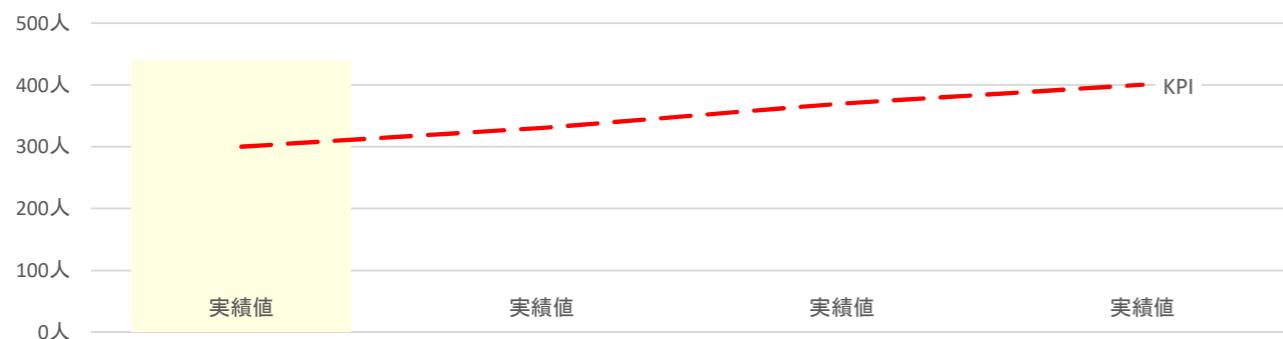
介護予防ポイント事業参加者数(実人数)

最終目標値
令和9年度

400人

基準値
令和4年度

263人



目標値

300人

実績値

440人

目標値

330人

実績値

0人

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

実績値

0人

0人

0人

事業費予算額

860千円

事業費決算額

606千円

年度目標に対する達成率

146.7%

基準値に対する増減率

67.3%

目標値

実績値

目標値

実績値

実績値

実績値

実績値

実績値

担当課評価

◎

評価の理由

介護予防ポイントの参加団体の増加と介護予防ポイントの拡充により、参加者数が増加し、目標値を大幅に上回ったため。

PLAN
取組内容

・介護予防ポイント事業の実施

DO
事業スケジュール
課題など

対象活動・場所の拡大。
4月からポイント交換率を拡大し、20ポイントでUFOカードポイント引換券300円分(R5年度200円)、60ポイント(R5年度100ポイント)でUFO商品券千円分と交換する。
対象活動を実施している団体で未登録の団体には、登録を勧める。
対象場所としてラクナはくいを登録できないか検討する。

CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

4月からポイント交換率を拡大した。
既登録団体の活動について広報で周知をし、未登録の団体には登録を勧め、新規で13団体が登録した。

ACTION
今後の方向性

介護予防ポイントのデジタル化を図り、更にポイント交換率を拡充する。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	6	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化対策として効果的。参加拡大と利便性向上を推進。 ・参加者数が増えて介護予防に関する意識がもっと高まるなどを期待します。 ・目標値を大きく上回っている。今後の目標値を変更する必要がある。 ・高年齢の方の活動を豊かにする、意欲を向上する意味で大変有効である。地域の老人会にもしっかりと周知し、連携して普及する等、より参加しやすい、または登録しやすいシステム作りをしていければより活性化できる等に思う。 ・制度の浸透が着実に進んでいると思われるため、本取組みの継続・深化を期待する。 ・介護予防に关心のある市民が多いことはいいことです。積極的に進めていただきたいと思います。
○	0	
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

34

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

2 各地域の現状にあった地域づくり、支えあいの仕組みの浸透

担当課

(1) 地域の特徴を生かした取り組みの推進

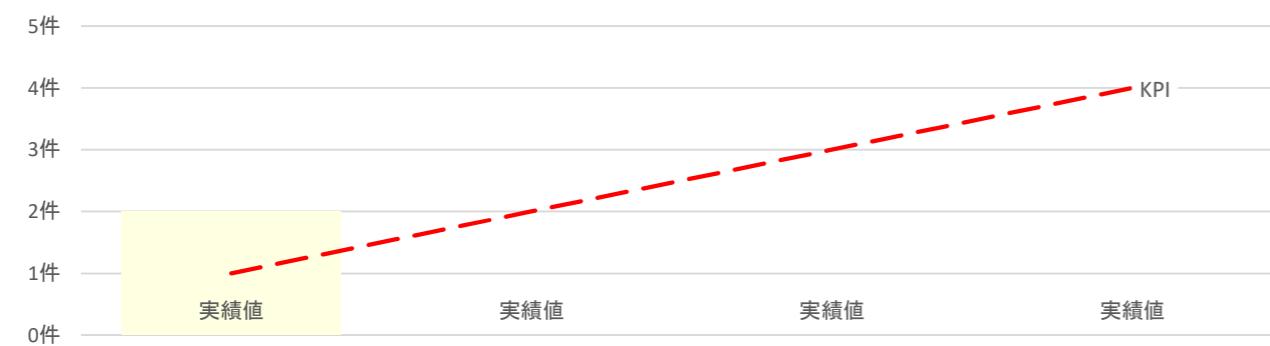
まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

4件

2件



目標値

実績値

目標値

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

35

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

2 各地域の現状にあった地域づくり、支えあいの仕組みの浸透	担当課
(1)地域の特徴を生かした取り組みの推進	まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)

②「地域運営組織」設置数

最終目標値
令和9年度

1箇所

基準値
令和4年度

-

2箇所

1箇所

0箇所

実績値

実績値

実績値

実績値

KPI

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

-

-

-

1箇所

実績値

0箇所

0箇所

0箇所

0箇所

事業費予算額

55,395千円

6,273千円

0千円

0千円

事業費決算額

36,189千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

-

-

-

0.0%

基準値に対する増減率

-

-

-

-

担当課評価

○

評価の理由

目標達成に向け継続実施中のため

PLAN
取組内容

・余喜地区の多目的施設の整備

DO
事業スケジュール
課題など①余喜まちづくり学習協議会、住民アンケート調査結果に基づく施設整備(ハード面)に取り組む。
②併せて、ソフト面の整備についても、多世代交流やデジタル化の視点も取り入れて実装を図る。CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証旧余喜小学校を改修し、新たに余喜公民館として活用を開始した。
神子原地区では若者会議を実施し、地域づくり協力隊もとともに地区の将来について協議していく体制づくりを進めた。ACTION
今後の方向性

余喜地区での集落支援の配置によって地域づくり体制を強化するとともに、活性化に資する事業を実施していく。また、神子原地区では若者会議をもとに情報発信の強化と推進体制を確立し、神子の里に加え、他の公共施設も指定管理者制度の導入を進めていく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	2	<ul style="list-style-type: none"> ・旧余喜小には教室も多くあると思うが、現在どのような状態でなっているかが周囲には伝わりにくい面がある。地域状況を周知しながらニーズを把握し、地域で活用しやすい内容の環境を整備しながら、地域の拠点となるようにしていければ、と思う。 ・地域住民の意見を丁寧に聞きながら体制づくりを進めていってほしい。
△	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営組織の設置数の目標が1箇所のみだと効果が限定的で戦略と言えるのでしょうか。 ・今後、神子の里のような指定管理者制度を取り入れていく具体策があるのか。 ・余喜地区だけの問題だと思いますので、特に数値目標などもうけなくていいのではないかと思います。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

36

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

2 各地域の現状にあった地域づくり、支えあいの仕組みの浸透

担当課

(2)地域共生社会の推進

地域包括ケア推進室

重要業績評価指標(KPI)

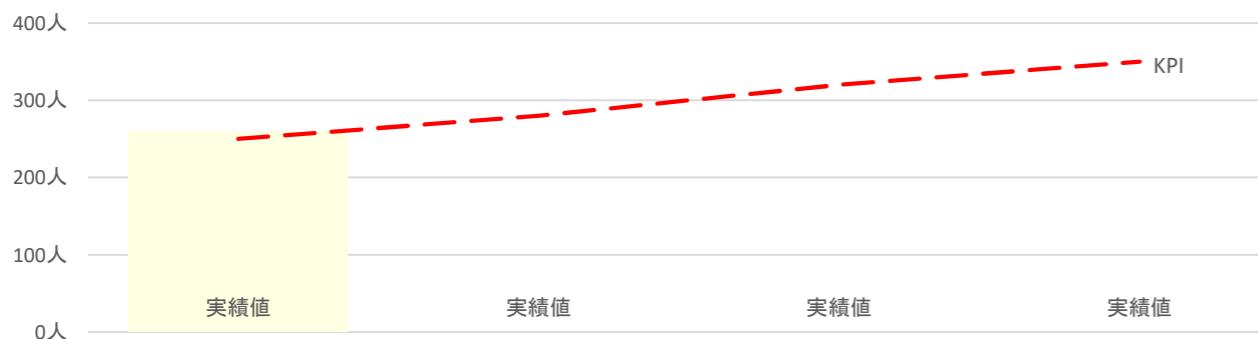
生活支援及び介護予防の担い手数

最終目標値
令和9年度

350人

基準値
令和4年度

232人



目標値

250人

実績値

260人

目標値

280人

実績値

0人

目標値

320人

実績値

0人

目標値

350人

実績値

0人

実績値

104.0%

実績値

0.0%

実績値

0.0%

実績値

0.0%

実績値

12.1%

実績値

-100.0%

実績値

-100.0%

実績値

-100.0%

目標値

○

目標値

○

目標値

○

目標値

○

目標値

○

評価の理由

目標値は達成したが、地域の有償ボランティアが新たにできるまでには至らなかった。

評価の理由

目標値は達成したが、地域の有償ボランティアが新たにできるまでには至らなかった。

PLAN 取組内容

・第3層生活支援協議体の活動支援

DO 事業スケジュール 課題など

①生活支援コーディネーターの協力を得ながら、地域における介護予防及び生活支援活動の現状を把握する。

②活動者の課題やニーズを把握する

③体制や制度等の見直しについて、第1層生活支援協議体で検討を行う。

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証

通いの場、サロンの事務局を統一し、情報共有や研修を実施。集いの場のお世話役の人数や運営上の課題等を把握。

地域支えあいサポートーが地域で生活支援が実践できるよう、スキルアップを5回実施。

第2層生活支援協議体で有償ボランティアが立ち上がるよう研修会を実施しながら、定例会で継続的に検討。

ACTION 今後の方向性

集いの場のお世話役を対象とした連絡会を年数回実施し、情報交換の場とする。

地域支えあいサポートーが実践できるような体制整備の構築が必要。

地域で有償ボランティアが立ち上がるよう、生活支援コーディネーターと協働しながら仕掛けづくりが必要。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎ 1		・目標が達成できている。
○ 2		・人数確保があり、情報共有や研修会の実施等計画的な取り組みがなされていて、今後とても大切になってくるように思う。また、生活支援協働体の意義や内容、身近な活動を広く周知すること、地域ごとの連携や活動調整が大事かと思う。一方で、学校教育・公民館等の生涯学習等にも福祉の視点としてその意義を広げることで、より社会的な意識が高まるのではないかと思う。 ・目標は達成できており、着実に体制整備等を図って頂きたい。
△ 2		・生活支援などの担い手が増えることはいいと思いますが、地域の高齢者が元気になることが一番だと思います。 ・第2層のあり方については、地域差も考慮して考えることが必要で、すべての地域で必要だとは感じない。
✗ 0		

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

37

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

3 こどもから高齢者までの幅広い見守り体制の向上

担当課

3 こどもから高齢者までの幅広い見守り体制の向上

生活安全課

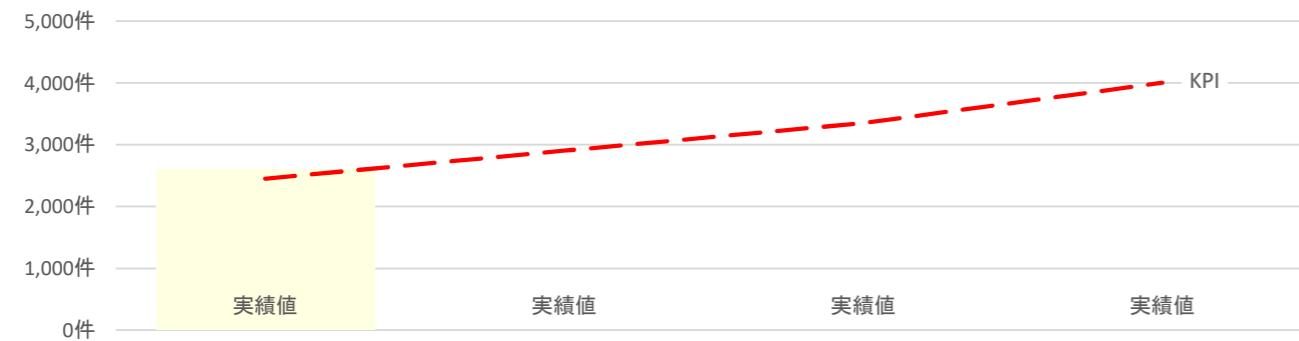
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

安全・安心メール登録者数

4,000件

2,199件



目標値

2,450件

令和6年度

2,598件

実績値

2,900件

事業費予算額

542千円

事業費決算額

542千円

年度目標に対する達成率

106.0%

基準値に対する増減率

18.1%

担当課評価

◎

評価の理由

登録件数が目標値を超えたため。

PLAN
取組内容

・他アプリとの連動による安全・安心メール登録者数の増加

DO
事業スケジュール
課題など毎月の市広報に登録用のQRコードを掲載し、安全安心メールの機能について周知する。
また、防災講座等の機会にもチラシを配布し、登録を促していく。CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証

能登半島地震による防災意識の高まりのほか、防災講座や防災訓練で広報チラシを配布する等の啓発活動により、登録件数が増加した。

ACTION
今後の方向性

引き続き、防災講座や防災訓練で広報チラシを配布し、啓発活動を行っていく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	6	<ul style="list-style-type: none"> ・防災情報の迅速伝達に寄与。登録促進と広報活動の継続が重要。 ・啓発手段に変化がないと登録件数の増加が鈍化するので町会や企業・団体にも協力体制が必要ではないか。 ・最新の情報、確実な情報が安全・安心メールに掲載されていること等、そのよさが伝わることが重要だと思う。それが、高齢者や中高生にも伝わること、操作が分からぬ方を支援する市・各町レベル等のフォローができる場などがあればより強化されると思う。 ・取組みが成果に繋がっているため現在の取組み(登録の促進)を継続するとともに、安全・安心メールが的確に活用されるよう啓発活動の実施等も期待する。 ・市民の安全・安心を守ることは大事です。積極的に進めていただければと思います。 ・市の公式LINEに登録していく時々ノイシ等危険情報が流れてくるが、安心・安全メールではさらに細かな情報が流れてくるということだろうか。違いがわからない。
○	2	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者の方がどれくらい登録できているのか。安心安全メールの方が、防災無線より情報が確実に届くと思うので一人でも多くの方が登録できることを願う。 ・より有効なものとなるように活用していってほしい。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

38

ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

4 地方教育の推進

担当課

4 地方教育の推進

文化財課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

郷土の歴史を題材とした公開・普及事業の参加者数

3,000人

2,647人

4,000人

3,000人

2,000人

1,000人

0人

実績値

実績値

実績値

実績値

KPI

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

2,700人

2,800人

2,900人

3,000人

実績値

1,610人

0人

0人

0人

事業費予算額

24,070千円

70千円

0千円

0千円

事業費決算額

60千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

59.6%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-39.2%

-100.0%

-100.0%

-100.0%

担当課評価

△

評価の理由

講座の周知に羽咋市公式LINEやSNSを利用するなど、広報の手段を増やしたが、目標値には達しなかった。

PLAN
取組内容

・デジタル紙芝居の活用から現地見学につなげる郷土教育の推進

DO
事業スケジュール
課題など①デジタル紙芝居については、一般公開のほか、小学生のタブレット端末による学習にも活用する。
②羽咋市文化財のデジタルアーカイブサイトを構築、バーチャル文化財歩き(360度カメラによる文化財歩き体験)、画像や動画公開を通じた文化財情報の発信を行う。CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証①デジタル博物館のコンテンツのほか、小中学生向けの妙成寺のデジタル紙芝居動画を作成して、小中学生のタブレット端末で視聴できるようにし、市内の歴史と文化財への価値の周知のすそ野を広げた。
②講座や教室の周知に、羽咋市公式公式lineやSNSを利用するなど、周知の方法を工夫した。ACTION
今後の方向性①作成したコンテンツの効果的な利用を促すため、教員や公民館等と意見交換する。デジタル学習からリアルの現地見学につなげる方法を検討する。
②デジタル博物館の周知及び充実を図るために引き続きSNSを活用する。市内各所への出前講座や学校へのゲストティーチャーで利用方法を周知し、学校や地域の郷土学習での利用を推進する。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地道に活動になるとは思うが、郷土愛を育てる大切な事業であると思うので、引き続き継続してほしい。 ・郷土教育は、大人が郷土の良さを感じ、小中学生や地域の方が学んでいく姿が大切。そのため、継続的にふるさとの良さを学ぶ学習を外部と連携してしていくことが大切で、出前講座やゲストティーチャーの活動を学校・地区・公民館と相談して効果的に取り入れていければと思う。 ・いい取り組みとは思いますが、目標値が高すぎるかもしれません。 ・自分の地域を知ることは人格形成の上でも大切な取り組みだと考えますので、継続していってほしいです。
△	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域との連携強化と企業の参画促進に期待する。 ・子供会や公民館行事に取り入れてもらえるようにし、地域住民へ広める方法を工夫してほしい。 ・引き続きデジタルとリアルを連動させながら市民の関心を高めていってほしい。 ・郷土教育は大切な、郷土学習の授業の一環にコンテンツを役立ててほしい。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

39

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

5 ウィズコロナ・アフターコロナに対応した地域経済の支援・強化	担当課
5 ウィズコロナ・アフターコロナに対応した地域経済の支援・強化	商工観光課

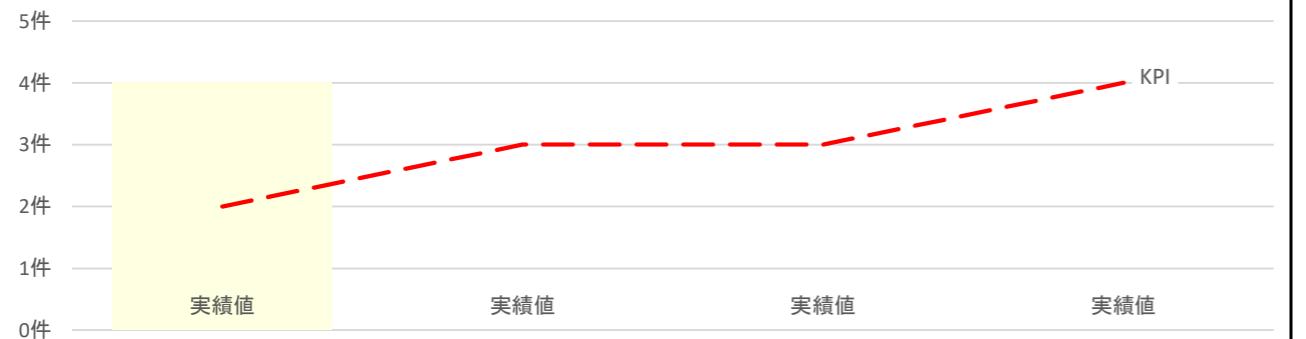
重要業績評価指標(KPI)

市内サテライトオフィスの利用企業・団体数

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

4件

2件



令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度

目標値	2件	3件	3件	4件
実績値	4件	0件	0件	0件
事業費予算額	0千円	0千円	0千円	0千円
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	200.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	100.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%

担当課評価

◎

評価の理由

目標に掲げる利用企業・団体数を超える成果を挙げたため。

PLAN
取組内容

・本市の魅力を生かしたテレワークスタイルの提案

DO
事業スケジュール
課題など震災からの復旧・復興が最優先となるため、しばらくは、サテライトオフィスを活用した関係人口の拡大を推進できない状況が想定される。
一方で、フェーズが移行すれば、震災を通じた新たな事業者や人材とサテライトオフィスとを結びつけることができるとも考えられる。CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証能登千里浜レストハウス2階のワーキングスペースにおいて災害関連事業者2社が進出し利用している。
また、同施設においては、地元2団体もコワーキングスペース活用を行っている。ACTION
今後の方向性

令和7年度に実施するテレワーク支援事業と連動し、受講者はもとより、事業委託団体と連携してテレワーク施設の有効活用につなげ、利用団体増加にも結び付けるようPRしていく。

テレワークの普及が進む中、サテライトオフィス誘致につながるPRも行っていく。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	2	・テレワーク拠点として産業活性化に貢献。利用促進策の強化を望む。 ・サテライトオフィスの利用が継続するよう企業・団体へのフォローも期待する。
○	2	・サテライトオフィスの利用企業数が目標に達すると、地域経済への貢献度がどの程度なのか。 ・目標値に達せしている。
△	2	・単なる件数目標への取組みとならないよう、その目的と効果について検証しながら進めてほしい。 ・申し訳ありませんが、サテライトオフィスをもうけることがそれほど重要なのか今ひとつわかりません。
×	0	

令和6年度 輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

40	VI スマートシティを推進する			
	1 マイナンバーカードの利活用拡大	担当課	1 マイナンバーカードの利活用拡大	デジタル推進室
重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度		
マイナンバーカードとの新規連携事業数	2事業	0事業		
3事業				
2事業				
1事業				
0事業	実績値	実績値	実績値	実績値
令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
目標値	0事業	1事業	1事業	2事業
実績値	1事業	0事業	0事業	0事業
事業費予算額	4,589千円	0千円	0千円	0千円
事業費決算額	4,265千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	-	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-	-	-	-
担当課評価	○			
評価の理由	「書かない窓口」の導入により、手続にかかる時間が従来より1/3~1/2程度短縮され、利用者負担の軽減に寄与した。			
PLAN 取組内容	・マイナンバーカードの公的本人認証機能を活用した行政手続きをスリム化、利便性向上「書かない窓口」設置、各種証明書の「コンビニ交付」推進			
DO 事業スケジュール 課題など	①申請書作成支援システムの構築 ②対象業務、手続きの検討 ③対象申請様式のシステムへの取込(R6年度:10種類程度の様式を想定) ④手続きの開始に向けた市民への周知広報、普及促進に向けた施策の検討 ⑤運用開始、効果検証			
CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	(1)申請書作成支援システム(書かない窓口)の導入(R7.1月運用開始) ①異動等手続窓口 ・設置台数 1台 ・申請様式数 14種類 ・利用件数 11件 ・効果 手續にかかる時間が概ね1/3程度に短縮 ②マイナカード手続窓口 ・設置台数 1台 ・申請様式数 3種類 ・利用件数 399件 ・効果 手續にかかる時間が概ね1/2程度に短縮 (2)各種証明書のコンビニ交付の推進 ・マイナカードの普及促進(広報紙、休日窓口(月1)で申請受付等) ・コンビニ交付普及促進(窓口での案内、チラシ配布、コンビニ交付手順動画のロビー放映等)			
ACTION 今後の方向性	申請書作成支援システム「書かない窓口」の運用開始がR7.1月で、3ヶ月間の運用実績であるが、従来の手書きの場合と比べ、手続時間が短縮され、利用者負担軽減の効果が出ていている。 今後は対象とする申請様式の検討や、年度全体としてどの程度の時短効果が見込まれるか検証を要する。			

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎ 1		<ul style="list-style-type: none"> ・利便性向上や事務効率化のため必要な施策であると考える。世の中の流れに遅れないよう準備と周知を進めていってほしい。
○ 9		<ul style="list-style-type: none"> ・行政手続の効率化は企業活動の負担軽減に直結。利活用促進が重要。 ・マイナンバーカードの利便性が向上することを期待します。 ・KPI(マイナンバーカードとの新規連携事業数)があまり理解できないが、利用者及び行政職員の負担軽減のため引き続き継続してほしい。 ・各種証明書のコンビニ交付数が増加しているかどうか数値でつかんでいるのか? ・「書かない窓口」導入による時間短縮の効果は大きいと思う。よさだけでなく、可能な内容や手順を動画にする、例えばチラシや広報にQRコードで動画につながるようにする、テレビ等でわかりやすく説明する等の周知の工夫により、多くの市民が活用できるようになることを願う。 ・利用者の負担軽減に資する取組みであり、少しずつでも連携事業を増やしていって頂きたい。 ・「書かない窓口」の設置などはよいと思います。積極的に進めていただきたいと思います。 ・書かない窓口の方向性はよい。手続きが簡便になってこそマイナンバーカードをもった意味と思う。 ・マイナンバーカードは今後どうなっていくのか、はっきりと知りたい。
△ 0		
× 0		

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

41

VI スマートシティを推進する

2 ビッグデータの有効活用

担当課

2 ビッグデータの有効活用

デジタル推進室

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

羽咋市データ公開サイト年間閲覧数

累計36,000件

累計0件

累計40,000件

累計35,000件

累計30,000件

累計25,000件

累計20,000件

累計15,000件

累計10,000件

累計5,000件

累計0件

実績値

実績値

実績値

実績値

令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度

目標値

累計21,000件

目標値

累計26,000件

目標値

累計31,000件

目標値

累計36,000件

実績値

累計5,776件

実績値

累計0件

実績値

累計0件

実績値

累計0件

事業費予算額

3,201千円

事業費予算額

3,440千円

事業費予算額

0千円

事業費予算額

0千円

事業費決算額

3,201千円

事業費決算額

0千円

事業費決算額

0千円

事業費決算額

0千円

年度目標に対する達成率

27.5%

年度目標に対する達成率

0.0%

年度目標に対する達成率

0.0%

年度目標に対する達成率

0.0%

基準値に対する増減率

-

基準値に対する増減率

-

基準値に対する増減率

-

基準値に対する増減率

-

担当課評価

○

担当課評価

○

担当課評価

○

担当課評価

○

評価の理由

データ連携基盤とGISとの連携により、消火栓・ため池位置図、ハザードマップ等14レイヤを新規追加し住民提供を行った。

PLAN 取組内容

・データ連携基盤への各種ビッグデータの取り込み

DO 事業スケジュール 課題など

(1)データ連携基盤(データ公開サイト)へ新規地図レイヤの追加(ビッグデータの蓄積)
震災を経験し、様々な情報を地図上に掲載、公開することの重要性を認識、そのための各種地図レイヤをデータ連携基盤(データ公開サイト)に追加する(復旧・復興関連、国土地理院連携、新規ハザードマップ等)
(2)石川県構築のデータ連携基盤と本市データ連携基盤との連携の推進
昨年度石川県が構築したデータ連携基盤と本市基盤の相互連携の可能性について県と協議、推進する

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証

(1)データ連携基盤(データ公開サイト)へ新規地図レイヤの追加(ビッグデータの蓄積)
①新規地図レイヤの追加 ④レイヤ追加(消火栓、防火水槽、橋梁等の位置図やハザードマップ等)
②国土地理院航空写真の追加 ⑤レイヤ追加(昭和22年～平成31年の間の12年分の航空写真) ⑥版権上、府内GISにて追加
③GoogleMapの実装、避難所ルート表示機能の実装
・OpenStreetMapからGoogleMapへの変更 ⑦避難所位置図にて目的の避難所を選択すると、避難所までの経路を表示する機能を実装(観光客等、避難所がわからない方向けの機能)(2)石川県構築のデータ連携基盤と本市基盤との連携推進
・国(デジタル庁)は、各自治体で構築したデータ連携基盤を都道府県単位で1本化するよう要請
・県はR6構築のデータ連携基盤に、「災害対応関連情報統合ダッシュボードサービス」を機能拡充すべく、R7デジタル田園都市国家構想交付金を申請
・以上のことから、R7にて県が機能拡充するデータ連携基盤に、市データ連携基盤を統合する方向で検討される

ACTION 今後の方向性

R7年度、県データ連携基盤との統合に向け、よりよいデータ連携基盤とすべく、協議の実施、また、統合後の住民活用に向けた周知広報など、利用向上策を検討

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
○	0	
○	3	<ul style="list-style-type: none"> 多くの情報を把握することができる。ただし、情報が多いため、検索しやすく、便利な内容や活用場面を周知し、「ここを！」などわかりやすく表記・案内されるとありがたい。例えば避難所へ行く道が表示される地図が「データ公開サイト」だけでは、少しわかりにくく思う。市のデータは、よくみるととても良く集約されているので、「何のときにここを見るとよいか」がわかりやすくなるとよいように思う。 市民の関心が高いコンテンツの提供を増やすなど、より多くの市民が閲覧・活用するよう取り組んでいって頂きたい。 ハザードマップが公開されているだろうとは思っていたが、今回初めて閲覧した。防災の日だったり、一斉の非常訓練の日など節目節目で市の公式LINEでも閲覧を促すと良いと思う。
△	1	<ul style="list-style-type: none"> データを公開することはいいと思いますが、目標を立てて進める必要があるかはわかりません。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

42

VI スマートシティを推進する

3 産学官連携によるデジタル技術を活用したまちづくり	担当課
3 産学官連携によるデジタル技術を活用したまちづくり	まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
共創の場(産学官連携コンソーシアム)の確立	確立	—

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	—	—	—	確立
実績値	確立	0	0	0
事業費予算額	0千円	0千円	0千円	0千円
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	—	—	—	—
基準値に対する増減率	—	—	—	—
担当課評価	◎			

評価の理由	民間企業、3大学、市の5者による協定により、連携体制を確立した。
-------	----------------------------------

PLAN 取組内容	・産学官による推進体制の確立
--------------	----------------

DO 事業スケジュール 課題など	①6月中に、金沢大学や関係企業と連携することで、ビッグデータの有効活用を図る推進体制を確立。 ②上記は、本市スマートシティ化を推進するための土台となる協力体制とし、その発展につなげていく。
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	協定に基づき(株)ダイナトレック金沢大学、金城大学、宮崎大学と連携し、KDBデータの分析をもとにEBPMによる施策活用についての推進体制を確立した。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	KDBデータをもとに健康寿命延伸や医療費削減に資する施策のエビデンスとなりうるモデル開発を進める。 石川高専など、新たな機関との連携を推進し、体制の発展を図る。
------------------	---

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	2	・産学官連携はイノベーション創出に不可欠。連携拡大と成果創出の促進に期待。 ・産学官連携の成果を逐次公表するなどにより新たな機関の参画を促していくことも期待する。
○	2	・目標が達成されてよかったです。 ・連携体制が確立されているのはよいが、それによってどのような成果があったのかを市民に積極的に発信してほしい。
△	1	・大学と連携して何をしていくのか教えてほしい。
×	0	

令和6年度

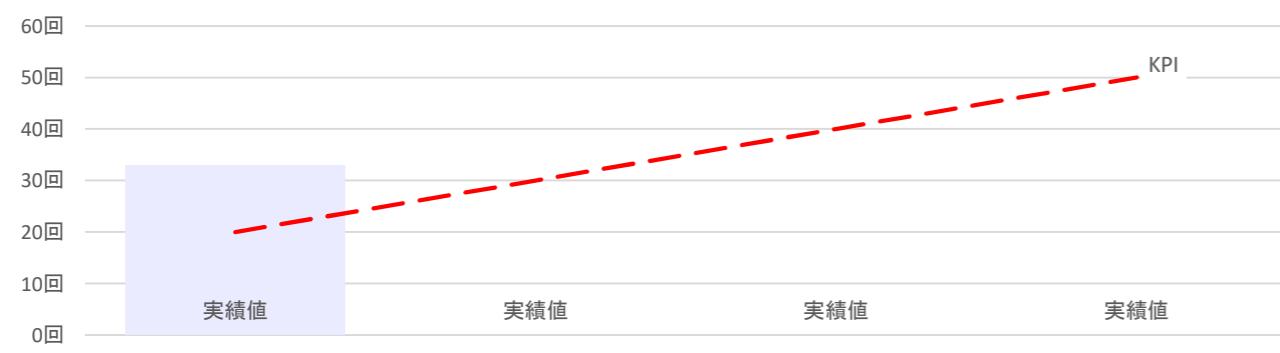
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

43

VI スマートシティを推進する

4 デジタルディバイドの解消とデジタル人材の活用	担当課
4 デジタルディバイドの解消とデジタル人材の活用	デジタル推進室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
地域ごとのスマホ教室開催数	50回	5回



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	20回	30回	40回	50回
実績値	33回	0回	0回	0回
事業費予算額	2,040千円	2,000千円	0千円	0千円
事業費決算額	1,343千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	165.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	560.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%

評価の理由	スマホ教室は市内各地で年33回(66講座)実施し、各講座の参加率も高く、利用者の満足度も高い。
-------	---

PLAN 取組内容	・スマホやアプリの活用方法を学ぶスマホ教室の開催
--------------	--------------------------

DO 事業スケジュール 課題など	(1)高齢者向けスマホ教室 ・全公民館等において、全66講座実施予定(R6.7月～R7.3月予定) ・スマホの基本操作から、安全安心メール、公式LINE、電子申請など幅広い活用に対応できるカリキュラム (2)デジタル人材育成研修 DXの先進企業と連携し、視察や研修等によりDX化手法等のノウハウを学ぶ機会を創出
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	(1)高齢者向けスマホ教室 スマホ教室の利用者アンケートでは、満足度の高い意見が多く、評価も高く、今後の継続開催を求める要望が多い。(詳細下記) ・全公民館、ラクナにて、66回実施 ・参加人数 278名 ・受講者の94%が「説明がわかりやすかった」と回答 ・受講者の99%が「講座内容が役にたつ」と回答 ・その他、「継続受講したい」「わかりやすかった」「受講してよかったです」等の回答多数あり (2)デジタル人材育成 ・8月下旬 職員向けDX研修会実施 GISとデータ連携基盤(データ公開サイト)の2つの地図システムを活用し「業務効率化」「調査・分析」「価値創造」を図ることを促進。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	高齢者向けスマホ教室は受講者の満足度が高く、また継続要望が強く、引き続き継続実施予定。 ただし、開催場所については、現状の公民館、ラクナを基本とするものの、幅広く受講者を増やすため、開催場所の拡充等について検討する。
------------------	---

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	2	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けの教室は、とてもニーズがあり、喜ばれていると思う。一方で、なかなか足を運べない方もおいでいるように感じる。周知の方法、場所の工夫、町レベルでの呼びかけや教室の良さ・効果をわかりやすく伝えていくとより成果が上がると思う。 ・スマホやアプリの活用方法を学ぶスマホ教室を開催することはとても良い取り組みだと思います。高齢者のこういったスマホ教室以外にも、若者向けのネットリテラシー教室等を開催したら良いと思いました。
○	5	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした詐欺被害防止対策もお願いします。 ・スマホ教室参加者から高評価を得ている。より多くの方に広めていって欲しい。 ・利用者の満足度の高さは利用者のニーズをしっかりと把握して企画・運営が行われている証左であり、引き続きニーズを的確に把握・分析しながら取り組んでいってほしい。 ・開催場所の再検討をお願いし、引き続き推進していってほしい。 ・スマホを活用できるお年寄りが増えるのはよいことではあります。
△	0	
×	0	

令和6年度

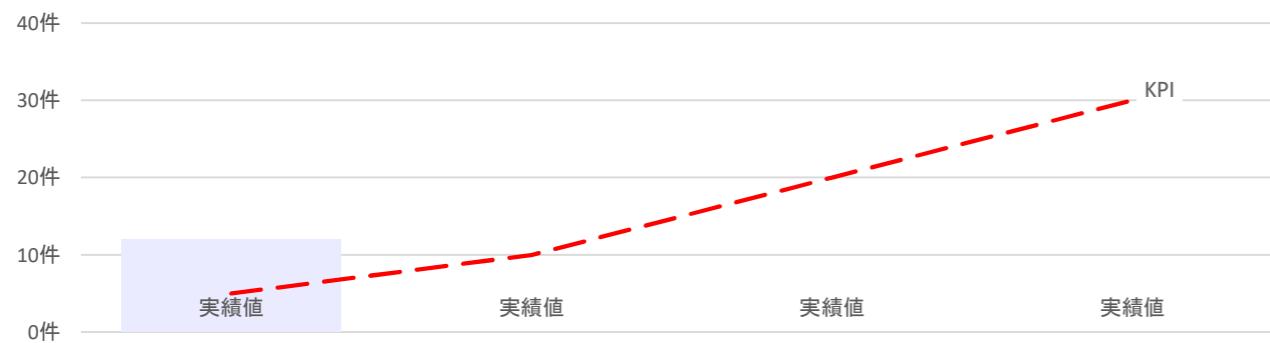
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

44

VI スマートシティを推進する

5 再生可能エネルギーを利活用した地域づくり	担当課
5 再生可能エネルギーを利活用した地域づくり	生活安全課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
新規太陽光パネル(家庭用)補助申請数	30件	—



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	5件	10件	20件	30件
実績値	12件	0件	0件	0件
事業費予算額	1,000千円	1,000千円	0千円	0千円
事業費決算額	1,200千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	240.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	—	—	—	—
担当課評価	◎			

評価の理由	申請数が目標値を大幅に超えたため。
-------	-------------------

PLAN 取組内容	・太陽光パネル(家庭用)補助
--------------	----------------

DO 事業スケジュール 課題など	市内の既存住宅に太陽光発電システムまたはPPAに基づく太陽光発電システムを設置する者に、設置費用の一部を補助する。
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	広報、ホームページによる制度周知、福祉まつりでの啓発活動により申請数が目標値を大幅に超えた。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	脱炭素・省エネイベントを実施し、太陽光発電設備の更なる普及を図る。 電力会社等と連携し、太陽光発電以外の再生可能エネルギーの利活用推進にも取り組んでいく。
------------------	--

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスメーカーへ情報提供されているのでしょうか。 ・啓蒙活動が効果的に実施されたことが申請数の伸びに繋がっている。 ・取組成果が上がっていると思う。一方で、高価な物だという感覚がいまだに強く、身边ではあるが自分の家に設置するメリット、補助を含む具体的な設置予算等がよくわからない現実を感じる。設置と活用メリット、具体的な補助額を含んだよさを、体験談を交えて広げていく工夫があると良いと思う。 ・取組みが成果に繋がっており、引き続き広報活動を継続・工夫することを期待する。 ・申請数の増加は嬉しいです。このまま取り組みを進めていけばいいです。
○	1	<ul style="list-style-type: none"> ・環境維持のため行政もどのような取組みを行っているかは重要な評価基準であるし、継続して取組んでいてほしい。
△	0	
×	0	

R7.8.27 令和 7 年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議資料

輝く羽咋デジタル総合戦略

事前審査結果及び
重点審査する施策全 6 施策

事前審査結果及び重点審査する施策

1. 審査結果

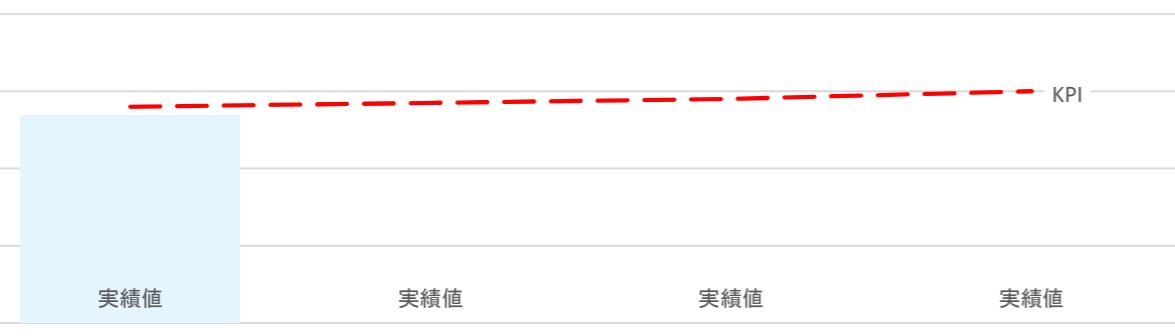
事前審査結果		
1	◎	取り組み内容の深化・発展
2	○	取組内容の継続
3	△	取組内容の見直し
4	×	取組の中止・終了
計		44

2. 重点審査する施策一覧

No.	施策NO.	基本目標	基本的施策名	重要業績評価指標(KPI)	担当課	総合評価(案)
1	1	基本目標 I	(1)地元企業への就職・就業促進	地元企業への新規就職者数	商工観光課	○
2	10	基本目標 II	3 羽咋の玄関口を起点とした賑わいの創出	LAKUNAはくい利用者数	まちづくり課	○
3	19	基本目標 III	3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	②空き家・空き地バンク成約件数	まちづくり課	○
4	27	基本目標 IV	(1)住宅耐震化率の向上、老朽空き家対策	住宅の耐震化率	地域整備課	○
5	38	基本目標 V	4 郷土教育の推進	郷土の歴史を題材とした公開・普及事業の参加者数	文化財課	△
6	43	基本目標 VI	4 デジタルディバيدの解消とデジタル人材の活用	地域ごとのスマホ教室開催数	デジタル推進室	○

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

I 働く場と、多様な働き方ができる環境をつくる					
1	1 多様な就労支援			担当課	
	(1)地元企業への就職・就業促進			商工観光課	
	重要業績評価指標(KPI)		最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度	
	地元企業への新規就職者数		300人	269人	
					
	実績値	実績値	実績値	実績値	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
目標値	280人	285人	290人	300人	
実績値	269人	0人	0人	0人	
事業費予算額	563千円	470千円	0千円	0千円	
事業費決算額	443千円	0千円	0千円	0千円	
年度目標に対する達成率	96.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
基準値に対する増減率	0.0%	-100.0%	-100.0%	-100.0%	
担当課評価	○				
評価の理由	震災の影響がある特殊状況下においても、計画どおり地元企業就職面談会を実施したため、				
PLAN 取組内容	・周辺自治体と連携した広域連携による合同企業就職面談会の開催				
DO 事業スケジュール 課題など	①高等教育機関と連携した市内企業・産業への職場体験、若者の地元就職の促進。 ②羽咋工業・羽松高校を対象とした地元企業体験会を行う。 ③例年2回開催の周辺自治体等との広域連携による合同企業就職説明会・面接会の開催 ④今般の震災により離職を余儀なくされた被災者を対象とした「震災復興支援就職説明会・面接会」の実施				
CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	合同企業就職面談会は計画どおり年2回実施し、当該面談会には、79人が参加した。また、各高校向けの地元企業体験会については、例年と比較して体験会の時間を長くすることで、地元企業就業に対する理解促進に努めた。				
ACTION 今後の方向性	令和7年度も引き続き、年間2回の合同企業就職面談会を開催することで、就職希望者と地元企業とのマッチングにつなげる。 併せて、令和7年度は、新たにインターンシップ事業の実施も予定しており、インターンを通じて市役所の仕事や地域交流を体験する機会を創出し、市内企業への就職希望者の掘り起こしを行う。				

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の生徒さんが一人でも多く地元企業等に就職してもらえば、地域の活性化に大いに貢献することとなるので毎年進化した企画をお願いしたい。 ・地元企業の経営維持、地域の活性化や若者の定住につながる重要な施策である。地元企業だけでのリクルート活動には限界があり、周辺自治体との協力のほか、羽咋市独自の取組みを協力に推し進めるべき。 ・順調だと思います。このまま取り組みを続けていけばいいと思います。
○	9	<ul style="list-style-type: none"> ・地元人材の確保は地域産業の基盤強化に不可欠であり、就職支援の継続と拡充を期待する。 ・地元に仕事があることは、定住者を増やし、活気ある街作りに必須であり、本事業は重要な事業だと思われる。とりわけ若者が他地域に流出しないよう、DO ①②の職場体験、地元企業の体験会のさらなる拡充と大学生への取り組みを望みます。 ・合同企業就職面談会の開催を継続してほしい。 ・地元の企業の面談や説明は、周知や魅力を知るうえでとても重要だと思うので、継続してほしいと思う。できるだけ多くの地元の企業が参加できるように広報したり、連携を深めたりしていくこと、説明会や面談会を広く周知してい工夫などが大切だと思う。 ・引き続き、地元企業で働くことの意義・メリットを若者などの就職希望者に分かりやすく伝えていって頂きたい。 ・新規就職者の実態は？他町等からなのか。269人もいるのか。 ・奨学金返還に係る支援を行い、大学進学のために都市部へ転出した若者のUIターンの実績はどうなっていますか？ ・震災による離職者を対象にした就職説明会・面接会の実施はよい取り組みだと思う。 ・単年度では何人ぐらいか？
△	0	
×	0	

令和6年度

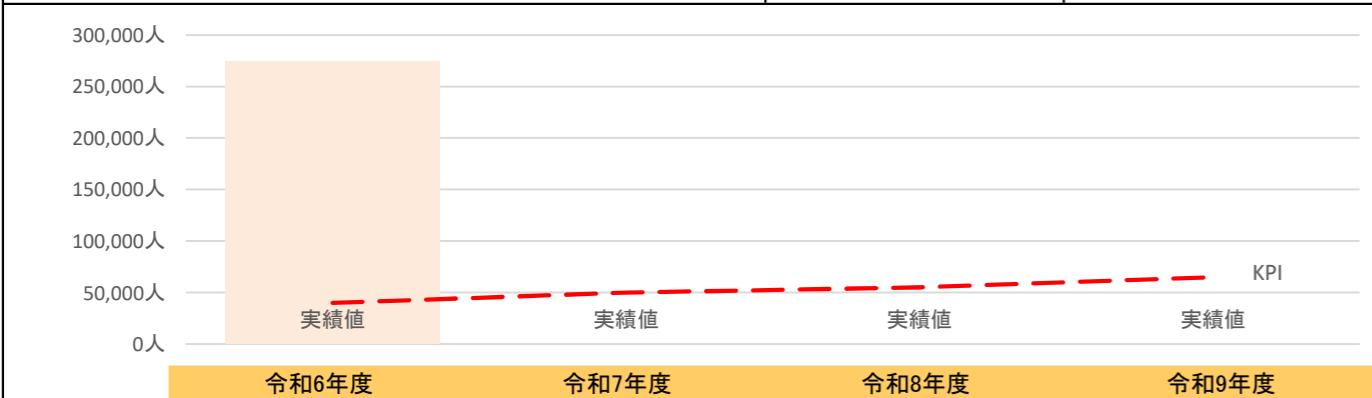
輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

2

II 新たなひとの流れをつくる

3 羽咋の玄関口を起点とした賑わいの創出	担当課
3 羽咋の玄関口を起点とした賑わいの創出	まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度
LAKUNAはくい利用者数	65,000人	—



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	40,000人	50,000人	55,000人	65,000人
実績値	274,054人	0人	0人	0人
事業費予算額	98,500千円	82,100千円	0千円	0千円
事業費決算額	98,500千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	685.1%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	—	—	—	—

担当課評価	◎
-------	---

評価の理由	年間想定6万5千人を大きく超え、開業から77日目に来館者10万人、半年で20万人を達成したため。
-------	--

PLAN 取組内容	・LAKUNAはくいを活用した各種団体や大学との連携事業の実施
--------------	---------------------------------

DO 事業スケジュール 課題など	LAKUNAはくいの開業を契機に多様な関係者と連携したイベントを実施し、駅周辺の賑わい創出に取り組む。
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	7月1日の開業を皮切りに10週間以上に渡り毎週イベントを開催。9カ月で来館27万人に到達し、駅周辺の賑わい創出に大きく寄与した。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	①被災したため中断していた外構と駐車場の一部工事を6月末完成を目指し、施設の利便性向上を図る。 ②獅子舞を通じた伝統文化の継承と利用者拡大に取り組むと共に、周辺商店街と連携した取り組みを展開する。 ③多文化共生イベントを実施し、外国人との交流を促進することで、新たな賑わいを創出する。
------------------	--

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	9	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の賑わい創出に貢献。多様な交流イベントの継続を期待。 内外から高い評価を得ているので停滞せず新たな活用、取り組みをお願いします。 KPIの目標値が控えめではないかと感じます。LAKUNAはまだ可能性を持っていると思いますので、各種イベントや市民が利用しやすい施設運営を期待します。 LAKUNAのつくりや館内の場所・内容の設定が、今の羽咋市民のどの年齢層にも合っていて、利用しやすい。また、様々な団体と連携しての多彩なイベント等により、足を運ぶ市民、市外からの利用もとても多くなっている。「獅子舞フェスティバル」など、地元羽咋の文化等のよさが広がるイベントは、これからも続けてほしいと願う。加えて太鼓や音楽関係、自然や産業の体験の場等も工夫して取り入れていけば、さらに羽咋の良さが体感されるように思う。 LAKUNAはくいの賑わいが継続するよう、本取組みの更なる深化・発展を期待する。 利用者が多い。今後の運営に生かすべき。 素晴らしい成果だと思いますが、実績が目標を大幅に上回っている以上、令和7年度以降の目標を立て直した方がいいと思います。 初年度ほどでなくとも、適度に賑わいある空間を今後も継続していってほしい。 良い取り組みだと思います。大学などと連携することで、地域外の人に羽咋市の魅力を知ってもらいやすくなると思います。駅周辺にLAKUNAはくいのような都会的な建物が増えたら嬉しいです。
○	4	<ul style="list-style-type: none"> PLANに「LAKUNAはくいを活用した各種団体や大学との連携事業の実施」となっているが、実際羽咋市内の各種団体が利用しようとしても金額が一般と同等だと利用しにくい。もっと優遇があってもよいのではないか。 現在の羽咋市でLAKUNAはくいが果たす役割は大きくなっています。LAKUNAはくい単独はもちろんですが、地域や周辺商店街と連携した取組みを期待します。 施設、イベントを含め、開業1年目のラクナの取り組みは素晴らしいと思います。あとは夜間の利用、周辺への波及を進める必要があり、訪れた人がお金を使う場所が近くにあればいいと思います。 2年目以降の行事等の継続をどう図っていくかが大切。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

3

III 女性や若者、こどもに寄り添った生活・教育環境をつくる

3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	担当課
3 利便性の高い住環境の整備と住宅再建に係る総合的なフォローアップ	まちづくり課

重要業績評価指標(KPI)

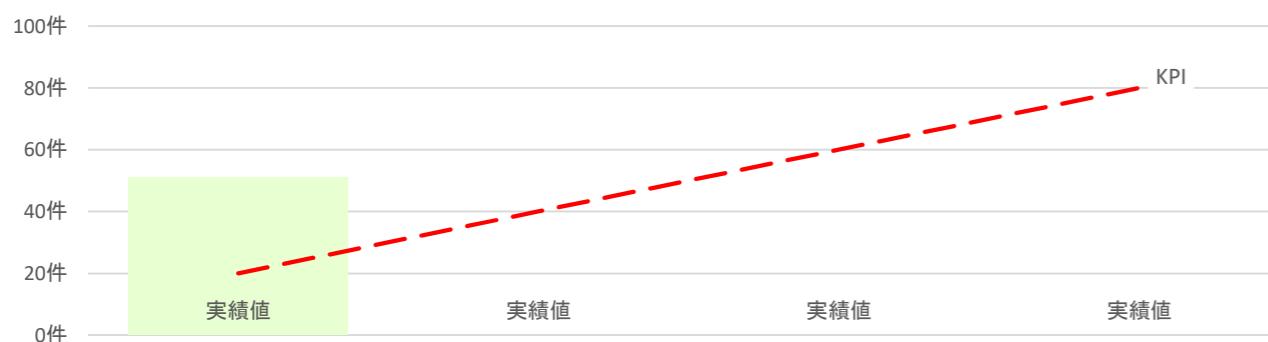
②空き家・空き地バンク成約件数

最終目標値
令和9年度

80件

基準値
令和4年度

59件



	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	20件	40件	60件	80件
実績値	51件	0件	0件	0件
事業費予算額	7,400千円	7,400千円	0千円	0千円
事業費決算額	7,400千円	0千円	0千円	0千円
年度目標に対する達成率	255.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基準値に対する増減率	-13.6%	-100.0%	-100.0%	-100.0%
担当課評価	◎			

評価の理由	目標数値を上回ったため
PLAN 取組内容	・羽咋市空き家情報バンク(HP運用)による空き家・空き地の利活用(移住ワンストップ窓口支援)

DO 事業スケジュール 課題など	①空き家実態調査を実施(6月入札、6月中旬に事業者とスケジュール、手法など確定、2月までに調査完了)、速やかに利活用できる空き家の確保につなげる。 ②4月～新たに空き家家財処分支援制度をスタート。残置物の処分の良質な空き家の確保につなげ、マッチングの可能性を高める空き家紹介を図っていく。また、360° カメラも取り入れ、インターネット上から空き家の細部を確認できる環境を整える。
------------------------	---

CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	空き家実態調査の結果、1,043件の空き家があり、そのうち利活用できる可能性の高い物件が640件あった。移住者だけでなく、震災の被災者や復興業者の受入を積極的に行った。 家財処分の補助金利用件数は18件あった。 空き家情報バンクに掲載する物件紹介に、360° VRカメラを導入し、成約率のアップに努めた。
-------------------------------------	--

ACTION 今後の方向性	R6年度に実施した、空き家実態調査を基に、利活用可能物件の所有者へ空き家バンクの登録を促すことで、移住希望者の受け入れ態勢を整える。
------------------	--

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	9	<ul style="list-style-type: none"> 今後はさらに状態の良い空き家が増えてくるので、スピーディーな情報収集と紹介をお願いします。物価も上昇し続けており状態の良い物件は空き家リフォームの住宅ニーズが益々高まると思います。 震災の影響は少なからずあったとは思いますが、素晴らしい実績値であります。様々な施策を継続して行っていただきたいと思う一方、令和7年度の目標値は上方修正してもいいのでは？ 実態調査結果を有効に活用できている。 空き家活用が進んでいて、360° VRカメラ導入等すばらしいと思う。広報はくいや新聞等にも空き家バンクの存在や利便性等の情報を掲載し、周知していけば、幅広く希望を聞くことができると思う。 360° カメラの導入など実需者のニーズを踏まえた取組みが行われており、今後も継続して頂きたい。 実績値が実態を現わしているのか。人口増につながっているのか。 順調だと思います。このまま取り組みを進めていけばいいと思います。 移住定住への施策の柱のひとつとしてこのまま推進してほしい。 地震による実績だけでなく、異なる視点での実績を増やせるかが大切だと考える。
○	1	<ul style="list-style-type: none"> 被災者や復興事業者の受入れもあり、一時的なものにならないように今後のフォローをお願いしたい。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

4

IV 安全・安心な生活環境をつくる

2 市民の暮らしを守る防犯・防災・減災体制の構築

担当課

(1)住宅耐震化率の向上、老朽空き家対策

地域整備課

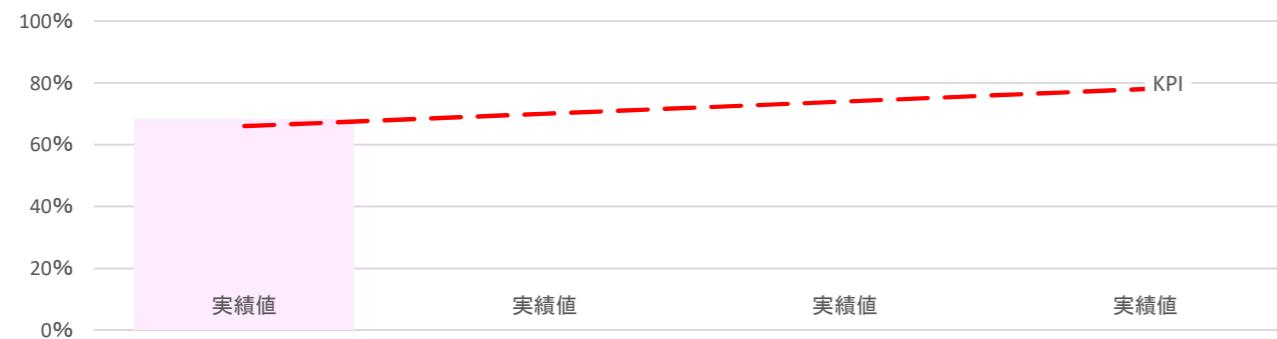
重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
平成30年度

住宅の耐震化率

78%

64%



目標値

実績値

事業費予算額

事業費決算額

年度目標に対する達成率

基準値に対する増減率

担当課評価

評価の理由

PLAN
取組内容DO
事業スケジュー
ル
課題などCHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証ACTION
今後の方向性

目標を上回ったため

・住まいの耐震化の支援

羽咋市住宅耐震化緊急促進アクションプログラムに基づき住宅の耐震化を図る。
耐震診断及び耐震改修に対する補助制度を実施する。
経済的な理由で住宅全体の耐震補強が難しい方のために部分的な耐震補強(簡易耐震補強工事)に対する補助制度を新たに設ける。
普及啓発として緊急輸送道路沿いの住宅を対象に戸別訪問や普及啓発通知を送付する。
市民向け個別相談会を実施する。

耐震改修工事5件、簡易耐震補強7件、耐震診断33件の実績。
7月に旧耐震基準の住宅だけでなく被災住宅も新たに補助対象とし、補助額を40万円上乗せし最大200万円とした。
併せて、耐震改修ではなく被災住宅を解体し住宅を新築することで地震に対する安全性が向上する建替え工事も新たに補助対象とした。
なお、公費解体等により154件の住宅は解体された。

引き続き、羽咋市住宅耐震化緊急促進アクションプログラムに基づき普及啓発を実施する。
耐震改修工事・建替え工事に係る補助額を50万円上乗せし最大270万円とともに、
簡易耐震補強工事も15万円に拡充し、耐震化を促進していく。
また、手元に資金がなくても融資を受けて耐震改修ができるよう、高齢者向けの耐震改修利子補給制度を利用可能とする。

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	8	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震化率を高めて災害に強いまちづくりを推進して下さい。 ・今後万が一に備え、積極的な推進をお願いします。特に緊急輸送道路等主要な道路沿いの住宅については、倒壊した場合は救助等に支障がでるなど影響が大きいことから、積極的に耐震化していただけるよう支援をお願いします。どのように進めたらよいかわからない市民もいると思うので、耐震化診断や耐震化工事をどこの方に相談したらよいか、その他手順等を教えていただける相談会など補助金と併せその他の支援もお願いできたらと思います。 ・地震に対する安全性が向上する建て替え工事も補助対象とした点が評価に値する。 ・耐震診断や補助、個別相談などは適切で、該当家屋の所有者にはとてもありがたかったと思う。制度だけでなく、定期に耐震化や診断を呼びかけたり、現在使用していない家屋等について診断等を促したりする場面が増えると良い。 ・本件は市民の関心が高い分野だと考えられるため、より多くの市民に伝わるよう周知活動の継続・拡充を期待する。 ・耐震化は急ぐ必要があり、分かりやすい制度紹介と場合によっては地元金融機関へも制度について説明し、融資対応等が必要になるケースに備えることも検討すべき。 ・順調に推移していると思います。積極的に進めていただきたいと思います。 ・復旧から復興への段階で、重要な取り組み。
○	1	・もう少し普及啓発を。
△	0	
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

5

V ともに暮らし、学び続けられるまちをつくる

4 地方教育の推進

担当課

4 地方教育の推進

文化財課

重要業績評価指標(KPI)

最終目標値
令和9年度基準値
令和4年度

郷土の歴史を題材とした公開・普及事業の参加者数

3,000人

2,647人

4,000人

3,000人

2,000人

1,000人

0人

実績値

実績値

実績値

実績値

KPI

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

目標値

2,700人

2,800人

2,900人

3,000人

実績値

1,610人

0人

0人

0人

事業費予算額

24,070千円

70千円

0千円

0千円

事業費決算額

60千円

0千円

0千円

0千円

年度目標に対する達成率

59.6%

0.0%

0.0%

0.0%

基準値に対する増減率

-39.2%

-100.0%

-100.0%

-100.0%

担当課評価

△

評価の理由

講座の周知に羽咋市公式LINEやSNSを利用するなど、広報の手段を増やしたが、目標値には達しなかった。

PLAN
取組内容

・デジタル紙芝居の活用から現地見学につなげる郷土教育の推進

DO
事業スケジュール
課題など①デジタル紙芝居については、一般公開のほか、小学生のタブレット端末による学習にも活用する。
②羽咋市文化財のデジタルアーカイブサイトを構築、バーチャル文化財歩き(360度カメラによる文化財歩き体験)、画像や動画公開を通じた文化財情報の発信を行う。CHECK
3月末時点
1年間振り返り
及び効果検証①デジタル博物館のコンテンツのほか、小中学生向けの妙成寺のデジタル紙芝居動画を作成して、小中学生のタブレット端末で視聴できるようにし、市内の歴史と文化財への価値の周知のすそ野を広げた。
②講座や教室の周知に、羽咋市公式公式lineやSNSを利用するなど、周知の方法を工夫した。ACTION
今後の方向性①作成したコンテンツの効果的な利用を促すため、教員や公民館等と意見交換する。デジタル学習からリアルの現地見学につなげる方法を検討する。
②デジタル博物館の周知及び充実を図るために引き続きSNSを活用する。市内各所への出前講座や学校へのゲストティーチャーで利用方法を周知し、学校や地域の郷土学習での利用を推進する。

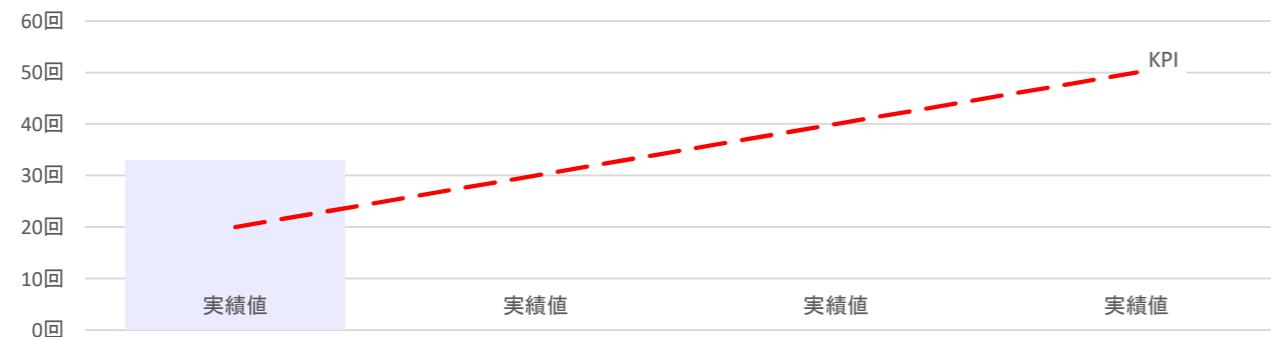
有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	0	
○	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地道に活動になるとは思うが、郷土愛を育てる大切な事業であると思うので、引き続き継続してほしい。 ・郷土教育は、大人が郷土の良さを感じ、小中学生や地域の方が学んでいく姿が大切。そのため、継続的にふるさとの良さを学ぶ学習を外部と連携してしていくことが大切で、出前講座やゲストティーチャーの活動を学校・地区・公民館と相談して効果的に取り入れていければと思う。 ・いい取り組みとは思いますが、目標値が高すぎるかもしれません。 ・自分の地域を知ることは人格形成の上でも大切な取り組みだと考えますので、継続していってほしいです。
△	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域との連携強化と企業の参画促進に期待する。 ・子供会や公民館行事に取り入れてもらえるようにし、地域住民へ広める方法を工夫してほしい。 ・引き続きデジタルとリアルを連動させながら市民の関心を高めていってほしい。 ・郷土教育は大切なので、郷土学習の授業の一環にコンテンツを役立ててほしい。
×	0	

令和6年度

輝く羽咋 デジタル総合戦略 進捗管理シート

VI スマートシティを推進する																													
6	4 デジタルディバイドの解消とデジタル人材の活用																												
	4 デジタルディバイドの解消とデジタル人材の活用																												
重要業績評価指標(KPI)																													
地域ごとのスマホ教室開催数																													
																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>最終目標値 令和9年度</th><th>基準値 令和4年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域ごとのスマホ教室開催数</td><td>50回</td><td>5回</td></tr> </tbody> </table>			最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度	地域ごとのスマホ教室開催数	50回	5回																						
	最終目標値 令和9年度	基準値 令和4年度																											
地域ごとのスマホ教室開催数	50回	5回																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th><th>令和7年度</th><th>令和8年度</th><th>令和9年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td><td>20回</td><td>30回</td><td>40回</td></tr> <tr> <td>実績値</td><td>33回</td><td>0回</td><td>0回</td></tr> <tr> <td>事業費予算額</td><td>2,040千円</td><td>2,000千円</td><td>0千円</td></tr> <tr> <td>事業費決算額</td><td>1,343千円</td><td>0千円</td><td>0千円</td></tr> <tr> <td>年度目標に対する達成率</td><td>165.0%</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> <tr> <td>基準値に対する増減率</td><td>560.0%</td><td>-100.0%</td><td>-100.0%</td></tr> </tbody> </table>		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	20回	30回	40回	実績値	33回	0回	0回	事業費予算額	2,040千円	2,000千円	0千円	事業費決算額	1,343千円	0千円	0千円	年度目標に対する達成率	165.0%	0.0%	0.0%	基準値に対する増減率	560.0%	-100.0%	-100.0%
令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度																										
目標値	20回	30回	40回																										
実績値	33回	0回	0回																										
事業費予算額	2,040千円	2,000千円	0千円																										
事業費決算額	1,343千円	0千円	0千円																										
年度目標に対する達成率	165.0%	0.0%	0.0%																										
基準値に対する増減率	560.0%	-100.0%	-100.0%																										
担当課評価	○																												
評価の理由	スマホ教室は市内各地で年33回(66講座)実施し、各講座の参加率も高く、利用者の満足度も高い。																												
PLAN 取組内容	・スマホやアプリの活用方法を学ぶスマホ教室の開催																												
DO 事業スケジュール 課題など	(1)高齢者向けスマホ教室 ・全公民館等において、全66講座実施予定(R6.7月～R7.3月予定) ・スマホの基本操作から、安全安心メール、公式LINE、電子申請など幅広い活用に対応できるカリキュラム (2)デジタル人材育成研修 DXの先進企業と連携し、視察や研修等によりDX化手法等のノウハウを学ぶ機会を創出																												
CHECK 3月末時点 1年間振り返り 及び効果検証	(1)高齢者向けスマホ教室 スマホ教室の利用者アンケートでは、満足度の高い意見が多く、評価も高く、今後の継続開催を求める要望が多い。(詳細下記) ・全公民館、ラクナにて、66回実施 ・参加人数 278名 ・受講者の94%が「説明がわかりやすかった」と回答 ・受講者の99%が「講座内容が役にたつ」と回答 ・その他、「継続受講したい」「わかりやすかった」「受講してよかったです」等の回答多数あり (2)デジタル人材育成 ・8月下旬 職員向けDX研修会実施 GISとデータ連携基盤(データ公開サイト)の2つの地図システムを活用し「業務効率化」「調査・分析」「価値創造」を図ることを促進。																												
ACTION 今後の方向性	高齢者向けスマホ教室は受講者の満足度が高く、また継続要望が強く、引き続き継続実施予定。 ただし、開催場所については、現状の公民館、ラクナを基本とするものの、幅広く受講者を増やすため、開催場所の拡充等について検討する。																												

有識者会議による検証評価

令和6年度

評価	総数	意見
◎	2	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けの教室は、とてもニーズがあり、喜ばれていると思う。一方で、なかなか足を運べない方もおいでいるように感じる。周知の方法、場所の工夫、町レベルでの呼びかけや教室の良さ・効果をわかりやすく伝えていくとより成果が上がると思う。 ・スマホやアプリの活用方法を学ぶスマホ教室を開催することはとても良い取り組みだと思います。高齢者のこういったスマホ教室以外にも、若者向けのネットリテラシー教室等を開催したら良いと思いました。
○	5	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした詐欺被害防止対策もお願いします。 ・スマホ教室参加者から高評価を得ている。より多くの方に広めていって欲しい。 ・利用者の満足度の高さは利用者のニーズをしっかりと把握して企画・運営が行われている証左であり、引き続きニーズを的確に把握・分析しながら取り組んでいってほしい。 ・開催場所の再検討をお願いし、引き続き推進していってほしい。 ・スマホを活用できるお年寄りが増えるのはよいことではあります。
△	0	
×	0	